2009年　風来坊　　Country Walk

里歩き･山歩き　&　山口･美祢･美祢の四季　2009

Mutsu Nakanishi Home Page より
http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/

2010. 1. 15.

By　Mutsuo　Nakanishi

2009年　風来坊 Country　Walk　総　覧

里歩き・山歩き　& 山口・美祢・長門の四季

風来坊　Country Walk 【8】　山歩き・里歩き　2009.

■　Country Walk　里歩き　2009.

1. ２月陽だまりハイク　**　工都 尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk　2009.2.4.　9walk01.pdf
   1. 工都尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk
   2. 尼崎港閘門・尼ロック　解説　（インターネットより）
2. 謎の古代石造物・石の宝殿 と竜山石を訪ねて　2009.2.27.　9walk02.pdf
   古代からの石切りの郷 高砂市「生石（おおしこ）」Walk
3.【写真アルバム】 東近江　陽だまり walk　2009.3.15.　9walk03.pdf
   縄文のウッドサークル　能登川正楽寺遺跡と近江八幡　左義長祭りを訪ねる
4.【写真アルバム】　西播磨佐用　たたらの里に咲く「カタクリと一本桜」を訪ねる　2009.3.31.　9walk04.pdf
   兵庫県佐用町〔旧三日月町　弦谷　& 旧南光町徳久・漆畑　〕
5.【写真アルバム】 ほのぼの鉄道　福井　えちぜん鉄道と雪を戴く白山連峰　2009.4.3.　9walk05.pdf
   参考　弥生後期から古墳時代にかけて　福井平野は鉄の先進地
6.【写真アルバム】　樹齢 1500 余年　岐阜県揖斐川　根尾谷に咲く「淡墨桜」　2009.4.8　9walk06.pdf
7.【写真アルバム】　関西のツツジの名所　三室戸寺を訪ねる　2009.5.5　9walk07.pdf
8.【写真アルバム】　摂津／播磨国境の証し?　白川峠　夫婦岩　裏山の白川峠に磐座を訪ねる　2009.5.20.　9walk08.pdf
   古代　西国からの出入口　須磨　摂津・播磨の国境は山越か?　その証しかも　??
9.【スライド】 六甲高山植物園 「初夏 6 月　高山植物　花 Walk 」　2009.6.8　9walk09.pdf
10.【写真アルバム】 「ひまわりの夏 2009 」　2009.7.31.　9walk10.pdf
   たたらの里　西播磨佐用町西下野に咲くひまわり
11.【写真アルバム】　江戸時代にタイムスリップした宗教都市の町並み「寺内町　富田林」　2009.8.15.　9walk11.pdf
12.【スライド】 伏条台杉〔芦生杉〕の群生地　京北町　片波川源流　2009.9.14　9walk12.pdf
   京都北山　桂川・由良川の源流地帯に屋久杉クラスの巨木の群生地がある
13. 初秋の青森・秋田風来坊 【1】　2009.9.4-7　9walk13.pdf
   青森 初秋の風物詩　岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」
   1. 青森初秋の風物詩岩木高原「嶽キミ」Walk　2009.9.4.&9.5.朝
   2. 三内丸山縄文遺跡「縄文のお月見」　2009.9.5.
14. 初秋の青森・秋田風来坊 【2】　2009.9.6-7　9walk14.pdf
   秋田県中央　マタギの里「森吉山」Walk と 縄文の環状列石　鷹巣・伊勢堂岱遺跡再訪
   1. マタギの里 阿仁　リンドウの花満開の森吉山ハイク　2009.9.6
   2. 鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪　2009.9.7
15.【写真アルバム】　2009 年秋点描　コスモスから紅葉へ　2009.10.　9walk15.pdf
16.【スライド】　2009 年秋　京都　紅葉ライトアップ　紅葉 Walk　2009.11.15.　9walk16.pdf

山 口・美祢・長門の四季【7】2009.

■　山口・美祢・長門の四季 2009

1.【写真アルバム】　霧雨に煙る美祢の６月　2009.6.5.　7mine01.pdf
2. 摂萩焼の主原料土「大道土」の採取地　鋳銭司・大道を訪ねる　2009.6.6.　7mine02.pdf

2009 年　風来坊 Country　Walk　もくじ

里歩き・山歩き　& 山口・美祢・長門の四季

風来坊　Country Walk 【8】　山歩き・里歩き　2009.

■　Country Walk　里歩き　2009.

1. ２月陽だまりハイク　**　工都 尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk　2009.2.4.　9walk01.pdf
   1. 工都尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk
   2. 尼崎港閘門・尼ロック　解説　（インターネットより）
2. 謎の古代石造物・石の宝殿 と竜山石を訪ねて　2009.2.27.　9walk02.pdf
   古代からの石切りの郷 高砂市「生石（おおしこ）」Walk
3.【写真アルバム】 東近江　陽だまり walk　2009.3.15.　9walk03.pdf
   縄文のウッドサークル　能登川正楽寺遺跡と近江八幡　左義長祭りを訪ねる
4.【写真アルバム】　西播磨佐用　たたらの里に咲く「カタクリと一本桜」を訪ねる　2009.3.31.　9walk04.pdf
   兵庫県佐用町〔旧三日月町　弦谷　& 旧南光町徳久・漆畑　〕
5.【写真アルバム】 ほのぼの鉄道　福井　えちぜん鉄道と雪を戴く白山連峰　2009.4.3.　9walk05.pdf
   参考　弥生後期から古墳時代にかけて　福井平野は鉄の先進地
6.【写真アルバム】　樹齢 1500 余年　岐阜県揖斐川　根尾谷に咲く「淡墨桜」　2009.4.8　9walk06.pdf
7.【写真アルバム】　関西のツツジの名所　三室戸寺を訪ねる　2009.5.5　9walk07.pdf
8.【写真アルバム】　摂津／播磨国境の証し?　白川峠　夫婦岩　裏山の白川峠に磐座を訪ねる　2009.5.20.　9walk08.pdf
   古代　西国からの出入口　須磨　摂津・播磨の国境は山越か?　その証しかも　??
9.【スライド】 六甲高山植物園 「初夏 6 月　高山植物　花 Walk 」　2009.6.8　9walk09.pdf
10.【写真アルバム】 「ひまわりの夏 2009 」　2009.7.31.　9walk10.pdf
   たたらの里　西播磨佐用町西下野に咲くひまわり
11.【写真アルバム】　江戸時代にタイムスリップした宗教都市の町並み「寺内町　富田林」　2009.8.15.　9walk11.pdf
12.【スライド】 伏条台杉〔芦生杉〕の群生地　京北町　片波川源流　2009.9.14　9walk12.pdf
   京都北山　桂川・由良川の源流地帯に屋久杉クラスの巨木の群生地がある
13. 初秋の青森・秋田風来坊 【1】　2009.9.4-7　9walk13.pdf
   青森 初秋の風物詩　岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」
   1. 青森初秋の風物詩岩木高原「嶽キミ」Walk　2009.9.4.&9.5.朝
   2. 三内丸山縄文遺跡「縄文のお月見」　2009.9.5.
14. 初秋の青森・秋田風来坊 【2】　2009.9.6-7　9walk14.pdf
   秋田県中央　マタギの里「森吉山」Walk と 縄文の環状列石　鷹巣・伊勢堂岱遺跡再訪
   1. マタギの里 阿仁　リンドウの花満開の森吉山ハイク　2009.9.6
   2. 鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪　2009.9.7
15.【写真アルバム】　2009 年秋点描　コスモスから紅葉へ　2009.10.　9walk15.pdf
16.【スライド】　2009 年秋　京都　紅葉ライトアップ　紅葉 Walk　2009.11.15.　9walk16.pdf

山 口・美祢・長門の四季【7】2009.

■　山口・美祢・長門の四季 2009

1.【写真アルバム】　霧雨に煙る美祢の６月　2009.6.5.　7mine01.pdf
2. 摂萩焼の主原料土「大道土」の採取地　鋳銭司・大道を訪ねる　2009.6.6.　7mine02.pdf

2009.3月　和鉄の道より転載

1.

2月陽だまりハイク　工都 尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk

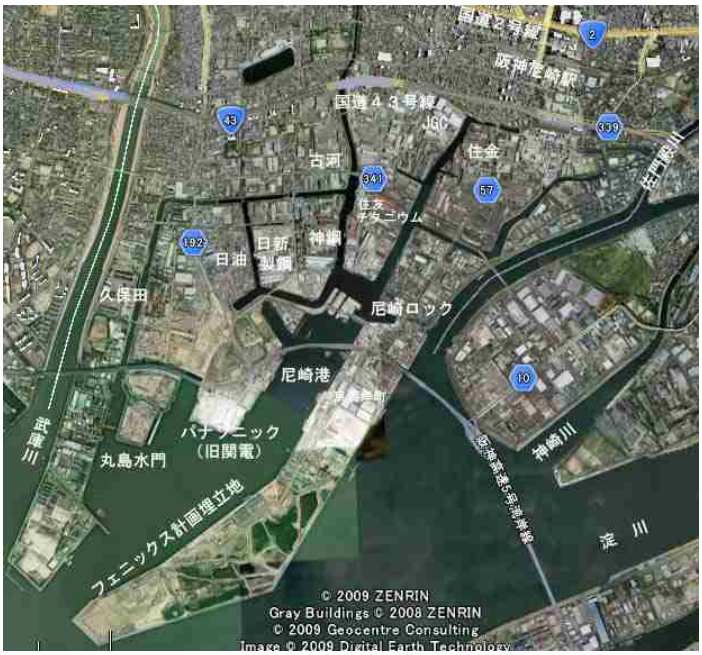
兵庫県尼崎市　2009.2.4、

「鉄の街・工都尼崎」のシンボル　尼崎港閘門・尼ロック

日本の高度成長を支えた阪神工業地帯の中核「工都　尼崎」「鉄の街　尼崎」。ここに住む人たちは「尼崎」とは言わず、親しみをこめて、「尼」と呼ぶ。

私の故郷であり、神戸に移り住んだ後も、技術屋としての勤務地として通い続け、今も多くの仲間がいる街である。かつては公害・煤煙の町と名をはせた尼崎ですが、今「工都尼崎」から「公園都市　尼崎」へと変貌が進んでいる。　日本の産業構造の変化とともに、工場街の活気あふれた喧騒の風景は消えたが、お膝元阪神タイガースの熱烈なファンがあふれる庶民の街である。

市域の南側約半分がゼロメートル地帯の「尼」では、河は自然に海へは流れず、街は防潮堤と水門に守られ、川の水は河口に据えられたドデカイ排水ポンプで海へ排水される。したがって、南の工場街につながる尼崎港に入る船は港の入口にある尼崎港閘門（尼ロック）と呼ばれるパナマ運河式の「閘門」で水位を調整して入ってくる。



尼崎南部　ゼロメートル地帯と尼ロック

もっとも　現在は海岸の地先の埋め立てが進み、防潮堤の外側にも大型船がつけられる岸壁ができている。（東海岸町）

尼崎港の閘門から港に入り、直接工場の岸壁に横付けされる数々の船の姿は　４３号線のすぐ南「住友金属鋼管製造所の三本煙突」や一番南の海岸沿いにあった「」関西電力の３つの発電所　６本煙突と共に「工都尼崎」を象徴するシンボル。
住金の三本煙突が消え、海岸の関電　3 発電所がパナソニックの大工場にすっかり衣替えして、工都尼崎のシンボルは尼崎ロックのみになってしまいました。

　現在　この尼ロック周辺は阪神間の海岸沿いを結ぶ「なぎさ回廊」として　美しい河川護岸公園として整備されていると聞いてはいましたが、長いこと出かけたことなく、また、かつてほどの活気はなくなったと聞くが、阪神工業地帯の中核　尼崎南部の工場街も、煙突が立ち並ぶ姿からは大きく変貌しましたが、健在である。

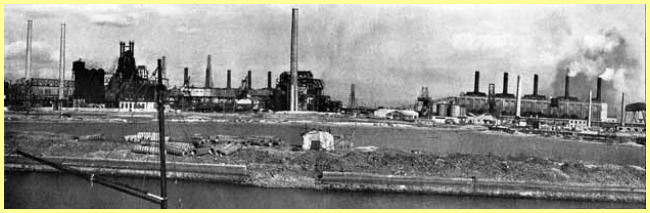
　しかし、この南部の工業地帯も　阪神電車の車窓から変化してゆく姿を眺めるのみでもう十年足をふみいれたことなし。
かつて「鉄鋼・機械」を中心に日本を支えたとした重厚長大の製造業がその中心を自動車・エレクトロニクスに移し、それにもまた、今　陰りの見える日本の製造業。
なぎさ回廊へ変貌をとげた尼ロックや南部の工業地帯。
「尼崎の工場街がどんな変貌を遂げ、さらに　次にこの産業都市を支える製造業とは何なのか?」
それを知りたくて、　ぽかぽか陽気の２月４日　わが故郷　尼崎の工場街から　尼崎ロックまで歩きました。
そんな　変貌を遂げた尼崎の工場街・尼ロックの写真です。
皆さんには　どのように　映るでしょうか・・・

尼崎　南部の工業地帯　今　昔　インターネット写真より

騒音と煙の姿はかつての尼崎の工業地帯　活気の象徴

ハイテク化された現在の工場街は　静かさと青空を取りもどし、整然と建ち並んでいる

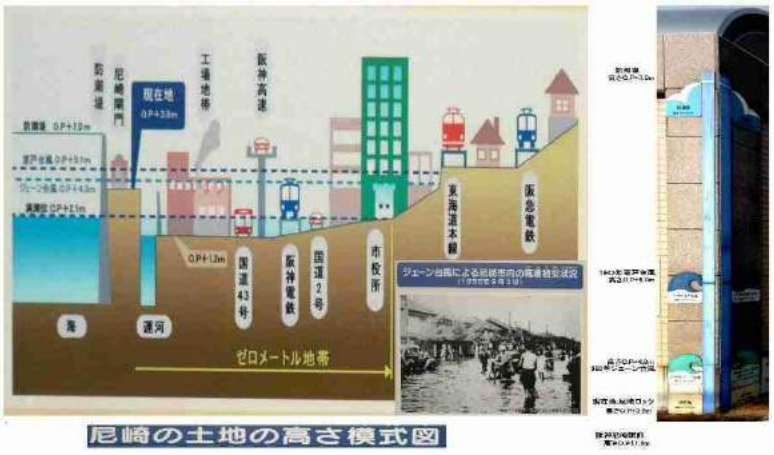
なぎさ回廊に整備された尼崎南部工場街とそれを結ぶ運河　　2009. 2. 4.



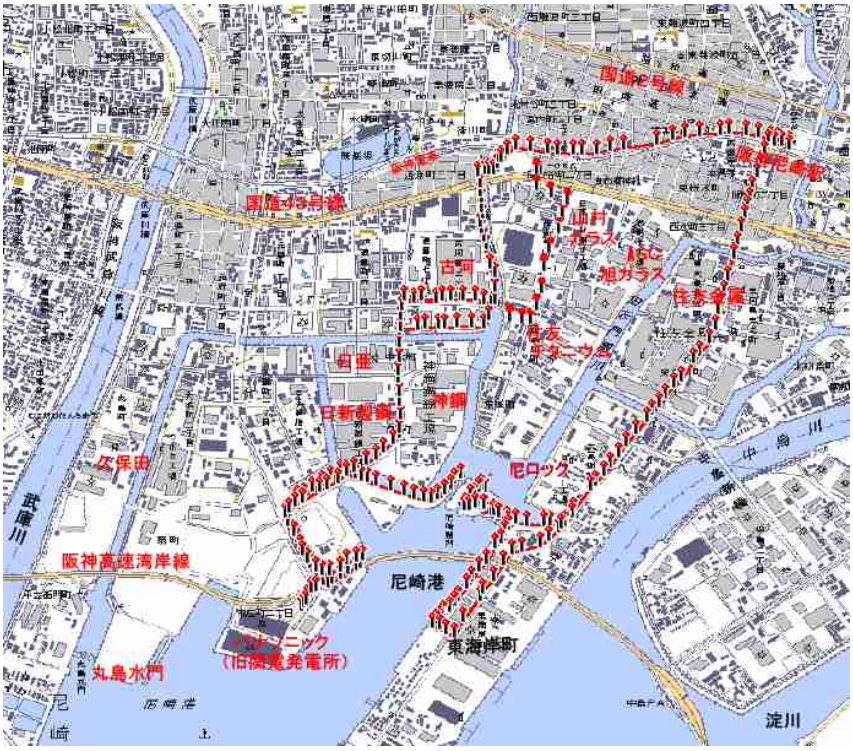
かつての尼崎南部工業地帯　関電発電所（左写真の右手　並びに中央写真）と尼崎の南部工業地帯

1.　「 工都　尼崎 」南部工場地帯　尼崎閘門・尼ロックを歩く

阪神工業地帯の中核　尼崎南部の工場街風景　　阪神電車尼崎駅周辺車窓より



市域の南約半分がゼロメートル地帯の尼崎　阪神尼崎駅前で GPS ロガーは標高 0m や-1m の数値を示した



阪神電車が武庫川を渡って高架を尼崎に入るとその南側には尼崎の工業地帯が広がっている。いつも見慣れた光景である。煤煙が覆い尽くされる工都のイメージはなく、青空を取り戻した工場街が広がっている。本当に青空だけでなく、河の護岸そして工場街そして町並みが目に見えて美しくなっている。でも南の工場街にここ 10 数年足を踏み入れたことなく、今日は一日ゆっくり、南の工場街を歩くつもり。

　尼崎は東から西へ　南北に流れる神崎川　庄下川　武庫川に挟まれ、東西に市域をほぼ等間隔に平行に 3 本の電車と幹線道路が走る。南の大阪地先の埋立地をかすめて東西に走る阪神高速道湾岸線から　阪神高速道が上を走る国道 43 号線までが南部工業地帯でそれより北側に阪神電車・阪神国道（国道 2 号線）・JR 東海道線・山手幹線と名神高速道路・阪急電車である。

そして、市域の約半分を占める国道 2 号線・JR 東海道線あたりまでが、ゼロメートル地帯。

1950 年のジェン台風の高潮でこの一帯が水没。幼い時であるが水没した周辺の記憶が今もはっきり残っている。

これを契機に尼崎の海岸部から川筋には尼崎を取り囲む巨大な防潮堤が築かれ、海からの水の浸入を防ぐと共に、河からの排水は河口近くに作られた水門・大ポンプ場から強制排水する体制がつくられた。一方　港にはパナマ運河方式の閘門が築かれ、海の水位から港内の河の水位へ水位調整して港内の運河・工場街に入る。

すごいものができたと活気あふれる工場街を通って　何度か見学に行った記憶がある。今は護岸をかねて遊歩道が、川筋をめぐり、美しく整備されたという尼ロック。また、そのすぐ南にはすぐ最近まで、カラフルに塗られた建物で、元気に煙突から白煙を吹き上げる関電の尼崎発電所があった。現在　ここはパナソニック PDP の主力工場に変身し、今もさらに大拡張工事が進められて、新しい産業立地として　注目を集めている。　また、かつては「鉄の街」といわれ、重厚長大産業の中核地も尼崎の青空が象徴するようにハイテク化が図られ、大きな変貌を遂げている。

今日は一日　ゆっくり工場街から尼崎港閘門・尼ロックまで歩くつもりで、阪神尼崎駅前で地図をながめながら、Walk の道筋をおおまかに決める。工場街とともに忘れかけていた次ぎのようなことも思い出した。

尼崎の工場街は南部一帯に広がり、その中心に尼ロックがあるのですが、ここを境に東西二つに分かれ、国道 43 号線まで　この 2 つのブロックを渡る橋がない。また、尼ロックもその中を東西に渡ることは中の勤務員でないとできない。何本も幹線道路があるといっても　工場街の交通は国道 43 号線から櫛状で、西のブロックは阪神の出屋敷駅　東のブロックは尼崎駅からなのである。（もうひとつ西に武庫川沿いの丸島・大浜のブロックがある）

GPS logger を見ると標高 1m　間違いなく　ゼロメートル地帯である。

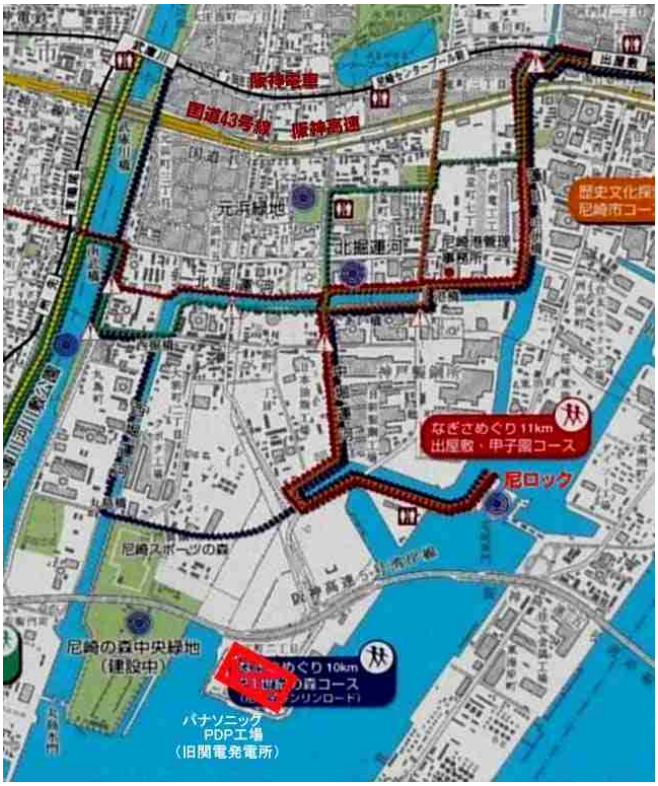
1.1.　出屋敷駅から西ブロック Walk　　パナソニック PDP 工場⇒尼崎港閘門・尼ロックへ

A.　なぎさ回廊 walking Road　　鉄の街 Walk

●　蓬川沿いなぎさ回廊 walking road を中浜へ

阪神で屋敷駅前

春・夏の高校野球の宿舎となる駅前の尼宝館も健在



出屋敷から尼崎ロックまでのなぎさロード図

蓬川沿い遊歩道から北　阪神電車がみえる

蓬川沿い南へ　港へ遊歩道が整備されている

出屋敷駅のすぐ西の蓬川の両岸は緑地に整備され、工場街の塀に沿って港へ遊歩道が続く

出屋敷駅のすぐ西の蓬川の両岸は緑地に整備され、工場街の塀に沿って港へ遊歩道が続く（2）

中洲橋より　左　西高洲　左　運河南　中浜　運河北　道意

写真中央　一番奥に　南端　海の地先を東西に横切る阪神高速湾岸線が見える

空は青空　工場からの騒音　煙もなし　休日か?と見間違うばかり　かつての工場街から大きく変貌している

かつては鉄鋼業の工場が立ち並び鉄の街の中心　中浜周辺

工場のハイテク化も進み、新しい工場も建ちまるで　新しい工業団「煙突・騒音の鉄の街」のイメージは消え、

美しく整備された緑の運河ロードに囲まれた「新しい鉄の街」の顔が見える

北からまっすぐ港へ　工場街を貫く幹線道路　コベルコ前　道意６丁目の交差点

工場街への自動車がひっきりなし　工場の騒音は消えましたが、ひっきりなしの自動車の列　やっぱり鉄の街である

道意と中浜をつなぐ港橋の袂に尼崎港管理事務所が建つ　玄関に子供が描いた尼崎港閘門の絵がありました

中に入って　尼ロックの閘門の開閉時間を聞くが、不定期で船が寄ってくると開閉され、ここではわからぬと

針金の日亜鋼業　ステンレスの日新製鋼　ワイヤーロープの神鋼鋼線　それに住金から展開したガスのエアウオータ

いずれもよく知った鉄の顔　　素材メーカーで目立たないが、それぞれ鉄の高級先端企業　その健在にほっとする

それぞれにこのハイテク化の時代への数々のドラマがあったろう。外からは見えないが、工場街の変化にそれを垣間見る

どの工場も高潮の経験から　コンクリートの高い塀に囲まれ、水害から身を守った痕跡が見える

なんせ　　平常時でも海の水位の方が高いゼロメートル地帯である

中浜の島の一番南端　鶴町の逆Ｔ字の交差点　右手　南西へ　運河を越える高い高架橋

この高架橋を超えると尼崎の南端　末広町

かつて　阪神工業地帯を支えた関電　尼崎３発電所があった末広町　いまパナソニック PDP の大工場が立つ

この島の一番北東の端が尼崎港の入り口　尼ロック・尼崎港閘門がある

閘門から港の中に入った船が通る運河を越えるため背の高い高架橋　側道から運河の際で高架橋に登る

振り返ると今歩いてきた中浜から東の工場地帯がみえる

●　中浜と末広町をつなぐ高架橋　工場街　360 度の展望　　尼崎の工場地帯が手にとるよう

高架橋の東側　運河の左沿い奥が尼崎港閘門　正面が大阪湾を渡る阪神高速湾岸線　右端　パナソニックの大工場

高架橋の正面　パナソニックの二つの大工場

西側　運河は工場街へ　工場街の向こうに六甲連山

尼崎港閘門　尼崎ロック　　運河沿いに整備された公園が尼崎ロックへ続いている

正面　運河の向こう中央を横に見える水路が閘門の外　高速道路をくぐって大阪湾につながる水路で

この水路の左手　正面　建物が重なっている所が尼崎ロック　上部に広い横長窓の管制室が見える

尼崎港閘門　尼崎ロック周辺　末広町運河　　左手が尼崎ロックへの道

高架橋のすぐ下に尼崎ロックへの道が見えるのですが、高架橋を渡りきって引き返さないとこの道に入れない

また　右手末広町は　島全体がクレーンが立ち並び　車が走りまわるパナソニック工場建設現場

● 関電３発電所の跡地　パナソニック 巨大な PDP ライン ２工場　（末広町）

尼崎の南の端　末広町　旧関電発電所跡に建設されたパナソニック　PDP の２工場
阪神高速湾岸線から眺められた３つの発電所が消え、２つの長方形の箱　さらに増設工事が進められている
四角の箱は全体がクリーンルームのハイテク工場の典型ですが、とにかくドデカイ
　　この工場が今後どのように展開するか・・　日本の未来がかかっているという

B.　尼崎港閘門・尼ロック なぎさ公園　（第二閘門）

高架橋の下　尼ロックまで、よく整備された海浜公園が広がる

a.　尼ロック・尼崎港閘門　港内側

ｂ．尼ロック・尼崎港閘門　港内側

2 つある閘門の西側閘門（第二閘門）の制御室とそこから延々と尼崎の水際を巡る防潮堤

尼崎港閘門・尼ロック　第二閘門　　左:港内　右:港外

水門の港内側

水門の港外側

閘門の水門は水位が高く水圧の高い港外側が弧状になっている

閘門の施設の中には入れないのと、上から全体を眺める施設がないので、全体像がつかみにくい。また、この第二閘門に並んで　東側にある第一関門側へ簡単に行けるものと思っていましたが、それもだめでした。施設の中では　ドッグの中央部両側

にすえられている門型の装置が 90 度回転してドッグに橋がかけられるのだろう。また、水門の上にも手すりが見えるので、施設の中ではこれを利用しているのだろう。

ハッと気がつきましたが、一般的には、43 号線まで戻らぬと対岸へは渡れない。

1950 年ですから、まだ、小学生の頃　ジェーン台風の壊滅的打撃から、ゼロメートル地帯の尼崎を高潮から守るため、大防潮堤とこの尼崎閘門が建設された。そのとき　必要になった膨大な土は現在尼崎センタープールとして、競艇場になっている池。これらの施設が完成したときこの池周辺で博覧会が開催されたことと　ちょっと強い雨が降ると下水管から逆流した水が溢れ出したり、なんども浸水した時の幼い記憶。

「もう巨大な防潮堤ができたから、尼崎は安全。」

「また、日本一の尼崎港閘門もできた」

何度も聞いた尼崎の生命線。　騒音と煙たなびく工場街を抜けたもっと殺伐としたごちゃごちゃした場所に「閘門」があったと記憶していましたが、こんなにきれいななぎさ公園が整備されているとは　まったく知りませんでした。周辺の工場街を抜ける散歩道も含め、「公園都市　尼崎」のイメージが着々と実現しているのにもびっくりです。

尼崎港閘門の響きが悪いのか最近は「尼ロック」と呼ぶのが標準。

ここまできたら　尼崎港閘門・尼ロックの全体の姿を眺めたい。反対側にやっぱり行ってみたい。帰りは、中浜まで引き返し、新たにリニューアルされたハイテク工場が立ち並ぶ　蓬川の東側「西高洲」「西向島」の工場街を通って、阪神尼崎駅へ。

そこからまっすぐ　五合橋線を南へ東ブロックの工場街を抜けて、再度　尼崎港閘門・尼ロックへ出ることにする。

C.　リニューアルされたハイテク工場が立ち並ぶ　蓬川の東側「西高洲」「西向島」

道意 6 丁目から東の西高洲を結ぶ 県道 341 号西高洲町周辺

西高洲町の卜字交差点東側の住友チタニゥム

リニューアルされたハイテク工場が立ち並ぶ　蓬川の東側「西高洲」

国道 43 号線と県道 341 号線の角　山村ガラス

国道 43 号線沿い東側　AGC 旭硝子

西高洲町の北側　西向島

国道 43 号線までもどってくるとすぐ阪神電車の出屋敷駅・尼崎駅

そのまま国道 43 号線を東に行って、旭硝子・住金の工場の東から五合橋線を南へ下れば、再度尼ロックである。

遅い昼食を済ませて、再度尼ロックへ行くことにして、阪神尼崎駅へ

1.2.　阪神尼崎駅から　五合橋線をまっすぐ南へ　尼崎港閘門・尼ロックへ

東向島　住金の工場街を抜けて　大高洲・東海岸町へ　　（東ブロック Walk）

五合橋より南　東向町　住金工場街

尼ロック　第一閘門の水門

阪神尼崎駅前

かつて、阪神尼崎と JR 尼崎の駅前に　標高と共　台風時の水位を示す標識があったのですが、今は防潮堤に守られて無意味になったのか　なくなっていました。

遅い昼食を摂って、次は東側から尼崎港・尼ロックを目指す。

技術屋として　何度も入った住金鋼管製造所の工場が立ち並ぶ一角。（東向町）　随分　新しい分野の工場や中身が変わったと聞いていますが、工場は本当にふるいのですが、リフレッシュされ、今も石油掘削用油井管や耐熱ボイラー用鋼管などの世界のトップブラント。　また、その南　東高洲・　尼崎ロックのある大高洲を通って、一番南　防潮堤の外側にはフェニックス計画処分地で埋め立てられて、東海岸町の新しい街ができ、尼崎港閘門を通らずに大型船が接岸できる埠頭や工業用地・物流拠点ができている。

もう、新しい街というより、出来上がって　数十年たっていますが、「尼崎」にとっては　リニューアルされた新しい街のひとつです。

五合橋から南　五合橋筋の工場街

国道 43 号線を渡って築地の古い町並みを抜け

五合橋を渡るともう居住区はなく、海まで工場街が広がる

　通いなれた地区　この東向島・東高洲・東海岸町の工場街を結ぶ道路はその中央をまっすぐ南へつらぬく、五合橋線のみ。やはり、西ブロックとおなじ。往復せねばならないので、阪神尼崎駅からタクシーで大高洲まで行って、そこから尼崎港閘門・尼ロック Walk（東ブロック）をはじめる。

A.　大高洲　東浜　尼崎港閘門・尼ロック　第１閘門

大高洲から　旧防潮堤に沿って　西へ　右手奥に尼崎港閘門・尼崎ロックがみえる

大高洲　　旧防潮堤

尼ロックの手前　　東浜排水場

内港・河川の水を海へ排水する巨大配水管

旧の尼崎の南端　大高洲の信号のところで降りて、尼ロックへ。 旧の防潮堤の南側にも街ができ、南側は防潮堤の高さに埋め立てられているが、旧の防潮堤の内側は本当に低い。

「底」の感じがする。この防潮堤の先に尼ロックが見えている。この旧の防潮堤の内側に沿って西へ 300m ほど行くと　四角い建物の壁から地中へ逆Ｌ字型に巨大な配管が 5 基突き出している。 尼崎港閘門・尼ロックに隣接して設けられた東浜排水場である。

防潮堤の高さとこの巨大排水管から、この一帯がゼロメートル地帯であること思い知らされる。

この防潮堤の向こうは海である。

実は入り口のところに立入禁止の札があったのですが、人っ子一人おらず、門も開いていたので、管理事務所で受付すれば良いと思って入ってきました。

後で判ったのですが、この尼崎港閘門・尼ロックの東側施設域に立ち入るには、尼崎港管理事務所で事前の申し込みが要るようです。（ 朝　西側ブロックにある尼崎港管理事務所に立寄りましたが、 そんなこと　一言も出ませんでしたが・・・・。
また、港管理事務所へ行くとなると　これまた大変。 グルーッとひとまわりです。 ）

東浜排水場　の巨大排水管　5 基並んでいる

防潮堤で市域を囲まれた尼崎
北市域の排水を武庫川に流す排水場がほかにあるが、市域の南部分の排水・河川・尼崎内港の排水を受け持つ巨大排水官である

東浜排水場　　尼崎港閘門集中コントロールセンター

排水場の横を抜けるとパッと視界が開け、内港が見渡せる尼崎港閘門・尼ロックの駐車場広場

（ 写真は 内港の中に浮かぶ 尼崎ロック の敷地 北側から 左手の建物の間を抜けてきた。
右手の集中コントロールセンターの裏側が尼崎ロック。 白い建物が第一閘門の管制室である）

尼ロック諸施設 案内板

地盤沈下計測所

集中コントロールセンタ 後 第一閘門

管制室

外港側 水門

内港側 水門

水門の上で補修手入れをしている勤務員の方が見える。 唯一の人。集中センターの中に入って、上方から閘門見られないかと尋ねると「事前見学申請しないとダメだ」という。 名前をなのって 「水門と海側の写真だけ取らせて」とちょっとだけ水門に登らせてもらった。 銚子で利根川河口の逆水門の上を何度も通ったことがあるが、閘門の水門の上へ立ったのははじめてである。

尼崎港閘門　第一閘門の水門の上から　　2009.2.4.

海水面が見えるが、本当のところ ドックの中との水位差はよくわからない。 でも、一番見たかった景色である

手すりはあるもののやっぱり ドデカのと 足がすくむ

尼崎ロック　尼崎港内側

B.　尼ロックから　防潮堤の外側　東海岸町　埠頭へ

大阪湾側から　尼崎港　閘門・尼ロック　　2009.2.4.

尼ロックをでて、防潮堤を越えて南　東海岸町　岸壁沿いに歩いて　　阪神高速湾岸線　高架橋周辺から

右手　尼崎ロックをセンターに両側に防潮堤が延びる　　左　海を挟んで阪神高速湾岸線　奥にパナソニックの 2 工場

大型船が接岸できる東海岸町の公共埠頭　　対岸にパナソニックの工場が見える　　2009.2.4.

大型船が接岸できる東海岸町の公共埠頭　周辺　　高潮を防ぐ防潮扉

防潮堤の外側の埋立地であるが、岸壁にはやはり防潮扉が敷設されていた

C.　東海岸町からまっすぐ北へ工場街を歩いて　阪神尼崎へ

大高洲の信号前から　北へ　五合橋線　　2009.2.4.

大高洲と東高洲をつなぐ東高洲橋　片側開閉橋であるが、最近実用されるのを見たことがない　2009.2.4.

ここから北　東高洲・東向島は住金鋼管製造所とその関係会社が立ち並ぶ。 以前この中を仕事でよく、歩き回ったものである。

ここまで　帰ってくると　昔の記憶が次々よみがえる。

この一角に三菱電線の工場　ひとつだけが食い込んでいる　今はどのようになっているのだろうか??

東高洲・東向島　道の両側には住金とその関連会社の工場群　　三菱電線の工場も健在
見慣れた光景であるが、ここでも　高潮防止の高いコンクリートの塀が両側に続く
かつては　この一帯に入るとパイプとパイプがぶつかり合う甲高い「カンカン」という音がしたが、今は静かなもの
また、工場のシステムが変わったのか　ひっきりなしに道路を渡って、反対側の工場へ入るトロッコ気動車もなし。

中を見ることはできませんが、100 年の工場群。 この工場群の上にはかつて空高く 3 本の煙突がそびえ、「三本煙突」と誰もが知っている光景でしたが、それがなくなったのが、ちょっとはさびしい。それが、工場を大変革させたのかもしれませんが・・・・。
ひっきりなしに通る車と騒音　そしてよどんだ空と運河　そんなイメージが頭にありましたが、本当にすっかり変貌です。
工場街の一番北端　築地橋を渡ると　築地の市街地　昔の尼崎の中心街の一角。 すぐ北を 43 号線が走り、これをクロスするとまもなく、阪神尼崎。 尼ロックをめぐる Walk の終了です。

1.3.　尼ロックを歩いて　　100 年近い鉄の街　尼崎の工場群が語るもの

「工都　尼崎」から「公園都市　尼崎」へ。
「尼崎の街の光景はすっかり変わった」といわれながら、十数年足を向けなかった南部尼崎の工場街。
「三本煙突」も消えたし、「南の関電の発電所」も消え、 「工都　尼崎」の看板も「公園都市」へ

もう　昔　水害におびえた尼崎　防潮堤と尼崎港閘門が支えた「鉄の街・工都尼崎」の繁栄というか猛烈な時代を知る人も少なくなりました。 街の記憶がなくなる前にそんな「工都　尼崎」の工場街を歩いて　しっかり記憶にとどめておきたいと。
尼崎の工場街を自分の手でファイルに収めておきたいと　いつも　ふいに　頭にもたげるこの思い　今回やっと実現できました。

日本の高度成長を支えた工都　鉄の街　尼崎。
パナソニックが来たと沸き、工都がマイナスイメージでしか捉えられず、強欲弱肉強食のエレクトロニクス・自動車がもてはやされる産業界。でも　このパナソニックも　それほど勢いがあるかどうか　疑問の時代。
しかし、 50 年をはるかに越える時代を生き抜き、地域を支えた鉄の街がある。 そう簡単には崩れない。
今も　しっかりと街を支えているだろう。
次の工都を支える産業・製造業を　今　考えねばらぬ時代・・・　そんな知恵が「鉄の街」にはあるだろう・・・と。
「鉄の街は今?」 である。
「百年を生きる企業にはそれを生き抜いてきた「知恵」が必ずある」 そんな知恵を調べた本を読んだことがある。
「理念」と「行動指針」というと薄っぺらになりますが・・・・・・
屁理屈を言うとそんなところで
　一日　尼崎を支えてきたシンボル　尼崎港閘門・尼ロックを中心に南部尼崎の工場街をほっつき歩きました。

まずびっくりしたのは「工都　尼崎」　工場街の変身。
「工都　尼崎」から「公園都市へ」といっても　そんなに簡単に街のイメージがかわれるのか?と内心思っていました。しかし、「公害・煤煙・騒音そして薄汚れた街」そんな「工都」に描くイメージは吹っ飛んでしまいました。
「公害・煤煙・騒音そして薄汚れた街」など　どこにもなしです。
空と水の青　煤煙・騒音もなく、砂を巻き上げていた道は緑の並木へ。　鉄の街は完全に変身です。
イメージ的には新しいハイテク工業団地とまったく変わらない。

街の中心から　運河・工場街を抜けて続く walking road は本当に快適で私のイメージも変わりました。
激動のこの 10 数年　企業が変身したのは当然といえば　当然。数々の知恵が駆使され、工場街も変身です。
でも 街は変わりましたが、その中身はよく知った昔からの工場がほとんど。
「鉄の街」は変貌を遂げながら、この激動の時代を生き抜いた。
百年企業も数多く含まれる。

住む人たちからも忘れ去られようとしながらも　尼崎港閘門も　響きが悪いのか?　尼ロックに名を変え、
　防潮堤と共にそこにしっかりと尼崎を支えている。

「鉄の黒光り」という言葉があるが、まさにそれ。鉄の街に「鉄の黒光りの知恵」それが「ものづくりの知恵」だと。
名前の知った工場を見るたびに　そこに通った仲間・先輩を思い出しながら　そんなことを考えていました。
黒光りの鉄が培ったものづくりの考え方が　見直される時代が　必ず来るだろう。
それを受け継ぐのが　鉄の街　尼崎　であってほしいと。
「工都　尼崎」から「公園都市　尼崎」へとはなんと軟弱な・・・とおもってきましたが、これは両立できる。
私もこれから「黒光りの鉄」のイメージをこれにかぶせようと・・・・・。
名所旧跡もいいですが、自分の身近な工場街がこんなに素晴らしいリフレッシュ空間になっているとはじめて知りました。
お勧めです。

2009.2.4.　夕暮れの阪神電車の車窓から　「尼」の工場街を眺めながら

Mutsu　　Nakanishi

尼崎閘門(尼ロック)の概要解説

鉄の街　工都「尼崎」のシンボル　尼崎港閘門(ロック)　2009.2.4.

市域の南側約半分がゼロメートル地帯の尼崎　　そのゼロメートル地帯を水害から守る尼ロック

市域を取り囲む強固な防潮堤・水門・排水ポンプ　そして　尼崎港閘門

市域を取り囲む防潮堤

尼崎港閘門

排水場　海への巨大排水管

尼崎の土地の高さ模式図

尼崎港第一閘門　水門

尼崎閘門（尼ロック）

国土交通省 近畿地方整備局　神戸港湾空港技術調査事務所　home page より　再整理

http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kobegicyo/omona/cate2_2.html

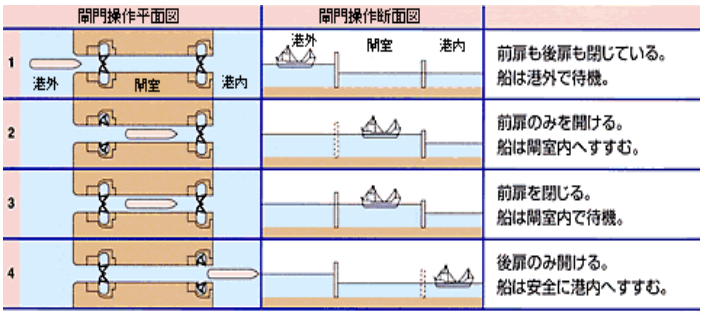
海に囲まれた日本は、常に高波や高潮などの自然の脅威にさらされています。そこで防潮堤や護岸、水門などの海岸保全施設によって、港湾の施設や背後の用地を守る必要があります。「閘門」もその一つです。

■　**大被害をもたらしたジェーン台風を契機に建設**

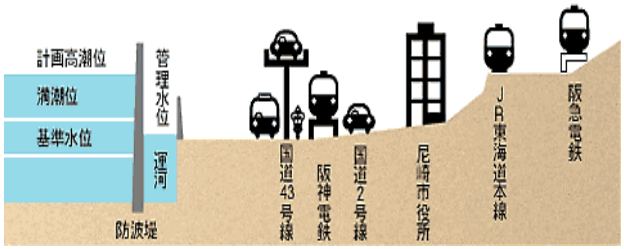
５０万人の人口を有する尼崎市は、市域の大半が「海抜ゼロメートル地帯」で、台風による高潮や波浪の猛威を幾度となく経験してきました。そのために、高潮の侵入を防ぐ護岸・水門の整備が急がれ、高潮対策を図るため、閘門式防潮堤の整備を行い、昭和２９年度に第１閘門が、昭和３９年度に第２閘門が完成しました。しかし、完成した閘門施設もその後地盤沈下や施設の老朽化が目立ちはじめたため、昭和６１年度から抜本的な改良工事が開始されました。

改良工事は、旧閘門を供用しながら行うので、２基ある閘門を１基ずつ完成させる方式をとり、１基目は、平成６年度に完成し、平成１４年度２基目の改良工事が完成。現在　新たな機能を備えた第一・第二の二つの閘門が稼動している。

■　**閘門のしくみ**



■　**海と陸の関係**



■　グレードアップした機械設備

門扉等の機械関係設備については、旧閘門の機能・構造材質などを徹底的に検証し、開閉装置の構造簡略化をはじめ、使用材料・制御設備の変更を図るなど、メンテナンスの容易な安全性の極めて高い閘門設備へと改善。

新第２閘門（平成６年度完成）

門扉取付状況

■　情報施工によるドライワーク工法の採用

改良工事は既存施設を供用しながら、しかも防潮ラインを常時確保しつつ工事を進めるため、仮締切堤によるドライワーク工法を採用しました。そして作業中の安全性を確保するため、堤内の水位 変動や仮締切堤の挙動を常時把握しながら施工を進める「情報化施工」を実施しました。

仮締切堤内での施工状況（ドライワーク）

■　集中コントロールセンター

尼崎閘門をはじめとする高潮の侵入などを防ぐ護岸・水門などの施設を最新鋭のデジタル電送網を利用し、常時監視制御（遠隔自動操作）ができる集中コントロールセンターを建設。

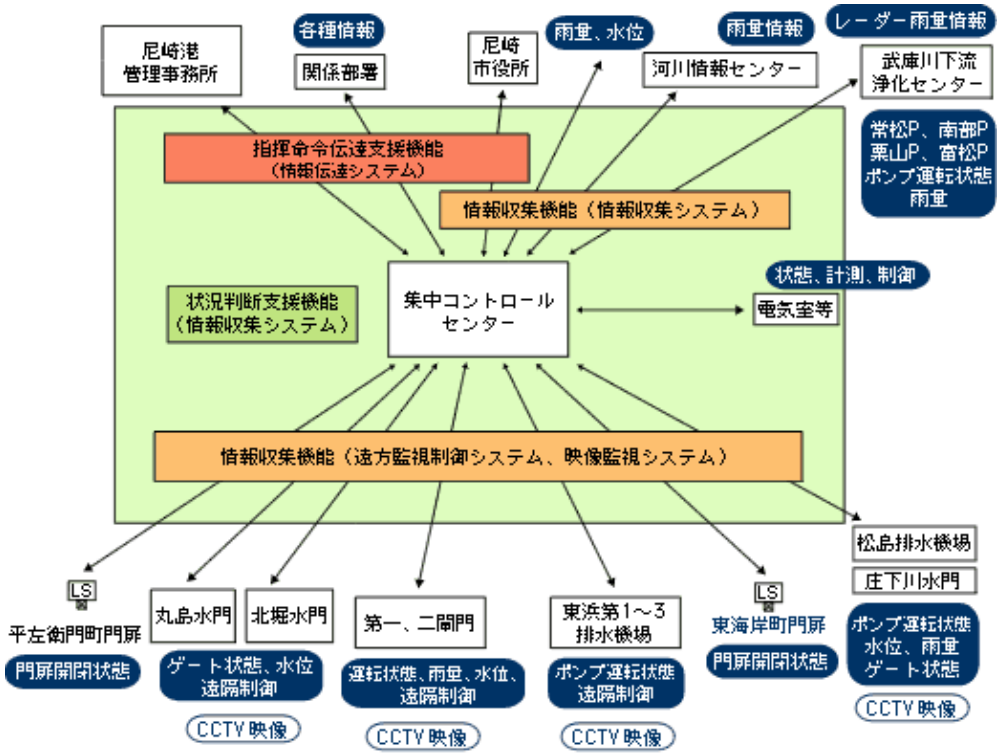
集中コントロールセンターは、施設周辺の閘門・東浜排水機場だけでなく、尼崎地区に点在する排水機場・水門・陸閘・樋門の遠隔操作、及び監視確認や河川上流の雨量情報収集など、地域の防災データを瞬時に把握し、さまざまな施設の制御しています。

樋門

陸門

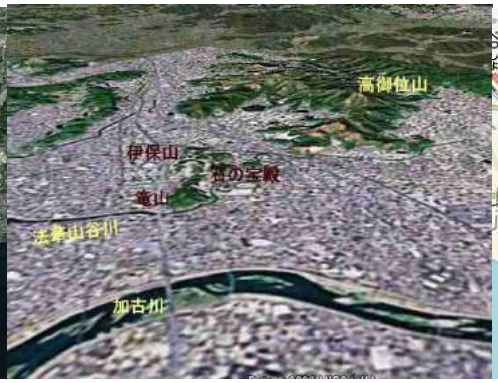
水門

■　防災システム全体系統図



2. 謎の古代石造物・石の宝殿 と竜山石　古代からの石切りの郷「生石(おおしこ)」

2009.2.27、兵庫県高砂市



石の宝殿

竜山

加古川の河口近く 瀬戸内海・播磨灘 淡路島を見晴らせる岩山 「竜山」の尾根筋の岩斜面を四角く刳り貫いた大きな空間に 謎の石造物「石の宝殿」が倒れた姿で鎮座している生石神社がある。

この謎の石造物がいつ作られたかは不明であるが、生石神社の社伝によると「神代の昔 大己貴命(大国主命)と少彦名神が出雲国から播磨国に来た際に石の宮殿を造ろうとして一夜のうちに現在の形まで造ったが、途中で播磨の土着の神の反乱が起こり、宮殿造営を止めて反乱を鎮圧した。しかし、夜が明け夜明けとなり此の宮殿を正面に起こすことが出来なかったが、「たとえ此の社が未完成になっても、霊はこの石に籠もり 永遠に国土を鎮めん」と言われた」と伝えられ、それ以来此の宮殿を「石の宝殿」、「鎮の石室」と称していると伝えられている。

古代の謎の石造物 石の宝殿

横 6.4m、高さ 5.7m、奥行 7.2m の巨大な社殿風横倒し石造物

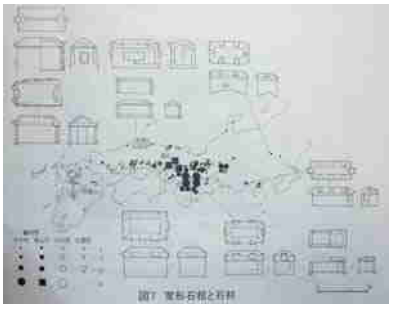
このような巨大石造物の製作には強い鉄器工具の使用が不可欠であり、祭神である大国主命と少彦名命は古代製鉄と関係の深い出雲神であることなどから、この地が古い時代製鉄集団と関係があったのではないか? との説がある。

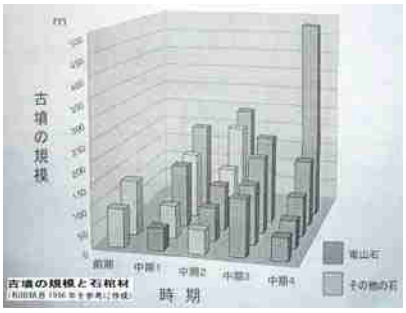
また、この周辺から採取される「竜山石」は古墳時代中期畿内の権力者のほとんどの石棺に使った「大王の石」で、大和王権と密接な関係を持っている。
西へ向かう新幹線が神戸を出て、西明石を過ぎてまもなく 加古川を渡ると山全体が石切り場に見える白い岩崖が立ち並ぶ小高い山が見えてくる。 この山が「竜山」で 石の宝殿はこの岩山の山腹にある。
野球好きであれば知っている高砂球場のすぐ隣を流れる法華山谷川をはさんで西側の岩山である。

淡路島の北部淡路市の丘陵地の尾根筋から弥生時代後半 卑弥呼の時代の国内最大級の鍛冶工房村「垣内遺跡」が発掘され、その現地説明会に参加。 この垣内遺跡からは正面に播磨灘・家島群島 男鹿島、右手にはすぐ近くに姫路・加古川の海岸線が一望。
この大鍛冶工房村のルーツは古代の大製鉄地帯である播磨とつながっているのではないか・・・・・・そして、すぐ手の届く対岸の海岸近くに鉄器工具なくしては作られ得なかった謎の石造物 石の宝殿。 そして周囲の岩山は畿内の首長クラスの石棺材料「竜山石」を大量に切り出したところ。 これらは ひょっとして 古代の製鉄集団でつながるのではないか・・・と。
何回か出かけたことはあるが、「竜山石」の産地として出かけたことはなく、石の宝殿も記憶があいまいになっている。
本当に鉄器が必要との確信がもてるだろうか・・・・と。

生石の郷の「竜山石」石切り場

法華谷川より 竜山 石切りで垂直に切り取られた崖 右端山腹に生石神社





古墳時代 中期より 畿内大型古墳 家型石棺のほとんどが竜山石で作られた

ひょうご考古学セミナー資料より 中央写真は近つ飛鳥博物館展示より

1 月 ひょうご考古学セミナーで「竜山石」について 話を聞いたところであったことも一因なのですが、一度 淡路の記憶がクリアーな間に石の宝殿へ出かけようと 2 月 27 日朝 原付バイクで出かけました。私の家から石の宝殿までは 2 時間あれば十分 加古川周辺へは何度も出かけたよく知った道。 石の宝殿は国道から少し南へ入らねばならず、石の宝殿 そして 古代からの石切り場である「竜山」には長いこと行ったことがない。
どこでも 自由に登れ、止められるので原付バイクは近場のハイクには、本当に便利なのですが、今回はどうしても 市街地・国道を抜けていかねばならず、排気ガスを吸って花粉症がもろに再発。 ひどい目にもあいました。
そんなんで、竜山の頂上への登る道を探そうとも思ったのですが、どうも道がはっきりせず、砕石場が島をめぐる男鹿島が頭をよぎって、地図にある三角点へはよう行きませんでした。 なお、電車だと最寄駅は JR 宝殿駅から歩いて 20 分ほど。

石の宝殿や竜山石 と和鉄の関連や石の宝殿の位置づけなど 興味を持っていること多いのですが、まだ調べが進んでいません。
今回は不思議な古代石造物 石の宝殿の概要と 古墳時代 畿内各地の大王の石棺材料「竜山石」の産地の紹介を石の宝殿 walk（写真）と 石の宝殿概説を 2 つの PDF 資料にまとめました。

また、 今回まだ調べられていませんが今 この播磨 生石の地に興味を持っている事柄を、以下に記しておきます。

1. 今回 あらためて 巨大な石の宝殿を眺めて、 これは「鋼」素材による強力な鉄製の工具が大量になければ製作できなかったろうと。 そうすると この製作年代は日本で製鉄がはじまった 6 世紀以降なのかもしれない。
2. 一説には この石の宝殿が播磨風土記(713)に

   「 伝えていへらく、聖徳の王の御世 弓削大連(物部守屋)の造れる石なりという 」

   とあり、この石の宝殿の製作は 7 世紀といわれる。また、物部氏は古代の製鉄集団の頭である。
   でも 物部氏が関係し手いたとすると出雲神は祭らない。
   また、大和 明日香と葛城の境の小高い山の頂上部にこの石の宝殿とそっくり同じ形の石造物があると聞く。
   この関係も面白い。
3. 続々と古代の製鉄関連集団がこの地と関連を持っているとの伝承。
   竜山石の産地ということだけが この地の重要性の理由だろうか・・・・
   それとも やっぱり、この地が「鉄」など交易品の瀬戸内東部の流通路の重要拠点だったのだろうか・・・・。

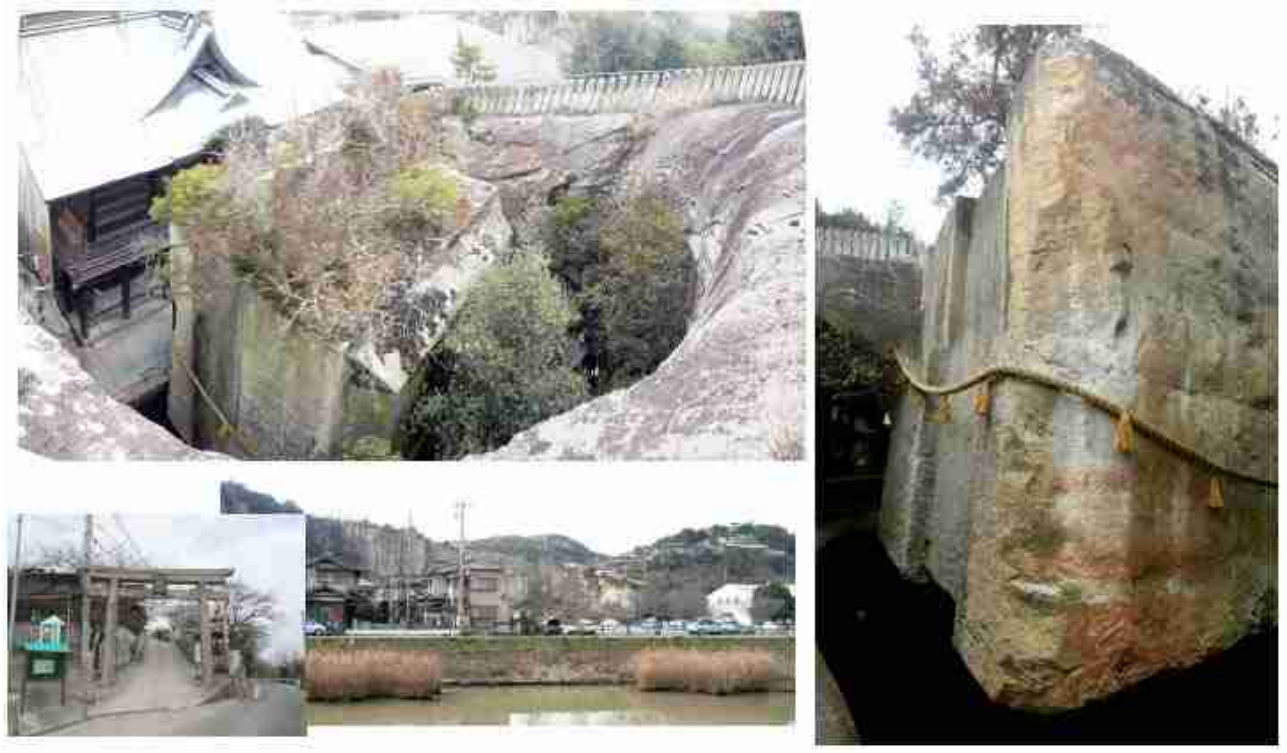
1. 謎の古代石造物 「石の宝殿」 & 大型古墳 石棺材料「竜山石」の郷

生石の郷(高砂市)Walk 2009.2.27.

■ 石の宝殿 高砂市 生石神社

石棺材料「竜山石」の郷にある不思議な石造物

加古川河口近くの右岸の平野の中にぽつんと垂直に切り取られた崖が連なる小さな岩山「古代からの石材「竜山石(宝殿石)」の石切り場 竜山・伊保山」が浮かんでいる。この岩山(竜山)の頂上より少し下がった岩斜面に生石神社があり、その裏手の大岩盤斜面を刳り貫いた四角の巨大空間に、切妻風の突起を後ろにして家を横たえたような横 6.4m、高さ 5.7m、奥行 7.2m の巨大な石造物がある。「石の宝殿」と呼ばれ、水面に浮かんでいるように見えるところから「浮石」ともいわれるが、いつ、誰が、何のために作ったのか、不思議な石造物。日本三奇のひとつとして 古代からあがめられてきた。



竜山の尾根筋の山の東山腹 生石神社 岩斜面を刳り貫いた巨大空間の中に横倒しの「石の宝殿」がある 2009.2.27.

石の宝殿　生石神社と生石の郷　　2009.2.27.

■　古代からの石切りの郷　高砂市「生石」Walk

加古川を渡って国道 2 号線(旧道)を西へ少しすすむと　前方に北から伸びてきた高御位山の山並み　そして、左手　南の市街地に白い山肌を見せる竜山の丘陵地が見えてくる。

加古川パイパスとクロスする少し手前のところ国道の北側が、JR 宝殿駅。高砂市のシンボル「尉と姥」の像があり、駅の名所案内に「石の宝殿(生石神社)」の文字が見える。

ここから、案内標識にしたがって、国道を渡り、南側右手に見える小高い丘を目印にすすむと、10 分ほどで、法華山谷川が流れる生石の郷。

JR 宝殿駅前の「尉と姥」の像

川を渡って、生石の住宅地に入って、左へ丘に沿って南へ折れる。

石切の垂直の崖が続くというイメージは竜山の頂上部がある丘陵地の南半分で北側は緑の丘がつづく。 その北と南のくびれの上の方の山腹に神社が見える。

これが生石神社でこの神社の建物に隠れて　石の宝殿がある。

竜山の丘陵地の東側の裾を南北に流れる法華山谷川の川岸から見る竜山 石切場の崖 その左端に見える生石神社

住宅地の中ほどから　斜めに丘陵地へ登る生石神社への参道を登ってゆくとちょうど南北の丘の鞍部になっていて、そこが生石神社の入り口で横に大きな駐車場があり、南には　頂上部から垂直に切れ落ちた崖が続く竜山　その奥に海岸線から播磨灘が見える。崖の下は今も石が切出されている石切り場である。

竜山石切出しで作られた垂直の壁の上が竜山の頂上部　崖の下には石切り場が続く　　生石神社の上部頂上公園より

二つの頂を持つ竜山の尾根筋のちょうど中央二つの丘の鞍部　　生石神社の入口の鳥居周辺

生石神社の入り口の直ぐ西側の一枚岩の上に小さな小屋が建っていて、その横に石棺が置かれ、竜山 1 号墳石棺の標識が立っている。また　この石棺の所から右側　出石神社の建物が建つ所は岩盤の尾根筋。 来る時には　緑に覆われよく判りませんでしたが、この丘陵地全体が竜山石の岩盤である。

竜山１号墳　石棺

生石神社の建物の所から頂上へ向かって北に続く岩山の尾根筋がこの神社の神域で、建物の裏の岩盤を三方垂直に掘りこんだ中に　横倒しの形で石の宝殿が　祭られている。 また、社殿・石の宝殿の後ろの頂上部へ岩盤を刻んで遊歩道がつけられ、頂上公園へゆける。

尾根筋はこの出石神社の所から少し西に折れ曲がっていて、そこからこの尾根筋のもうひとつの頂「竜山」へと繋がり、生石神社の直ぐ南も切り立った崖になっていて、南側垂直の崖に沿っていくつも石切り場が続いているのが見える。 遠くから　山を見ていたのではわからぬ生の石切り場の姿です。

竜山石切出しで作られた垂直の壁の上が竜山の頂上部　崖の下には石切り場が続く

生石神社の鳥居をくぐり、登り坂の参道を東へ少し回りこんだ所で社殿の前にでる。 この前の広場からは南に広がる神戸から西へ広がる東播磨・播磨灘　そして西端に竜山が一望できた。

生石神社社殿前より　東播磨の海岸線　一望　　2009.2.27.（写真合成）

この社殿の入り口をくぐって　奥に進むと岩肌で囲まれた狭い空間で狭い間から上の空だけが覗いている。

一瞬良くわからなかったが、石の宝殿の巨大な石造物の正面前。 拝殿の向こうにご神体石の宝殿の岩がある。

拝殿の横の所から　ぐるりとこの巨大石造物を回ることが出来る。 岩の大きさは、一辺が約 6m。正面は平らですが、左右には幅 1.6mの溝が縦に掘られています。また、背面は屋根型に中央部が突き出ている。ただ　狭い空間なので　ここからはどう写真をとっても 1 枚の写真に入りきれない。巨大である。また、岩の底も削りこまれていて、まるでその下の池に浮いているように見え、「浮石」とも呼ばれる。

拝殿の奥に鎮座する謎の石造物　石の宝殿

拝殿のところへ戻り、岩肌に刻まれた頂上部へ行く遊歩道を登って、拝殿の上部に回りこむと石の宝殿の上部から全体を眺められる。
左右と裏側の三方より岩壁が迫っていて、周囲の岩が掘り除かれ、真ん中に石の宝殿を掘り残すというように造られているのが良く見える。このまま　拝殿側に倒せば宝殿が起きる。
どうもそれが　本来の完成された姿のようだ。
また、この岩山全体が一枚の岩盤で、その岩盤を掘り込んで石の宝殿が作られている。

石の宝殿の底の部分

直線で切り込まれ、きれいに整形された岩肌そして垂直に掘り込まれた周囲の岩壁も含め、石が削りやすい凝灰岩質の竜山石といえども、強力な鉄製「鋼」の工具が大量にそろわないと製作は難しいだろう。
やはり、製鉄集団がこの謎の石造物の製作にはかかわっていたかも知れない。

拝殿の上側から見た石の宝殿　　2009.3.27.

大きな岩盤の表面を削って頂上部へ階段が刻まれ、頂上部は頂上公園になっていて、そこからは　四方が一望。
すぐ南にはこの岩山の尾根続きに石材切出しによる垂直の崖が続く「竜山」が見えている。
また、直ぐ西には同じく石切り場のある佐保山北には三角の美しい山頂を持つ高御位山が見える。 いずれも竜山石の名産地である。

石の宝殿の岩山の頂上部より　竜山　2009.2.27.

竜山　石の宝殿の岩山の頂上部　　2009.2.27.

北側　高御位山

西側　伊保山

南側　竜山

岩山を下って、元の生石の郷へ戻ってくると、操業中の石切場とその工場が覗けました。

竜山石は古墳時代大王の石棺の材料として広く使われたが、その後も種々の建設資材などとして使われ、現在も種々の用途に使われている。この竜山地域から北の高御位山にかけてはすべてが岩山。まだまだ　採取が可能な竜山石の産地。

今後　どうなるかは　わかりませんが、 現在の景色　古墳時代の石材採取地の歴史の街として残してもらうとありがたいと思えのですが、虫のいい話かも・・・・・。

不思議な巨大石造物が　巨大岩盤の中に閉じ込められている。この石の周りをゆったり巡りながら、この石造物にイメージを膨らませ、いやになったら、一望できる播磨平野を眺める静かな石切りの郷 walk。

いかがでしょうか・・・

竜山石の郷　「生石」の石切り場　2009.2.27.

5 年ほど前　アメリカのアトランタで同じような一枚岩の岩盤の山に登り、岩の上から 360 度地平線を眺めましたが、スケールは違いますが、良く似た広い平野の中に浮く岩盤の丘。広い平地の中　浮島のごとく小高い丘が浮く。その一枚岩の岩盤の丘が日本を作った初期大和王権の大王たちを収めた石棺の採取地。随所にその痕跡が見られ、不思議な巨大石造物もある。

観光地でもなく、歴史が看板の重い町でもない。でも　イメージをふくらませば、物語がいくらでも浮かんでくるような普段着の小さな歴史の街です。久しぶりに　喧騒の国道を外れ、生石の郷に入って　そんな感じを持ちました。

また、ゆっくり石の宝殿を眺め、あまり知らない東播磨の歴史　そして　ここにも　製鉄集団の痕跡がありそうに思える歴史にちょっぴり触れられたのも収穫でした。

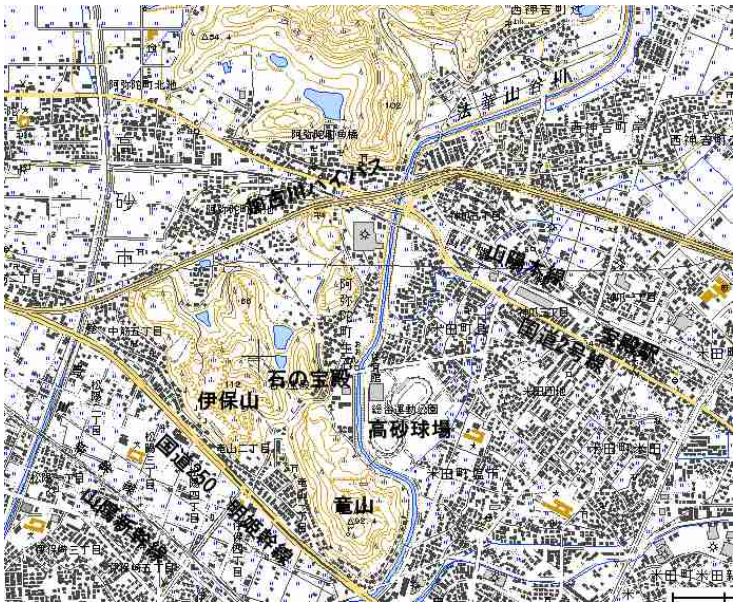
2009.3.15.　　google earth に東播磨　石の宝殿 walk　のトラッキングを移しつつ

by Mutsu Nakanishi

2、 資料に見る古代の石切りの郷「生石」-石の宝殿・竜山石概説-　インターネット検索ほか

生石の郷　法華山谷川

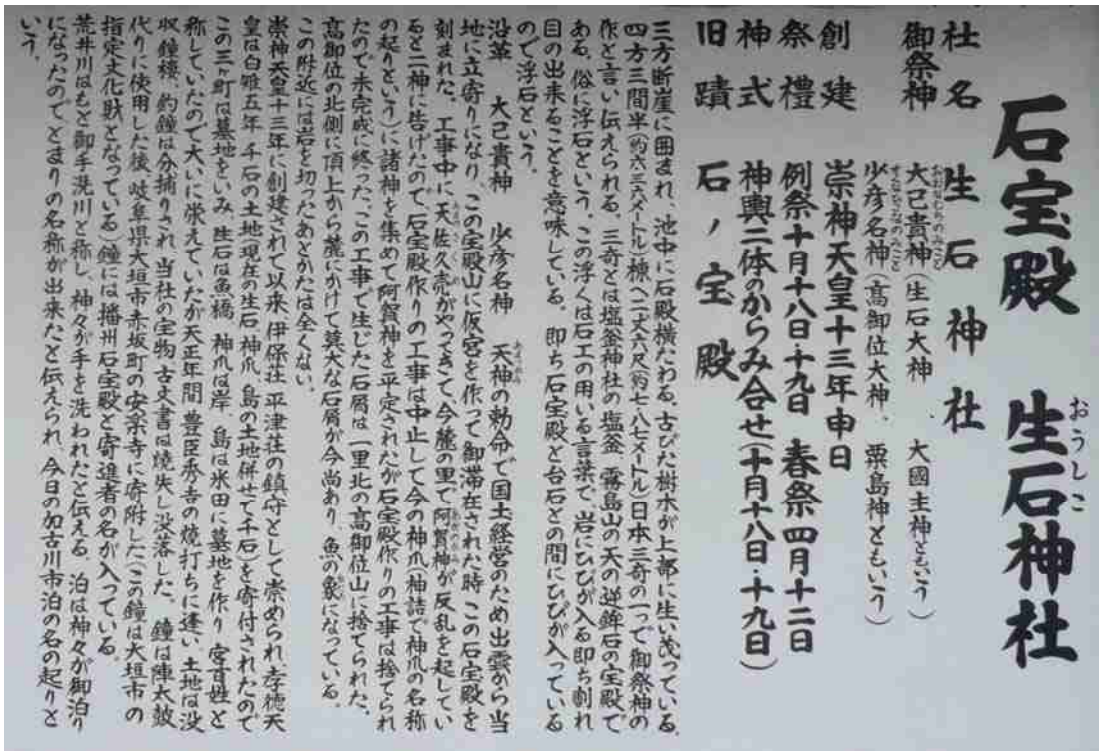
生石神社　石の宝殿



古代からの石切りの郷　　生石の郷

● 石の宝殿 & 生石の郷 の由来

1. 生石神社 社伝による石の宝殿の由来



石宝殿 生石神社

社名 生石神社

御祭神 大己貴神（生石大神 大國主神ともいう）
少彦名神（高御位大神 粟島神ともいう）

創建 崇神天皇十三年申日

祭禮 例祭十月十八日・十九日 春祭四月十二日

神輿 二体のからみ合せ（十月十八日・十九日）

旧蹟 石ノ宝殿

三方断崖に囲まれ、池中に石殿横たわる。古びた樹木が上部に生い茂っている。四方三間半（約六三六メートル）棟（二丈六尺（約七・八七メートル）日本三奇の一つで御祭神の作と言い伝えられる。三奇とは塩釜神社の塩釜、霧島山の天の逆鉾石の宝殿である。俗に浮石という。この浮くは石工の用いる言葉で、岩にひびが入る即ち割れ目の出来ることを意味している。即ち石宝殿と台石との間にひびが入っているので浮石という。

沿革 大己貴神 少彦名神 天神の勅命で国土経営のため出雲から当地に立寄りになり、この宝殿山に仮宮を作って御滞在された時、この石宝殿を刻まれた。工事中に天佐久売がやってきて、今籠の里で阿賀神が反乱を起していると二神に告げたので、石宝殿作りの工事は中止して今の神爪（神話で神爪の名称の起りという）に諸神を集めて阿賀神を平定されたが石宝殿作りの工事は捨てられたので未完成に終った。この工事で生じた石屑は（里北の高御位山に捨てられた。高御位の北側に頂上から麓にかけて莫大な石屑が今尚あり、魚の鱗になっている。この附近には石を切ったあとがたは全くない。

崇神天皇十三年に創建されて以来伊保社、平津社の鎮守として崇められ孝徳天皇は白雉五年千石の土地現在の生石、神爪、島の土地併せて千石）を寄付されたのでこの三ヵ町は墓地をいみ、生石は魚鱗、神爪は岸、島は米田に墓地を作り、宮司姓と称していたので大いに栄えていたが天正年間豊臣秀吉の焼打ちに逢い、土地は没収、鐘楼、釣鐘は分捕りされ、当社の宝物古文書は焼失し没落した。鐘は陣太鼓代りに使用した後、岐阜県大垣市赤坂町の安楽寺に寄附した（この鐘は大垣市の指定文化財となっている）鐘には播州石宝殿と寄進者の名が入っている。

荒井川はもと御手洗川と称し、神々が手を洗われたと伝える。泊は神々が御泊りになったのでとまりの名称が出来たと伝えられ、今日の加古川市泊の名の起りという。

2. 播磨風土記に記載された生石の郷

大国の里　土は中の中。 大国とよぶわけは、百姓の家が多くここにたむろしていた。だから大国という。

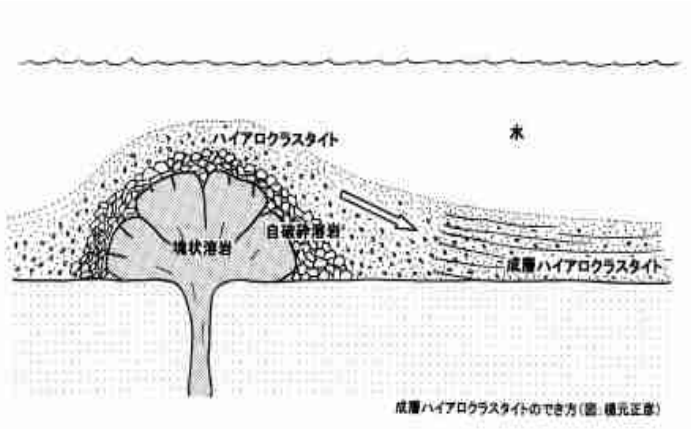
この里に山があり、その山を伊保山という。仲哀天皇を神と奉り、神功皇后は石作連大来を連れて讃岐の国の羽若の地の石をお求めになられた。その地から海を渡って来られて、まだ御廬をお定めにならなかったとき、大来が（絶好の地を）見出してみんなに知らせた。だから美保山という。山の西に原がある。名を池之原という。原の中に池がある。だから池之原という。

原の南に石の造作物がある。 その形は家屋の如くで、長さは二丈、巾は一丈五尺で、高さも同様である。その名号を大石という。言い伝えによると、聖徳の王の御代に弓削大連（物部守屋）が作った石である。

● 竜山石（宝殿石）学名 流紋岩質溶結凝灰岩の解説

兵庫県の加古川下流右岸に産する流紋岩質溶結凝灰岩の石材の呼称で、白亜紀後期（約 7000 万年前）の火山活動によって噴出した火砕流堆積物が厚く堆積したもの。

古墳時代、畿内の大王や豪族などの石館にも数多く使われており、7 世紀頃に造られたと考えられる“石の宝殿”は宝殿山の中腹にある約 500 トンの浮石で、生石神社の祭神として祭られ、江戸時代の末、シーボルトも訪れヨーロッパに紹介されている。古墳時代中期には、畿内の権力者のほとんどの石棺にこの竜山石が使われ、「大王の石」と称されました。



成層ハイアロクラスタイトのでき方（図：横元正章）

古墳時代中期の石棺はほとんどが６枚の板石を組み合わせてつくられた「長持形石棺」。

古墳時代後期には、この石から「家形石棺」がつくられた。この頃は、地方の豪族や有力者の墓にも数多く利用された。

鎌倉～室町時代には、五輪塔や宝篋印塔など、江戸時代の初期には姫路城の石垣などにも利用された。

明治以降には、旧造幣局鋳造所（1870 年）や住友銀行本店ビル（1922 年）、京都ホテル旧館（1928 年）など、近代建築物などの壁材として利用された。

竜山石の採掘は今も続けられ、河川や公園などの石垣、モニュメントや花壇の縁取り石など、建築用や造園用に広く利用されている。

高砂市ホームページより

●　石の宝殿　概説

岩山をくり抜いた穴にほぼ直方体の巨石が池に浮いたように鎮座する石の宝殿（生石神社裏手）と南側 400m には
日本三奇の一つ生石神社の裏手に鎮座する切妻風の突起を後ろにして家を横たえたような横 6.4m、高さ 5.7m、奥行 7.2m の巨大な石造物がある。「石の宝殿」と呼ばれ、水面に浮かんでいるように見えるところから「浮石」ともいわれていますが、多くの謎につつまれ、 いつ、誰が、何のために作ったのか、不思議な石造物。
また、すぐ南側には 古くは仁徳天皇陵の石棺など数々の石棺にも使用された軟質で加工しやすい竜山石（宝殿石）の採石場があり、壮大に岩肌を垂直に覗かせた風景を眺められる。

生石神社の社伝によると、

「神代の昔　大己貴命（大国主命）と少彦名神が出雲国から播磨国に来た際に石の宮殿を造ろうとして一夜のうちに現在の形まで造ったが、途中で播磨の土着の神の反乱が起こり、宮殿造営を止めて反乱を鎮圧した。しかし、夜が明け夜明けとなり此の宮殿を正面に起こすことが出来なかったが、「たとえ此の社が未完成になっても、霊はこの石に籠もり　永遠に国土を鎮めん」と言われたと伝えられ、それ以来此の宮殿を「石の宝殿」、「鎮の石室」と称している」

と伝えられている。

この石室は、三間半（約７メートル）四方で棟丈は二丈六尺（約６メートル）の三方岩壁に囲まれた巨岩の宮殿で、池中に東西に横たわって浮く姿である。この工事に依って生じた屑石の量たるや又莫大であると推察され、一里北に在る霊峰高御位山の北側に大量にある屑石がそれであるとも言われている。
池中の水は如何なる旱魃にも渇することなく海水の満干を表わす霊水と言われている。

●　石の宝殿　播磨風土記の記述　記紀には記載がない

播磨風土記の印南の郡大国の里の条には、以下の話が記載されている。

『原の南に、石の造作物がある。その形は家屋の如くで、長さは二丈、幅は一丈五尺で高さも同様である。
その名号を大石という。言い伝えによると聖徳大王の御代に弓削の大連が作った石であるという。』

また、この石の宝殿とそっくりな石造物、「益田岩船」（推定 800t、高さ 4.7m以上、横 11m、奥行き 7.2m、標高約 130m）が奈良県橿原市の橿原ニュータウン内、白橿南小学校の西の丘陵（岩船山）の頂上付近にある。 初期大和の中心部葛城と明日香を分ける丘陵地の丘の上である。完成すれば、ほぼ同じ形状となり、横倒しの状態での製作、見晴らしのいい丘の中腹の設置場所などの条件もほぼ同じである。本当に謎の石造物である。
また、この播磨と大和のつながりについても イメージがさらに広がってゆく。

● 竜山石　補足　　インターネット検索整理

この竜山石には3つの色がある。

「青竜石」、もっとも変質の程度が低いもの

「黄竜石」、風化によって基質に微細な水酸化鉄が広がったもの

「赤竜石」 岩石の固結末期に節理に沿って上昇したマグマ残液の熱水によって熱せられ
白雲母や方解石ができてその周りに酸化鉄ができたもの

加古川東高校地学部が日本地質学会2008秋田大会「小さなEarth Scientistの集い」優秀賞受賞研究より

竜山石「黄」

竜山石「青」

竜山石「赤」

竜山や伊保山の石切場の崖は、竜山石の大きな露頭。少し離れてこの崖を見ると、淡緑色の層の間に、濃緑色の層が数ｃｍの厚さで平行にはさまれる縞模様が平行に入っている。

淡緑色の部分には、数ｃｍ～数mmの大きさの白い流紋岩の岩片が多く入っており、濃緑色の部分には、この流紋岩の岩片がほとんど含まれておらず、長石の結晶片が白く点々と含まれている。竜山石には柱状節理がほとんど見られないことから、水中で形成されたもの（カルデラ湖の中で再度火山活動がおこり、火砕流が発生）

石切場の風景

石切場に見られる成層構造

淡緑色の基質の中に、それより少し濃い緑色の流紋岩の岩片が点在。この流紋岩の岩片は、不規則な外形をしたものとフレーク状のものがある（最大15㎜）。

流紋岩の岩片と基質との境界はシャープですが、岩片の外形は複雑に入り組んでいます。流紋岩の岩片はガラス質で、流理構造を示すものも見られます。また、石英と斜長石の斑晶を少量含んでいます。岩片は雑然と散在していますが、フレーク状のものは平行に並ぶ傾向があります。流紋岩以外に、軽石や黒色の泥岩を岩片として少量含んでいます。　基質は、細粒で緻密、石英と黄褐色に色づいた斜長石の結晶片を含んでいます。

竜山石の研磨面（写真横７ｃｍ）

青竜石（横10.5cm）

黄竜石（横11.5cm）

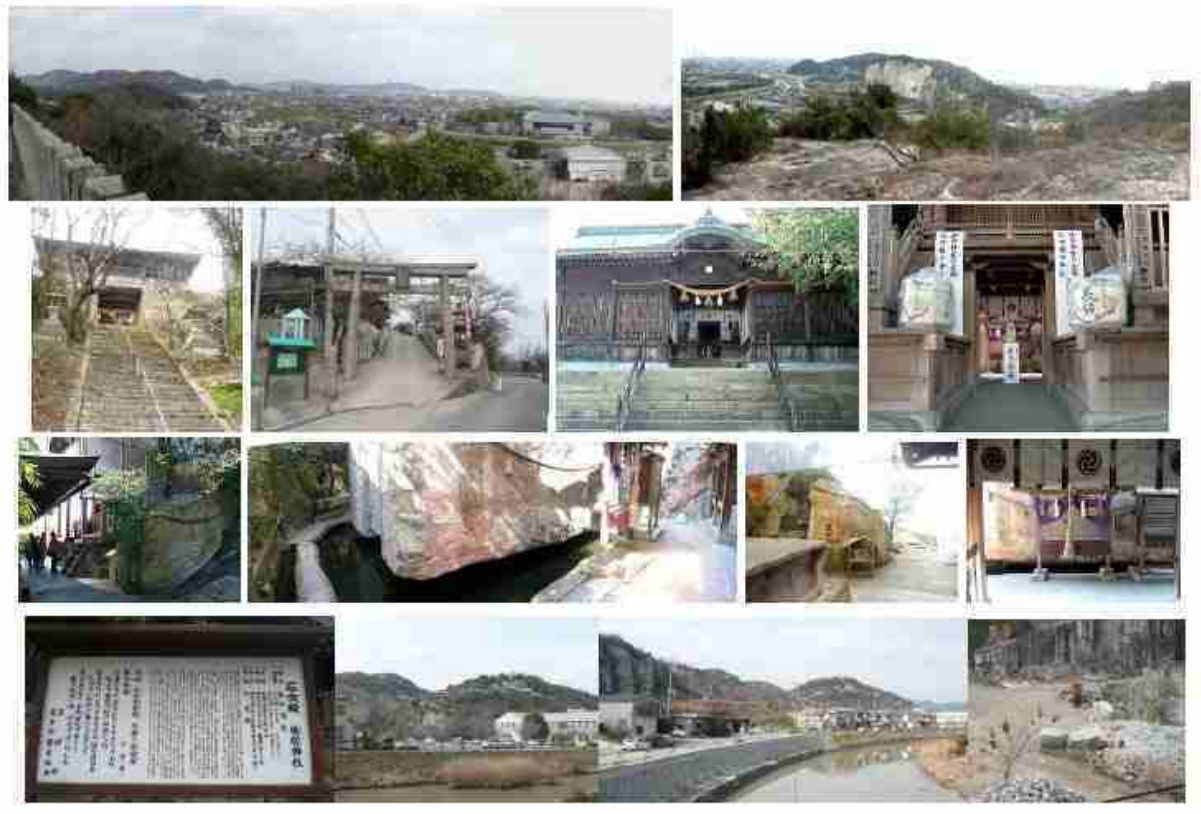
● 竜山石の使われているところの例

雲部車塚古墳(篠山市)の長持形石棺(5 世紀)
復元したもの(兵庫県立考古博物館)

曽根天満宮の石橋　1723(享保 8)

高砂海浜公園のモニュメント

倉敷　大原美術館の礎石　1930(昭和 5)



生石の郷 と 石の宝殿 生石神社　2009.2.27.

3.

写真アルバム　　東近江　陽だまり walk　　2009.3.15.

縄文のウッドサークル　能登川正楽寺遺跡　と　近江八幡　左義長祭りを訪ねる

ウッドサークル出土の仮面での祭り
東近江市能登川　正楽寺縄文遺跡

湖東　春到来を祝う
近江八幡　左義長祭

琵琶湖　近江八幡　水郷
西の湖

「湖東　能登川町　愛知川の左岸に北陸で出土するウッドサークルがあり、それを中心に仮面の祭りを行っていた。 もっとも今は工場用地でなにもないが･･･」と教えてもらう。

縄文人の心を映す縄文のサークル。関西ではなかなか見られぬ祭りの場。ここは場所がいい。

丘陵地でないが湖東平野の田園地帯の中、西に琵琶湖越の比良　北に伊吹山　東から南に鈴鹿の峰々が浮く。きっと素晴らしい景色が見られるはず。

雪を抱く近江の山々をバックに縄文の祭りが行われたところで、また、春になったら　すぐに行こうと。　また、近江の祭りが一緒にみられれば･･･と調べると3月14･15日近江八幡　左義長祭。 雪をかぶった比良も観たいし、もう数年　春になると決まって青春 18 きっぷをポケットに出かける近江。今年は湖東へ。

3 月15日快晴の日曜日の早朝　新快速電車に飛び乗って、東近江を訪ねました。

能登川　正楽寺のウッドサークルはもう工場敷地の下でしたが、ここからは予想通り田園地帯の向こうに　西から　雪を抱く比良　湖北の赤坂山　そして　北の正面に雲に包まれた伊吹山　 東から南には　鈴鹿の霊仙山　御池岳がべっとりと雪をつけ堂々とした姿で座っていました。 森の中ではありませんが、おそらく　広い葦原が続く　愛知川の川岸で、これらの山々が見守る中で祭りが行われたのだろう。 遺跡の詳細はまだ　良く知りませんが、イメージどおりの素晴らしい縄文の祭り場でした。

能登川は小さな集落が広大な湖東平野の中に点在する農村と思っていましたが、JR 能登川駅前を中心に新しい住宅地が広がる若々しい街に変身していたのにもびっくりです。

（いつも電車･新幹線で通り抜けるだけでは様子がわからぬ典型です。）

まだ　桜には　ちょっと早かったですが、どこまでも広がる田園地帯の向こうに雪をつけた山が浮き、田圃の土手には菜の花と土筆。 水温む葦原の湖岸では、大物がつれたとき聞きつけた太公望たちが釣り糸をたれ、街では多くの若者に担ぎ上げられた左義長（これはもう御輿）が春を謳歌して　街を練り、ぶつかり合う。

ボカボカ陽気の春満喫の東近江 walk。 特に記録することもないので　写真中心の報告です。

1. 縄文のウッドサークルがあった能登川　正楽寺縄文遺跡

JR 東海道線 ═J 能登川駅 ═能登川博物館═能登川 種集落 ═田園の中を愛知川左岸の種集落地先の工業団地═正楽寺縄文遺跡（現在 東洋製罐 滋賀工場建設中 ） ═神郷 滋賀県消防学校 ═愛知川左岸═ 愛知川左岸道路を簗瀬・五個荘集落へ═ 幹線・近江鉄道が一緒に愛知川を渡る簗瀬大橋═バスで JR 能登川駅═ 新快速電車で一駅戻って JR 近江八幡へ

新しい街づくりが着々と進む JR 能登川周辺
新快速電車が走り 京都・大阪への通勤圏・ベッド タウンへ変身

快速電車が疾駆するようになって、京都・大阪への通勤圏・ベッド タウンとなって、新しい街づくりが進んでいる JR 能登川駅周辺。
以前は湖東平野の田園地帯がどこまでも続く一帯とイメージしていましたが、随分様子が変わりました。
正楽寺遺跡はインターネットで、駅の東側に広がる集落を北に抜けた愛知川左岸に広がる田園地帯の中と地図とともに確かめてあるので、今日は楽チン。 でも 聞く話もインターネットをみても 遺跡の概要があるだけで、現在の状況は良くわからない。
インターネットに掲載されていた山々に取り囲まれたひろばにあるウッドサークルの中で祭をする姿に魅せられ、素晴らしい場所に違いないと。 駅の反対側である北 1KM ほどのところにある能登川博物館で「種町の集落を抜けると田園地帯がひろがり、その奥に今工事している工場用地の中が正楽寺遺跡。 行っても なにもないよ」と。
毎度の話であるが、何もなくても やっぱり 行くと 素晴らしい自然の景色に出会える。それが 縄文遺跡。
今回は山麓の尾根筋や丘陵地の丘の上ではなく、暴れ川 愛知川が琵琶湖へ流れ込む河口より少し上流側の平地。現在は整備された田園地帯であるが、かつては 愛知川が流路を幾筋も変更し、川の岸に接していた場所のようだ。

能登川駅周辺では線路はまっすぐ東へ伸び、その線路を十字にクロスして 愛知川が南から北側の琵琶湖へ流れ込む。
東へ伸びる線路際に大きな工場が遠望され、区画の整備された住宅地の中の広い道路を階段状に曲がりながら南東へ抜けていけば「種」集落で、その奥 愛知川の左岸に沿って 新しい工業団地がある場所が遺跡。

ぽかぽか陽気の中、新興住宅地に「新種町」の標識がみえ、その中を抜け、南北に伸びる広い道路を少し進むと田園地帯が広がり、その東側に小さな集落が見える。駅から約15分　入口に「種」の標識が見え、そこから北へ集落の中に入る一本道が奥へ続き、それを抜けると、愛知川左岸に広がる広大な田園地帯が見えてきた。

田園地帯　空と田畑とをわける緑のベルトが愛知川の左岸　手前に工業団地が見え、その背後には　鈴鹿の白い峰がうっすら見える。　正面が建設中の工場。この中の一角が正楽寺縄文遺跡だろう。

インターネットでは遺跡の位置をもっと西にマークがついているが、博物館で聞いた位置である。

集落の外れで　再度確かめると建設中の工場の中で間違いなし。　ウッドサークルが見つかった平成5年には、休日この集落界隈驚くほどの見学者があったという。　また、今は案内板も何もないので、だんだんわからなくなっていると。

周囲の山々　田園風景を楽しみながら、工場の金網塀に沿って歩く。

新種町を抜けると広い南北道路が田園地帯へ

南北道路から見た北側　田園地帯を JR が東西に伸びている

南北道路の東側　田園地帯の中に種町の古い集落

集落を東に抜けると広大な田園地帯が広がり、愛知川左岸の緑のベルトまで広がっている

左手中央　愛知川の土手（緑のベルト）　鈴鹿の山々の手前に工場団地

正面　工業団地の中が　正楽寺縄文遺跡　　北側より

西北　集落の奥に比良の峰々

雲の中　伊吹山　そその右に白い霊仙山

愛知川の左岸　背後　左　霊仙山　右　御池岳

正楽寺縄文遺跡　周辺の田園地帯　　北側より

種町の集落を抜けると田園地帯　田の畦には　土筆が顔を出し、タンポポ・菜の花が黄色い花をつけていた。

工場建設が進む正楽寺遺跡のある工業団地　　南西角周辺より

■　正楽寺縄文遺跡　概要

滋賀県東近江市能登川　滋賀県文化財学習シート　　正楽寺遺跡より

正楽寺遺跡は、神崎郡能登川町大字種（たね）地先の田園地帯、愛知川左岸の標高 96m 地帯に立地する縄文時代後期前葉（約 4000 年前）の集落跡で、西日本最大級の縄文遺跡として注目を集めた。主な遺構建物 5 棟、掘立柱建物跡 14 棟、ドングリ貯蔵穴 130 基以上、サヌカイトを用いた石器製作場、環状木柱列など。また、集落側の岸辺に多量の土器や動物遺体などが堆積した土器塚が、130m 以上にわたって確認され、様々な遺物が出土。さらに環状木柱列に近い土器塚最下層から、このムラのリーダーだったと思われる丁寧に埋葬された屈葬人骨が 1 体見つかっている。

環状木柱列から川岸までの空閑地はマツリ広場と思われる重要な場所で、木柱列は 6 本の柱を径約 6m の円環に建て並べたもので、中央に直径 1m あまりの大きな篝火をたいた焼け痕があり、ここで火を使ったマツリがおこなわれていたことが判明している。

木柱列近くで見つかった土面は、実際にかぶれ大きさで、日本最古級。土面を被り、カミになりかわりマツリが行われたのかも知れない。

やっぱり 縄文遺跡は素晴らしい景色が見られる位置にある。

残念ながら 春霞でくっきりとは山が見えないが、広大な平原の周囲を山々がぐるりと取り囲み祭りの場を演出したのだろう。

今日は雲に隠れて伊吹山が見えないが、愛知川の流れの向こうに真っ白な伊吹・霊仙の山が神々しくそびえている。

午後 訪れた能登川の町並みが遠望できる西側の近江八幡 西の湖からは 西の湖の葦原・湖面の向こう側に
真っ白な姿で 能登川の街の上に 伊吹山 霊仙山が浮かんでいました
縄文の正楽寺遺跡の祭りの場からも こんな風に見えたのかもしれません。

縄文人たちの神聖な場 現在はもうその景色はイメージとしての想像の中であるが、今も 東近江の素晴らしい田園風景は今も広がっていました。

良く観ると 幾人もの人が、この工業探知周辺のあぜ道を walking している。 また、首から双眼鏡をぶら下げている人もいて、このあたりはバードウオッチングに最適なのだという。 日本海側から琵琶湖そして鈴鹿越は人ばかりでなく、野鳥にとっても古くからの通り道なのだろう。

神郷集落側(西側)から 東側 正楽寺遺跡周辺 西側より

まだ 愛知川に出会えてないので、愛知川の土手に出たいが、この工業団地の中からは道がなく行けない。

また、工場内を抜けても やっぱり ひどいブッシュだという。

一旦 広い道を西へ抜けて 神郷集落から南へまっすぐ、土手に出て、土手の上を五個荘・八日市への道をたどって、

簗瀬大橋まで歩いて、そこからバスでまた、能登川の駅へ出た。

ボカボカ陽気の半日 能登川 正楽寺縄文遺跡周辺の春を楽みました。

関西では少ない縄文遺跡の関連地 ゆったりとした気分に浸れる郷歩き。 午後は近江八幡の左義長祭りへ。

正楽寺遺跡のすぐ近く 両岸がブッシュの愛知川

能登川の南西 簗瀬大橋周辺の愛知川

北陸のウッドサークルの目的は何なのか 良くわかっていませんが、この正楽寺遺跡のウッドサークルの近くにはリーダーと思われる人骨が出土したという。 やっぱり、ウッドサークルもストーンサークルと同じく墓 葬送の祭りの場と考えるのが妥当なのでしょうか・・・・・。

関西にはあまり象徴的な縄文遺跡がありませんが、海を渡る船が出土した若狭の鳥浜海貝塚 そして ウッドサークルのこの正楽遺跡。

日本人の心を映すという縄文が関西でも良く知られるようになってほしいものである。

【参考】

滋賀県東近江市能登川 滋賀県文化財学習シート 正楽寺遺跡

和鉄の道 Iron Road **縄文の心を映すストーンサークル** 7iron07.pdf

和鉄の道 Iron Road **北陸・能登 に点在する縄文のウッドサークル探訪** 4iron09.pdf

2.　湖東　春到来を祝う　近江八幡　左義長祭

信長 にルーツを持つ 滋賀県近江八幡　左義長祭

写真は 3.15.　昼　日牟礼八幡宮境内　左義長同士の組み合わせ（けんか）

●　近江八幡　左義長祭りの由来等概説

近江八幡市 HP・観光協会 HP などより

近江八幡　左義長祭り　　近江八幡観光物産協会 HP より

左義長は元来新年に行われる火祭行事を指し、大阪では「どんとやき」と呼ばれる。旧正月を中心に14日夜か15日朝、正月の飾り物などを広域に集めて焼く行事であり、1年の無病息災を祈って現在でも全国各地で行われる。

近江八幡左義長祭りは毎年3月14・15日に近い土・日に行われ、今年は3月14日・15日。

４００年以上の歴史があり、毎年正月に安土城下で盛大に行われていた左義長祭に織田信長が変装して加わり踊った安土城下の祭りが起源とされている。新年　旧正月の行事がなぜ３月に八幡で行われるのかというと、織田信長が亡くなった後、豊臣秀次が八幡城を築き、安土から多くの町人たちを招いて城下を開町した折に、既に4月に行われていた氏神八幡宮の例祭「八幡まつり」の荘厳さに驚き、これに対抗し、移住してきた町人たちを中心に新進気鋭の悦びと感謝の意を込めて、3月　左義長を八幡宮に奉納したのが八幡左義長ルーツと伝えられている。

左義長の本体は新ワラで編んだ高さ約３メートルの三角錐のたいまつですが、その上に竹を立て、細長い赤紙や薬玉、巾着、扇などで飾られます。 また、左義長の中心に据え付けられた「だし」はその年の干支（えと）にちなんだものを海の幸（海

産物）や山の幸（穀物等）で作られている。
左義長の担い手は踊子と呼ばれ、その服装は、揃いの半纏を羽織る姿が一般的です。近年は少数になりつつありますが、女物の長襦袢を着用したり、化粧をするなど、変装した格好で左義長まつりへ参加するものも少なくはありませんでした。
これには、諸説ありますが、織田信長が自らの正体を隠すために派手な出で立ちで参加したとの話を、近世の人々が変装するものと解釈したのではないかと言われています。
初日の午後は日牟礼八幡宮に参集した十数基の左義長が市内巡行しますが、翌日はそれぞれが町を練り歩き、「けんか」と呼ばれる左義長同士の「組み合わせ」を繰り広げ、二日目の夜には八幡宮境内で次々に燃やされる。
燃え盛る左義長の周囲で女装した若衆が乱舞するのが、祭りのクライマックス。
その様は織田信長の気性を想像させるといわれる。

3 月１５日午後　JR 近江八幡駅に降り立つ。駅前に左義長祭りの幟が何本もはためいているが、いたって静か。やっぱり、夜　左義長に火をかける時でないと盛り上がらないのか・・・・と思いつつ、まっすぐ北の八幡山へ続く大通りを歩く。　近江八幡へは何度か来たことがありますが、左義長祭りを見るのは初めて。

通りにある近江八幡の和菓子屋「たねや」の前を通って１５分ほどで旧城下に入る。ちらほら町を染め抜いた法被を着ている若者や子供が歩いていて、祭りのムードゞが漂ってくる。ここまでくるとカメラをぶら下げリュック姿の観光客も多くなる。

　古い町並みが残る中　近江八幡の観光の目玉　八幡堀にかけられた橋を渡ったところに日牟礼神社の大鳥居があり、その中は日牟礼八幡宮の境内で境内の縁の参道には露店が立ち並び、人でごった返している。
中央部には左義長が集結し、左義長を担ぐ人の掛け声や左義長の担ぎ棒の上から指揮を摂る笛　境内を練っている左義長に近づくなと叫ぶマイクの声　それを取り囲むように見物するぎっしりの人で騒然。境内の外とは別世界である。

日牟礼神宮へ入る手前の近江八幡　旧市街

日牟礼神宮の境内へ入る八幡堀　鳥居前周辺

各町々を練り歩いた左義長は八幡山の山裾の日牟礼八幡宮の境内に集結していて、境内を練りながら　左義長同士が正面から組み合って押し合う。　そして、左義長が跳ね上げられたり、横倒しになったら負けだといい、これを「けんか」といい、境内のあちこちで、これを繰り広げている最中である。「けんか」というのがどうも正式名らしい。　びっくり。

日牟礼八幡宮の境内に集結した左義長　同士相手を見つけて正面からの組み合わせる左義長の「けんか」　2009.3.15.

大阪では　祭りで練っていた地車（だんじり）同士が出会うとぶつかり合い、相手を跳ね上げるのを「けんか」といい、胸をわくわくさせながら　地車を追っかけ、見物に出かけたものでした。あまりにも危険で禁止されて以来トンと聞かなかった言葉です。　まだ　本当に正面から取っ組み競う「けんか」が残っているのにびっくり。

でも　地車のけんかのような殺気だった空気もなく、お互いラグビーのスクラムのぶつかり合いを楽しんでいるような空気で、見ている人もそれを楽しんでいる。　観光客を意識しない、昔からの町を挙げて　祭りを楽しむこの左義長祭りの伝統が今も残っているのだろう。　よう　怪我人がでないものだと思うのですが、酒を飲みすぎている風もなく、それぞれの左義長があまり無茶をやらないようそれぞれ良くコントロールされているのだろう。　子供の佐義長同士でも組み合わせが行われていたのにもびっくりでしたが、良くコントロールされているので、怖さはない。

左義長祭りのクライマックスは夜のようですが、昼間　境内の中で行われる左義長同士の組み合わせ「けんか」も子供の頃を思い出す、迫力のあるものでした。この左義長同士の組み合わせ「けんか」を経て　夜　それぞれの左義長に順番に火をかけて祭りが終わる。火をかける時間が8時頃　全部祭りが終わるのが夜半と聞いて、それを見るのはあきらめました。

境内には人であふれかえり、熱気ぷんぷんなのに本殿前には人まばら。本祭りが4月の「八幡祭り」でほとんど神社臭さがなく、観光客に見せるというより、それぞれ　町ぐるみで祭りを楽しんでいる風に見えるのもそのルーツからの伝統に根ざしているのかも知れません。ここにも信長の時代バサラの気風が残っているのかも知れないなあ・・・と。

おもしろくもあり、うらやましくもある祭り　奇祭である。

そんな　湖東に春を告げる近江八幡の「左義長祭り」昼の祭りの様子を写真アルバムにしました。

写真アルバム　滋賀県近江八幡　左義長祭　2009.3.15.

3.　近江八幡　水郷　西の湖

近江八幡 八幡山から眺めた水郷･西の湖

近江八幡の旧市街地から約 2km ほど東へ市街地を抜けたところに、葦原が広がる水郷風景が広がる湖　水郷「西の湖」 がある。西の湖につながる葦原の広がる湿地の水路を舟に乗って巡る写真。 私も一枚そんな風景写真を撮りたいと、左義長祭りを見た夕方、足を伸ばしました。

残念ながら 4 月にならないと定期舟がでず。 葦原が広がせる水路に沿って西の湖まで歩きましたが、ここでも 美しい琵琶湖の春の景色を見ることができました。

水郷　西の湖 湖岸より　東側
湖の向こうに能登川 雪をいただいた伊吹山 霊仙山を遠望

水郷　葦原の水路より 北側
山々の背後に琵琶湖が隠れている

近江八幡の東側に広がる西の湖を中心とした広大な湿地 水郷 葦原の水路

水郷の南側には良く整備された田園地帯 緑の麦畑が延々と続く 右端が 近江八幡 新市街地方面

良く整備された畦では春を告げる土筆が顔をだし、畦の野焼きが始められていた

水郷　湿地帯の中央部　多くの葦原を形成しながら琵琶湖に流れ込む長命寺川周辺　　2009.3.15.

近江八幡　水郷　　2009.3.15.

近江八幡水郷の湿地帯はへら鮒
そして野鳥の宝庫
最近　へら鮒の大物が続けて釣れたとかで
多くの釣り人が糸をたれていた。
また、湿地にはカモなど多くの鳥が　葦原の
間を泳いだり、飛び立ったり。
水郷巡りの舟が行き交う前の
ゆったりとした空気の春の景色です。
また、能登川で見られなかった伊吹山が西の
湖の湖面の後ろに白く輝いているのがみら
れました。

【写真アルバム】

4. 西播磨佐用　たたらの里に咲くカタクリの花と一本桜

兵庫県佐用町〔旧三日月町　弦谷　＆　旧南光町徳久・漆畑　〕　　2009.3.31.

旧南光町漆畑　光福寺の「大イトザクラ」

旧三日月町弦谷のカタクリ

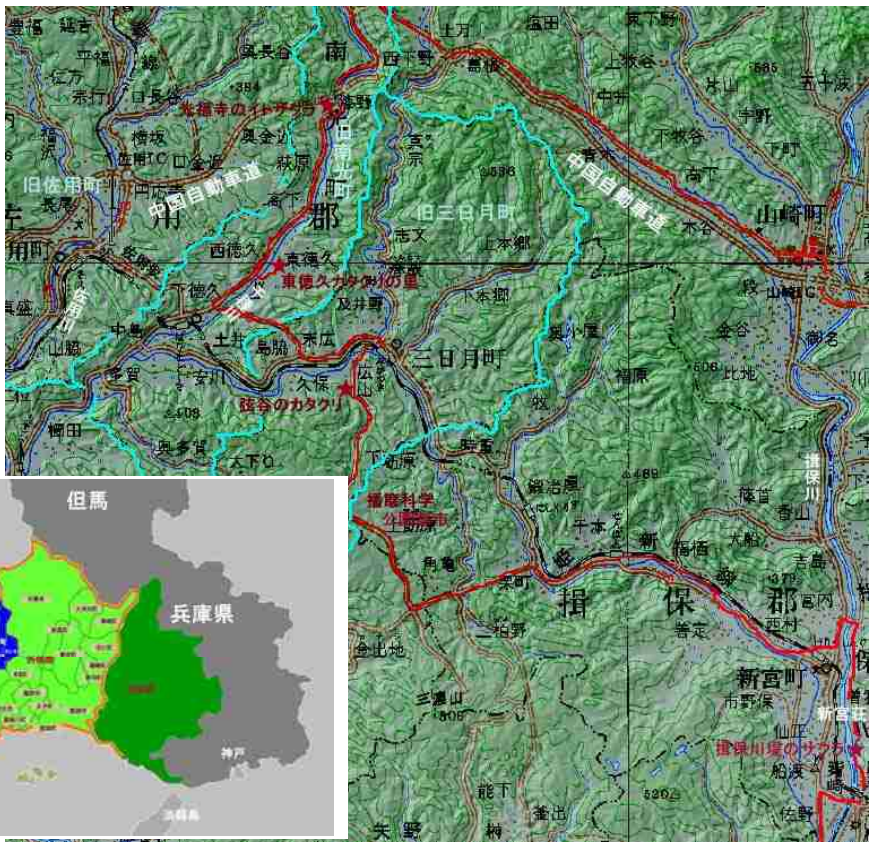
東徳久　カタクリの里で

春を飾る華やかな花が「桜」であるのに対して、春の里山の雑木林の中でひっそり咲くのが「カタクリ」の花
花言葉は、「初恋」とか「寂しさに耐える」　風に身を震わせるその姿はぴったし

西日本で咲くカタクリは氷河時代の生き証人。
地球の温暖化と共に里山東側斜面の山陰に追われ、まだ冷たい春の風に身を打ち震わせながら咲くピンクの花。
そのなんともいえぬ姿に「ガンバレヨ!」と声を掛けたくなる花で一番好きな花のひとつである。
また、満開の花をつけた一本桜の老木には　元気に生き抜いてきた風格と力強さに、
春　やっぱり出会いたくなる花である。

桜便りが伝えられるようになると毎年気になるカタクリの花。 近年の地球温暖化の進行で西日本の群落もめっきり小さくなったと聞いて、無性に「カタクリ」の花に会いたくなって、3 月 31 日　暖かい日和に誘われて　カタクリの花に合いにでかけました。
場所は　たたらの里　西播磨　佐用町　旧三日月町の弦谷。 千種川の本流・支流が中国山地から流れ下るこのあたりは　古代からの「たたらの里」。 佐用町の大撫山周辺　南光町の中国道沿い　そして　北の千種・岩鍋と何度も通った所である。

西播磨の山奥ですが、神戸からは中国道沿いに北播磨の中心「山崎(宍粟市)」から西へ行くか、まっすぐ西へ相生に出て、そこから北へ新道を放射光施設〔スプリング 8〕のある播磨科学公園都市を抜け、佐用に向かうかどちらか。春の景色を楽しみながら、原付で 4～5 時間の距離である。〔高速道路を使えば　1 時間ちょっとで佐用までゆける。〕

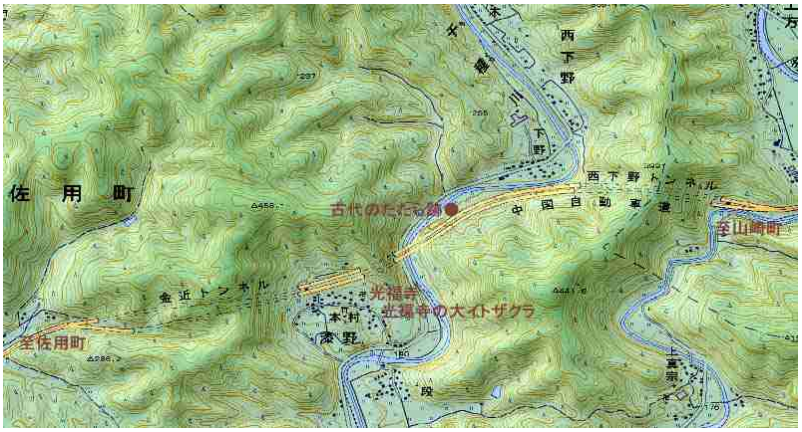


途中　ラッキーなことに旧南光町西下野の中国自動車道の橋をくぐった漆畑の集落で思いもかけず、早咲きで満開になった光福寺の一本桜「光福寺のイトザクラ」にも出会えました。 また、弦谷のカタクリの花と共に　千種川が流れ下る南光町東徳久の山裾の北斜面に咲くカタクリにも出会えました。
そんな春　西播磨たたらの里で見た花の写真アルバムです。

1. 旧南光町漆畑　樹齢 300年 枝垂桜の一本桜　光福寺「大イトザクラ」

旧南光町漆畑 枝垂桜の一本桜 光福寺「大イトザクラ」　2009.3.31.

千種から狭い谷間を南へ流れ下ってきた千種川が山崎断層の中を西に走って北中国自動車道の下をくぐり抜ける。その川沿いの谷間から少し奥へ山間を入ったところに漆畑集落が隠れ里のように静かにある。 その集落の中心の高台に石垣の上に山門がある光福寺。 山門脇の土塀の上から四方に枝を張り、垂れ下がった満開の桜が顔を覗かせている。土地のお年寄りが椅子を並べて、この堂々とした姿に見入っている。
私もその横に立ってその堂々とした姿に見入る。
見事な一本桜である。



土地の人たちに守り継がれたこの寺で、この桜がいつも集落を見渡し、村の人たちもこの桜をよりどころにしてきたに違いない。
観光化していない素朴な隠れ里で静かに　一本桜を独り占め。
今年初めて出会えた一本桜にうれしさがつのる。

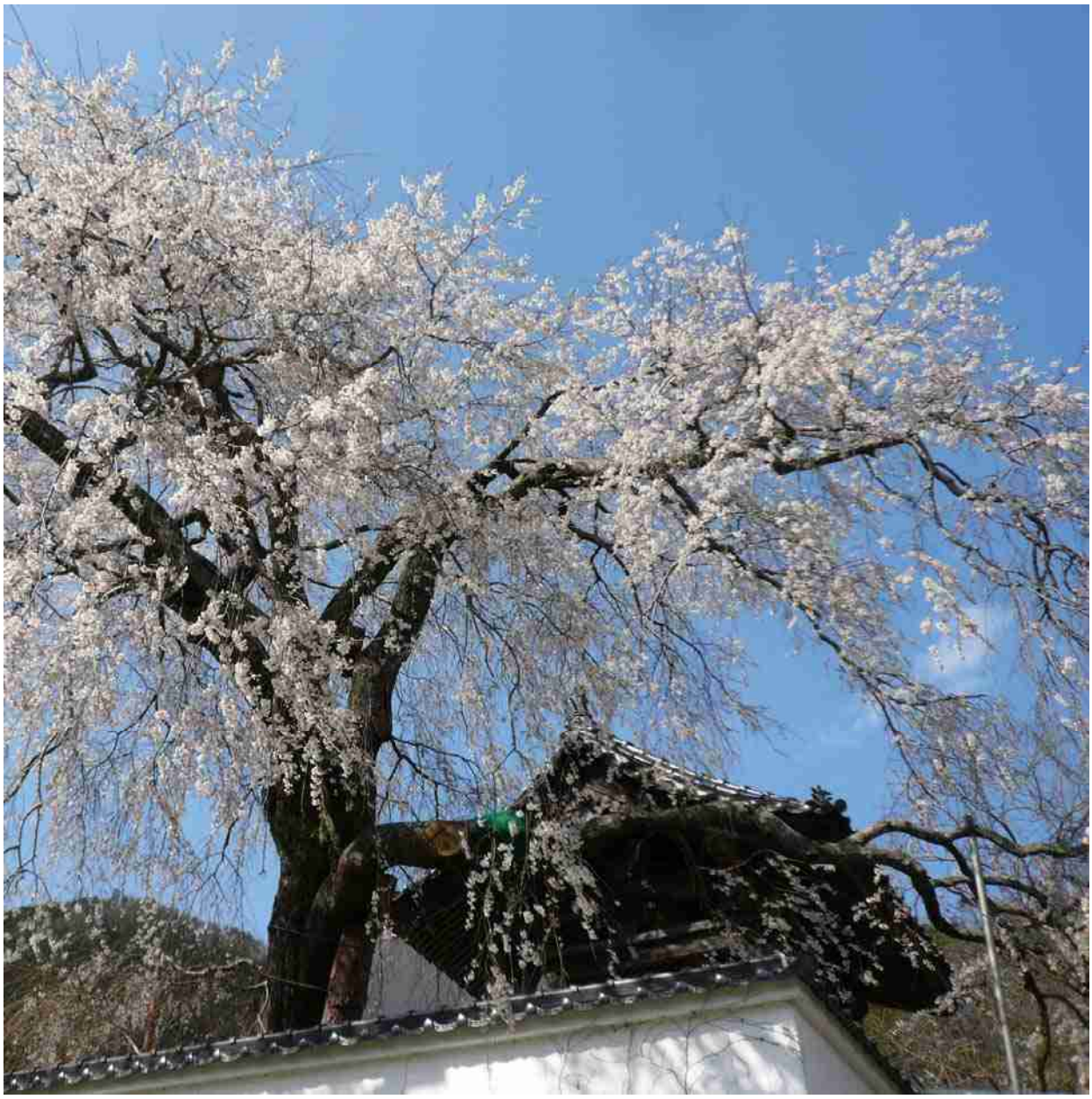
光福寺の大イトザクラ

根回り 8m　高さ 13m　推定樹齢約 300 年のシダレ桜の老大木。毎年　3 月下旬から 4 月上旬に開花。
2～3ck の柄の先に 1.5～2cm の淡紅色の花を一花房に2～5個散形状につける。
満開時には四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体が淡紅色に彩られ壮観である。

光福寺の大イトザクラの案内板より

四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜 「大イトザクラ」〔1〕　2009.3.31.

四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜 「大イトザクラ」〔2〕　2009.3.31.



四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜「大イトザクラ」〔3〕　2009.3.31.

四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜 「大イトザクラ」〔4〕　2009.3.31.

千種川が流れ下るたたらの隠れ里　集落を静かに見守る一本桜　光福寺の「大イトザクラ」 の里　漆畑　　2009.3.31.

2. 旧南光町東徳久　殿崎のカタクリの里

足元を千種川が流れ下る丘の傾斜地の雑木林カタクリの群落　旧南光町　東徳久　殿崎のカタクリの里　2009.3.31.

漆畑の光福寺の「大イトザクラ」を観て、元の千種川沿いの道に戻って、西へ 5 分ほど行って　徳久の集落にかかった所の橋の袂に「カタクリの里」の案内板。知らなかったカタクリの里。
橋を渡ったところに座って談笑しているお年寄りに「すぐ横の川沿いの丘の斜面で、今　きれいに咲いている」と聞く。

川沿いの道を少し戻って　河岸段丘の上へ少し登った雑木林の傾斜地に、見事にピンクの花を咲かしている群落がありました。
「弦谷」の群落から比べるとちょっと小さいが、愛らしいピンクの花が幾つも傾斜地に直立して身を風に揺すっている。 この姿に出会いたかった。
斜面に顔をこすり付けて花を見る。 余り知られていないのか　ここでも独り占めでした。
昨年に比べると随分　少ないという。 群落が狭まっていると聞きました。

小さなピンクの花が　顔をこちらに向けて　風に身を揺すっていました　　東徳久　殿崎のカタクリの里　　2009.3.31.

3. 旧三日月町　カタクリの群生地　弦谷

旧三日月町弦谷のカタクリ群落　　2009.3.31.

カタクリの群落がある弦谷の東側の急な斜面　　弦谷　カタクリの里の入り口　2009.3.31.

東徳久のカタクリの里から、弦谷のカタクリの里へは少し佐用の方へ行って、太田井橋（林崎）のＴ字路を橋を渡って南へ三日月町　播磨科学公園都市の方へ行けばよいが、ここまで来たら、やっぱりたたらの里　佐用の大撫山が見たくて、一旦そのまま佐用坂を越えて佐用の町へ行って、再度引き返した。

太田井橋を渡って、山間にはいり、峠を越すと旧の三日月町。 姫新線沿いになる所で、播磨新宮・弦谷の案内板で南へ折れ、線路を越えて山間に入るすぐのところが、弦谷の小集落。道の左手の小さな雑木林の小山の東斜面がカタクリの群生地。

見覚えのある集落の細い道にはいり、山際に行くとカタクリの里。 もう日差しが弱まった３時過ぎ。

花を閉じたのではないか　また、群落が小さくなったのでは・・・・と心配しながら　入口の管理のおばさんに声を掛ける。「今　一番いい時　　斜面一杯に咲いている」と。 、この弦谷のカタクリは青みの強い花が咲く。

急勾配の山腹に斜めにけられた観察路に入ると、日当たりの良い南斜面側では　カタクリの群落が少し消えていましたが、斜面一杯に咲き誇るカタクリの花。

2004 年春以来のご対面　一安心である。

この弦谷のカタクリの群生地は急勾配の山腹の斜面に花が咲いているので、群生するカタクリのすぐ前まで顔を近づけられるので、他では得られないアングルのカタクリの写真が取れる。

今日はそれほどでもないが、一番の魅力は垂直に立ち、風の正面に顔を向け、身を震わせる姿。

知らず知らずにそれを探す。

旧三日月町　弦谷　カタクリの群生地で　　2009.3.31.

4.　帰りは夕日に映える 播磨新宮 揖保川の堤の桜を眺めつつ

奥播磨　たたらの里より　流れ下る揖保川　春の夕暮れ　　2009.3.31.

弦谷を後にするときは夕暮れ近く。　たたらの里から流れ出た水が夕日に映える姿が見えるかもしれないと、
帰りは　まっすぐ南へ丘陵地を播磨科学公園都市にでて、そこから揖保川沿いを播磨新宮から姫路を経てかえろうと・・・・。
「カタクリ」に出会いたいと西播磨へ出かけましたが、カタクリと共に素晴らしい一本桜にも出会えました。

たたらの里　西播磨佐用に咲くカタクリの花　2009.3.31.

春の里山の山 陰でひっそり咲く 「カタクリ」の花
花言葉は「初恋」とか 「寂しさに耐える」 風に身を震わせるその姿に
つい 「がんばれ」 と声を掛けたくなる

播磨新宮周辺の揖保川理夕暮れに映える　土手の一本桜　　2009.3.31.

久しぶりに風に身を震わすピンクの姿に出会えて　しっか り　がんばらねば・・・と。
やっぱり、春　里山の斜面にひっそり咲くピンクの花が一番。
派手さはありませんが、しっかりと自立の気風のみなぎる花　一番好きな花です。

西の空が少し赤みを帯びだした夕方　揖保川の土手に咲く桜にその夕日が当たり、映えてきれいでし た。
揖保川とその周辺の田園がゆっくりと色を変えてゆくのを楽しみながらの勝手気ままな風来坊
のどかな陽だまりツアーでした。

2009.3.31.　夕方近く　揖保川の土手を走りながら
by Mutsu Nakanishi

【参考資料】

1. 風来坊　Country Walk

春風にそよぐ「かたくりの花」兵庫県三日月町弦谷　自生地で　2004.3 月

http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/2walk03.pdf

2. 和鉄の道　Iron Road

古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11 月

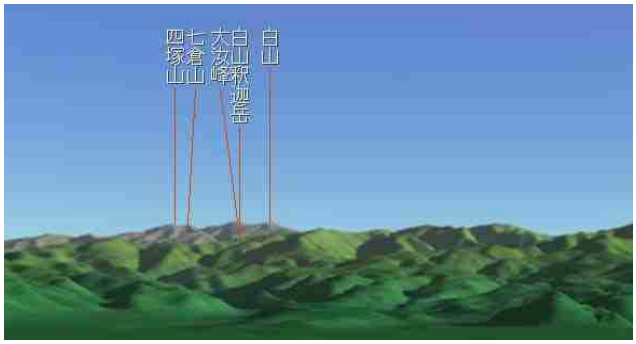
http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron01.pdf

〔 陽だまりハイク 写真アルバム〕

5.

ほのぼの鉄道 福井越前鉄道と雪を戴く白山連峰 2009.4.3.

春 勝山市の背後に連なる白山連峰　　2009.4.3. えちぜん鉄道 勝山市保田駅周辺より



雪解け水を集め、流れ下る九頭竜川 と その後ろに 白山の連峰　　勝山 越前鉄道 保田駅周辺　 2009.4.3.

春 青春 18 キップが発売されると決まって気になる場所が北陸。 決まって北陸に足が向いてしまう。
昨年春 福井 九頭竜湖線で美濃・越前国境へ遡りながら、見られなかった九頭竜川をバックにする白山を今年は是非眺めようと。
北陸の春のキーワード　おろし蕎麦 長い長いトンネルを抜けてゆく異郷の地 早春の広大な平野と遠くに連なる白い峰々。
それに「古代鉄」 若狭・加越は北陸の鉄をバックに継体天皇も出現したといわれる「鉄」の故地と関係。
早春の景色にどっぷり浸かって、また、良く知らぬ古代の製鉄関連地にも出会えるかも知れぬと。
陽だまりハイクのイメージにはぴったし。

「九頭竜川をバックにする白山」walk にはもうひとつ理由がある。福井から この九頭竜川本流沿いを遡る「えちぜん鉄道」に是非乗ってみたいのである。
かつての京福電鉄から受継いで、えちぜん鉄道が九頭竜川本流の河口から川に沿って三国・福井・勝山を結ぶ。 かつては この本線が途中で分岐して永平寺までも延びていた。
いつか見た TV で観たえちぜん鉄道のドキュメントが頭にある。「この越前鉄道に 若い女性の車掌さん（今回乗車して知ったのですが、本当はアテンダントと呼ぶそうです）が乗車し、実にきめ細かく乗客の世話をして、実にほのぼのとした雰囲気が電車に漂い、それが人気となって乗降客が増えた」と言う。
昔 京福電鉄の時代に永平寺まで乗ったことはあるのですが、京福電鉄の時代からどんな風に変わったのか それも興味。

4 月 3 日　早朝　青春 18 キップを持って「福井へ　おろし蕎麦食べにいってくるわ」と家を出る。

今は　敦賀へ直通の新快速が出来たので、神戸から敦賀までは直通。敦賀で乗り継げば、福井まで 1 回の乗換えで行ける。

今回は朝ちょっと出遅れ、神戸 7 時 49 分初の新快速。 敦賀での乗継待ちを避け、早く福井へ到着したくて、新快速長浜行。

長浜から敦賀まで特急 1 区間乗り継いで,11 時 41 分福井着。

福井駅周辺は北陸新幹線の工事と並行して　南北に走る北陸線の高架化と線路の両側の市街地改造が急ピッチに進められ、この 4 月　駅の高架化と駅前周辺の整備完成により、従来は北陸のなんとなく重苦しい地方都市の駅だったのが、明るい活動的な駅周辺に一変していました。

北陸新幹線と並行した福井駅高架化・駅前改造ですっかり変わった福井駅周辺

えちぜん鉄道の福井駅は JR 福井駅の南側へ出た高架沿いの小さな駅舎。

構内に入ると自動廉売気がない。小さなキップの売り場がある簡素なもの。路線図をみると永平寺への路線がない。

京福電鉄からえちぜん鉄道に引継ぐ時に廃止され、今は永平寺口駅から永平寺の山門前までバス連絡となっていると聞く。 古代の鍛冶工房跡があるという九頭竜川の河口の三国へゆくか　永平寺に行って　九頭竜川を勝山方面へダイレクトに遡るか　迷っていると「すぐに　勝山行がでます。 また、永平寺に行くなら拝観券・シャトルバスセットの乗車券がいい。」と窓口から声。

「とりあえず　永平寺へ行って　そばを食べて・・・・・」とセット券を買って　電車に飛び乗る。

JR 福井駅出口すぐ横に隣接するえちぜん鉄道福井駅　2009.4.3

平日の昼食時　一番閑散とする時間帯であるが、電車の座席はざっと埋まっている。電車が走り出し、各駅に止まってゆくが、ほとんどが無人駅なのですが、人の乗降がある。

地方の昼下がりの電車はがらがらで人の声もせず、また、無人駅には乗降もないというのが昨今のですが、えちぜん鉄道では車内に話し声がし、駅では常に乗降がある。

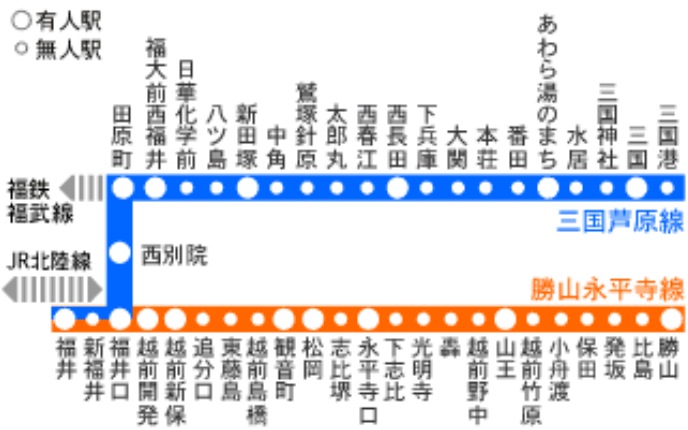
「これは違うぞ」である。

えちぜん鉄道のキーワードは

「女性アテンダント・地域密着のサービス・ほのぼの接客」と聞いていましたが、まさにそれ。ほのぼの電車の体現でした。

街の中心で、人であふれていた駅が　今は無人駅となり、何にも出きなくなり、列車の発着も激減して、公共機関としての役割もままならぬい現状と随分差がある。

この鉄道に公共機関復活　駅を中心とした街活性化のキーワードがあると乗っていて本当に楽しい電車でした。



勿論　久しぶりの永平寺　九頭竜川の流れの向こうに真っ白な峰々をみせる白山連峰も見ることができました。
また、今回は歩けませんでしたが、弥生後半から古墳時代の初め「鉄」の先進地をほこった北陸の王国の中心　松岡古墳群やそれを支えた鉄器工房集落　林・藤島遺跡がこの沿線のすぐ近くであることを知り、土地勘が出来ました。
次は事前に確り調べて　福井平野　鉄の大王国 Walk にもう一度来ようと。
そんな　ほのぼの電車　えちぜん鉄道 Walk の体験を沿線写真アルバムとともに紹介します。

1. ほのぼの電車　えちぜん鉄道　永平寺勝山線　車中で

列車内にただよう　ほのぼのとした暖かさにびっくり

福井と永平寺　・勝山を結ぶ九頭竜川沿いのえちぜん鉄道　　2009.4.3.

電車が出発すると乗務する若い女性アテンダントが次々と乗客に声をかけ、切符を確認してゆく。
それが　お年寄から赤ちゃんまで　本当にみんなに一言づつ　笑顔で声を掛けてゆく。 実に自然である。
永平寺のセット切符をみせると、「永平寺口駅のすぐ出た所に　路線バスもいるが、えちぜん鉄道のシャトルバスが待っている。
帰りも　そのバスで・・・・」と永平寺の案内パンフ　シャトルバスの時刻表　のりば案内図　なども持ってきてくれる。
「永平寺へ行きますが、その後　白山　見たいのですが、今日は見えましたか・・・・」と聞くと「今日は素晴らしい白山　お奨めです」と。
「永平寺口から　乗り継いで、さらに勝山方面　小舟渡駅か次の保田駅辺りが良い」と教えてくれる。 一辺にファンに。
お年寄りの前では　腰を低くして　同じ高さの目線で話しかけ。乗降するお年寄りにも　本当にゆっくりと・・・・・・。
ある駅で杖をついていたお年寄が乗車してきたのですが、入口のすぐ横の席に座っていた若者がすぐ立って席を譲りました。
それを　離れてアテンダントが観ていたのでしょうか　そっと若者に近づいて小声で「ありがとう」と。

車内アナウスの本当に極めのこまかい接続案内にも驚きました。
病院への接続バスの時間・乗り方と実に地域密着の乗車している人のためのアナウスである。
電車が空いていからと言う事もありますが、観光客　地域の人　どちらも　笑顔の電車でした。

えちぜん鉄道の車内と女性アテンダント　2009.4.3　（　下段中央の写真はインターネットより　）

話が前後するのですが、九頭竜川本流と白山を眺める保田駅周辺を walk しての帰路 車窓からの九頭竜川の流れにデジカメを向けているのを観られたのか、「いい写真撮れましたか?」と声をかけてくれる。
「白山がきれいでした。出来れば、このまま　電車を乗り継いで　三国港まで行きたいのですが・・・・・。」と永平寺口までの切符の発行と共に案内を請う。 すぐに　時刻表を調べてきてくれて、「三国港まで乗継いで１時間ちょっとで行けますが帰りを考えると大阪まで帰ること考えるとほとんど三国周辺歩けないですね」と。
本当に乗客の身になっての丁寧な対応なのである。

また、自動改札口はありませんでしたが、電車は明るく清潔　本当に観やすい車内案内の大きな TV モニターが車内数箇所に付けられるなど、老朽化した地方鉄道のイメージはない。
こんな光景とサービスが出来るのも　電車が上り下り共に 30 分に 1 本　全時間帯に確保されていて、公共交通の役割を果たしているからだと見えました。やっぱり　バスもそうですが、乗りたくなる電車は　どの時間帯も 30 分間隔程度で確保されていないと人の流れが出来ないとつくづく思う。
駅前衰退改善の話を良く耳にするが、この電車・バスの本数確保からの論議がないのが実効があがらぬ理由ではないか???。
以前　えちぜん鉄道の女性アテンダント乗務のドキュメントを見たことがありましたが、今もその取り組みが継続展開され、多くの乗客で明るい雰囲気の車内で繁盛していました。 本当にうれしくなった電車。
ほかの JR や公共サービスに　こんな目線があれば・・・・・・と思います。
また、電車やバスでは　最初に 30 分に 1 本程度の本数が全時間帯に確保することを抜いた取組では　効果なし。
でも　このことに気が付いていない取組がどれほど多いか・・・・。
地方の駅に降り立って感じるわびしさです。
最近　過疎地でのスパーがセンター病院のすぐ隣に店舗を構え、頻繁に巡回バスを走らす取り組みで成果をあげていると TV が報じていました。また、以前訪れたアメリカアトランタの地下鉄と住宅地を結ぶ住民バスも　ヨーロッパの市街地の路面バスもやっぱり同じ目線に見えました。
公共交通・公共機関に考えさせられたえちぜん鉄道の素晴らしい取組でした。

2.　久しぶりの永平寺　永平寺

永平寺口からのシャトルバスと永平寺三門前　2009.4.3.

永平寺口駅に降り立つとホテルの送迎などでよく使われる 10 人乗りほどのえちぜん鉄道の小さなシャトル。連絡きっぷで　このシャトルバスでも　路線バスでも　どちらでも時間が合えば乗れるという。

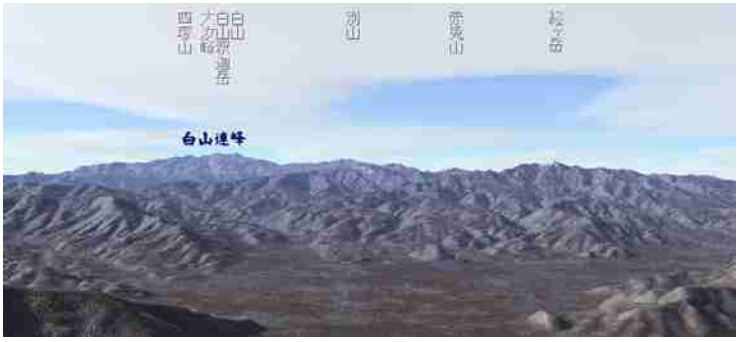
かつては　永平寺口から線路が分岐して、永平寺まで京福電鉄の路線が延びていた。

このシャトルに今日は私一人。 シーズンはずれだったこともあって、独り占め。 久しぶりの永平寺　おろし蕎麦も食べて　楽しみました。

越前　永平寺　　山内で　　2009.4.3.

3. えちぜん鉄道沿線　九頭竜川本流越しに 眺める白山連峰

春 九頭竜川・勝山市の背後に連なる白山連峰　2009.4.3.　えちぜん鉄道 永平寺町 小舟渡駅周辺より



春 九頭竜川の背後に連なる白山連峰　　2009.4.3.　えちぜん鉄道 永平寺町 小舟渡駅周辺より

春　勝山市の背後に連なる白山連峰　　2009.4.3.　　えちぜん鉄道　勝山市保田駅周辺より

渡し跡　　えちぜん鉄道　小舟渡駅周辺　　2009.4.3.

参考　弥生後期から古墳時代にかけて　福井平野は「鉄」の先進地

参考資料　「北陸の玉と鉄」弥生王権の光と影　　大阪府立弥生文化博物館より

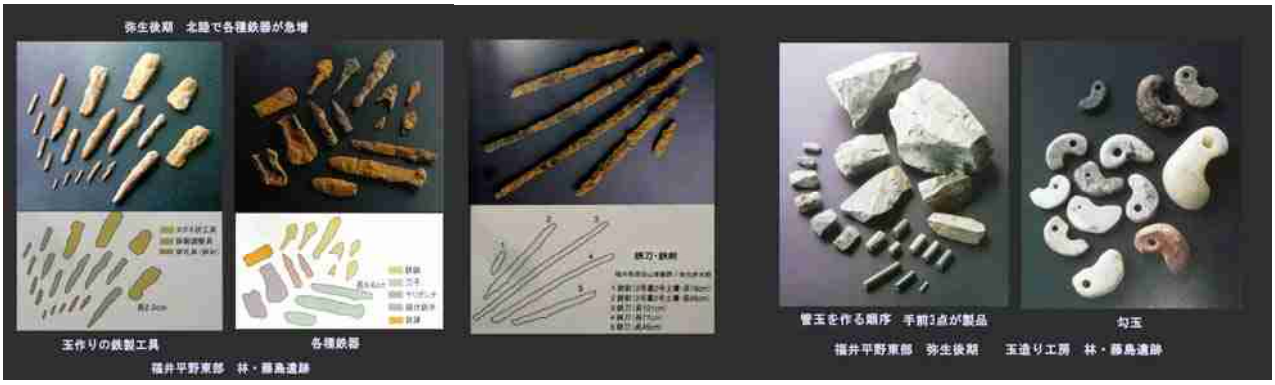
実は　九頭竜川流域が気になりだしたのは　北陸の鉄をバックに天皇になった継体天皇の系譜が福井にあることから。

暴れ川九頭竜の名は　はじめ　製鉄関連地名かと思って　その痕跡を求めて walk をはじめたのですが、福井平野を「のたうちまわる」暴れ川の流路から来ていると聞いてちょっと後ろ向きになっていました。

最近　北陸の製鉄関連遺跡や北陸の弥生に花開いた玉作り文化などを調べていて、この九頭竜川本流の流域が、古代鉄の先進地であることを知り、やっぱり、九頭竜川は　福井の母なる川であるばかりでなく、北陸の古代鉄の故地であると。

越の国を治めた最初の大首長の古墳　手繰ヶ城山古墳

- 九頭竜川の左岸近くの平地　越前鉄道東藤島駅近くの福井市泉田町の集落遺跡「林・藤島遺跡」（弥生後期、西暦200年頃）から全国でも最多の出土数となる 1000 点を超える鉄器、鍛冶（かじ）跡が見つかり、当時の福井が（越の国）が鉄器の先進地域であった事をあきらかにした。
- また、そこからすぐ南約 3km の永平寺町の松岡丘陵には、紀元 3 世紀から 7 世紀にかけての約 50 基の古墳から形成されている松岡古墳群がある古代山と王権に統合されて行く過程での北陸大王国の王城の地であることを知りました。
  古墳には数多くの鉄器が副葬されている。
  この北陸王権が林・藤島玉造り工房などへの鉄器の物流を支配していたと考えられている。



福井平野東部　林・藤島遺跡から出土した鉄器　弥生後期

上記しましたように和鉄・製鉄遺関連地がこのえちぜん鉄道沿いにあること理解したのですが、まだ資料そろわず、青春 18 キップによる時刻表と見比べながらの walk では　せわしなくて・・・・・・。

今回は　えちぜん鉄道に乗ることと九頭竜川本流から白山を眺めてくることにしました。

九頭竜川に合流する継体天皇の故地である日野川流域もまた和鉄・製鉄関連地。 こちらとあわせ是非　「鉄の故地　越の国」Walk を別途　歩こうと思っています。

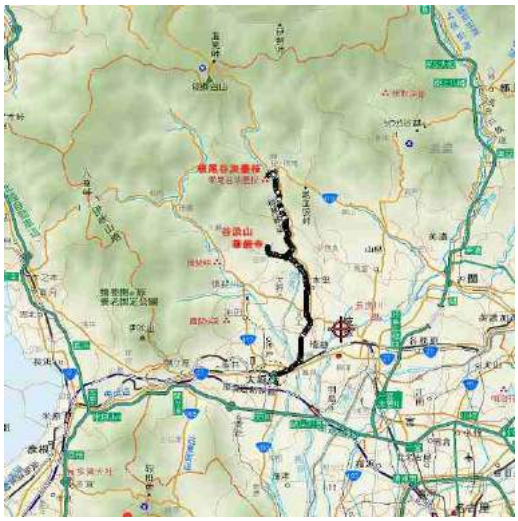
また、北陸王権の盛衰を眺めると古墳前期　旧鍛冶技術から新高温鍛冶技術への置き換わりによる鉄器工房の衰退が見て取れる。

このことは　淡路に於ける垣内遺跡の盛衰と良く似ているといえなだろうか・・・・・・

〔写真アルバム〕 樹齢 1500 余年　揖斐川　根尾谷に咲く「淡墨桜」

岐阜県本巣市　根尾　　2009.4.8.

越前と美濃国境に真っ白な頂を見せる「濃郷白山」 そこから流れ下る揖斐川の分流　根尾川の上流　根尾谷
大垣周辺で揖斐川に合流する根尾川沿いを樽見鉄道が「樽見」まで遡る
樽見鉄道の終着駅「樽見駅」の対岸　根尾川右岸の河岸段丘の上に
川を見下ろして 1500 余年咲く一本桜の巨樹「淡墨桜」
蕾のときは薄いピンク、満開に至っては白色、散りぎわには淡い墨色になる



淡墨桜のある奥美濃　根尾谷の位置　　大垣より根尾川沿いを遡る樽見鉄道で約１時間
沿線途中に西国３３ケ所　満願札所　谷汲山華厳寺への谷汲口もある

九州から始まった桜前線が南から北へ駆け抜けてゆく。 今年も また 一本桜に出会いたい。
今年は 日本三大桜のひとつで まだ、出会えていない 岐阜県奥美濃 根尾谷の「淡墨桜」に行こうと。
桜というと満開の桜の花を鑑賞するか 桜の下で春を楽しむという見方しか知りませんでしたが、7 年ほど前に三春「滝桜」に出会えて、その堂々とした風格に強く感動。「ただただ、あっけにとられてみいっていた」のが、「一本桜との出会い」を意識した最初。
こんな桜との出会いもあるのだと、毎年春になると一本桜に出会いたくなる。
4 月 12 日天声人語には
「一本桜に魅せられるのは 花ばかりでなく その節くれだった幹 その堂々とした姿。
有名でも 無名でも 一本桜は 見に行くのでなく、 出会いに行くのがふさわしい 」と。
本当にそんな心情です。
風雪に堪え、何事にも動じず、 どっしりとその地に根を下ろし、枝を精一杯広げ、満開の花で包んでくれる。
静かな気持ちの中で、ふつふつとエネルギーが満たされる。
岐阜県奥美濃 根尾谷の「淡墨桜」。
山梨県北杜市武川町「山高神代桜」 福島県三春町「滝桜」と共に日本三大桜のひとつ。
越前･美濃国境の濃郷白山から流れ出て、揖斐川に合流する根尾川が流れ下る根尾谷の奥に咲く樹齢 1500 余年の老巨樹。
数十本の柱に身を委ねた老木ながら、大きく広げた枝には、ほのかなピンク**色**の花をつけ、淡いピンクから満開に近づくにつれ白色に変化し、そして散り際には淡墨**色**を帯びることから「淡墨桜」と呼ばれる。
かつて台風や大雪など幾多の危機に見舞われたが、そのつど 多数の人々の努力と手厚い保護により不死鳥のごとくよみがえり、人々を楽しませてくれている。 今年は是非 満開の花をつけたその姿を見に行こうと。
淡墨色の実際にも出会いたい。

4 月 12 日 朝日新聞の天声人語より

▽ 日本三大桜の一本、樹齢2千年とも言われる山梨県の神代桜を訪ねた。
周囲12メートルもある幹は、黒い巨岩を思わせる幹から清楚な花が乱れ咲く。
瘤だらけで洞をなし節くれだっている。その貫禄は残雪の南アルプスに向かって、一歩も引かない。
▽ 桜の花は万人に愛でられるが、幹もまた捨てがたい。
「桜の画家」で知られる中島千波さんは、「花を描くというより幹を描く」といい、桜の表情は、
花よりも幹に真骨頂があるのだという。
もう一つの三大桜である樹齢 1500 年という岐阜の淡墨桜を初めて見た中島さんはその幹に圧倒されたという。
「古代人がそこにいるように感じた」そうで、以来歳月を重ねた一本桜の肖像画を描く気構えで桜に向かうという。
▽ 群生の桜は「見に行く」だが、有名でも 無名でも一本桜には「会いに行く」というのがふさわしい。
4 月 12 日 朝日新聞 「天声人語」より 抜書き整理

「淡墨桜」のある根尾谷は越前･美濃国境の濃郷白山からまっすぐ南へ流れ下る根尾川の流域で、根尾川は山を越えてひとつ西の谷筋を流れ下る揖斐川に大垣周辺で合流する。交通アクセスは大垣から根尾谷の奥部 樽見まで、根尾川沿いの渓谷を樽見鉄道が伸びていて、約 1 時間で結ぶ。そして、終着駅「樽見駅」の対岸 根尾川右岸の河岸段丘の上に、川を見下ろして 1500 余年。 一本桜の巨樹「淡墨桜」があり、蕾のときは淡いピンク、満開に至っては白色、散りぎわには淡墨色になるという。
この根尾谷の一番奥「濃郷」から濃郷白山を北に越えると越前大野。また、 この樽見鉄道の途中駅「谷汲口」からは、西国霊場 33 ケ所 満願札所の谷汲山華厳寺がすぐ近くで、多くの参拝客でにぎわう。 ここも桜の名所と聞く。
この根尾谷の東側 長良川が流れ下る谷筋もまた、美濃と越前を結ぶ街道筋で、福井／美濃太田を結ぶ越美線の建設が進められたが、ついに国境越えはどちらも悲願ながら実現ならず。濃郷白山･白山と続く越前国境 奥美濃の地形の厳しさがわかる。
今はようやく東海北陸連絡道が富山へ伸びて、北陸への高速アクセスが実現した。
大垣や揖斐川沿いへは仕事で何度も訪れた工場があり、大垣駅で何度も見ていた樽見鉄道なので土地勘はある。
あまりにも有名な「淡墨桜」 満開の時には 本当にすごい人なのだろう。 でも 出来れば、名前の由来となった「淡墨」色の時に出

会いたいとインターネットで満開の時期を調べつつ、満開の報が出て数日たった４月８日　快晴の早朝。家内と二人　青春 18 キップ片手に根尾谷の「淡墨桜」と谷汲山の桜を訪ねて大垣へ。
そして、そこから　満員の樽見鉄道の列車で根尾渓谷を分け入って、根尾谷「淡墨桜」へ。

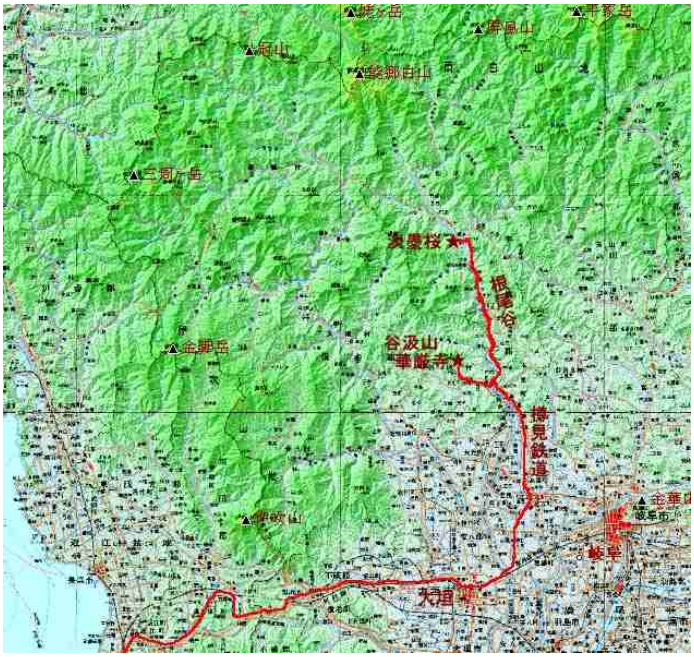
樹齢 1500 年の一本桜「淡墨桜」　堂々と左右に手を広げた「淡墨桜」
長い風雪の歴史を刻んだ太いこぶだらけの本体。過去の幾多の危機の話を聞き、また、写真で見る柱で支えられた写真の姿に心配していましたが、多くの柱に支えられてはいるものの、そのたくましい生命の息吹きというか　元気な姿に出会えました。

こぶだらけのごつごつの本体から　もうありったけの力で　左右対称に目いっぱい手を伸ばして、満開の花を咲かせ、
まるで　今が大事と　見入る人たちを鼓舞しているような姿で　素晴らしい
近づいてこぶに目をこらしたり、 手を大きく広げて　花のにおいを　胸一杯に吸い込んだり。
また。少し離れて眺めたり、 座りこんでみたり、寝そべったりと　周りをぐるっと一周。
ものは言わないが、 人をひきこんでゆく。やっぱり　いいなあ‥‥と。 出会いに来てよかった。
また、 少し離れてみると　そう　思ってみる精でしょうか　 周りの桜より　少し　白みがかってみえ、これが「淡墨」かと。

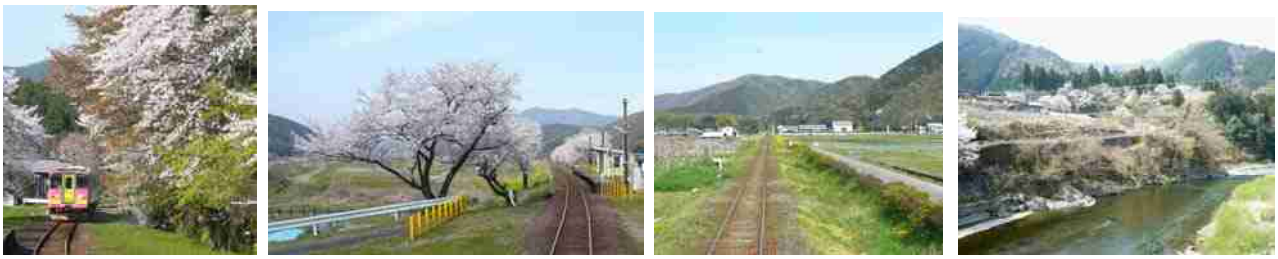
根尾谷へ分け入る樽見鉄道は桜満開の桜街道。「淡墨桜」も　真っ白な残雪を抱いた濃後白山と春の淡い緑に衣替えした根尾谷をバックに満開の薄墨色。 また　帰りに訪れた谷汲山参道も桜のトンネルも久しぶりの体験。
一日　春真っ只中　 根尾谷の春を満喫してきました。また、 今年も　素晴らしい一本桜に出会えました。

皆さんには　どんな姿に映るでしょうか、
根尾谷「淡墨桜」を中心に　４月８日　「根尾谷の春」 walk を写真アルバムにしました。

４月８日　 根尾谷「淡墨桜」 walk　 行程図



↓ 大垣へ
神戸⇒(新快速　米原乗換)⇒大垣
↓ 大垣から根尾谷へ
(樽見鉄道　根尾川沿い根尾谷) ⇒樽見
↓ 淡墨桜公園へ
(徒歩)⇒淡墨公園
↓ 谷汲山　華厳寺(ピストン)
樽見⇔(樽見鉄道) ⇔谷汲口⇔
(バス)⇔谷汲山　華厳寺
↓ 大垣へ
谷汲口⇒(樽見鉄道) ⇒大垣
↓ 大垣から新快速　米原乗換　神戸へ



桜満開の根尾谷　樽見鉄道沿線　　2009.4.8.

1. 樽見鉄道で大垣から根尾川沿いを根尾谷奥の樽見へ

春真っ盛りの樽見鉄道で根尾谷へ　2009.4.8.

10時7分大垣発　樽見行に乗車。 乗客の2/3が観光客で、其の内　約1/3が谷汲山参詣　2/3が終点の樽見へ淡墨桜見物。もっと　満員かと思っていましたが、朝早く出たこともあって、ざっと一杯。 樽見 11 時 12 分到着まで約 1 時間の列車。
構造は良くわからないが、レールバス。大垣を出発して、東海道線と平行して東へ。 それから程なく揖斐川の鉄橋を渡って大きく北へカーブして　田園地帯の中を正面に見える山へ向かう。このあたりは富有柿の産地　今はまったく葉のない柿の木の果樹園が点々とあり、線路際には菜の花やたんぽぽ　黄色の行列。そして 満開の桜。 春一杯の樽見鉄道沿線。
車内は花見客の声で華やぎを乗せて　根尾谷へ向かう。

大垣をでると東へ　東海道線と併走　揖斐川鉄橋を渡ると北へ大きくカーブして山並みへ一直線　2009.4.8.

葉が落ちたままの柿の木が立ち並ぶ沿線　樽見鉄道周辺は富有柿の産地　　本巣を過ぎるといよいよ根尾谷へ　2009.4.8.

約 30 分ほどで北の山並みが近づくとこの沿線の中心地「本巣」。そして、次の織部駅からはツアーコンダクターに引き連れられた一群も乗り込んでくる。 これは???と不思議でしたが、いよいよ根尾谷の渓谷に入り、根尾川沿いを列車が走り出す。

谷合に入り、根尾川に沿って　北へ　　2009.4.8.

時々　並行する国道がちらちら見えるのですが、車が渋滞。先ほど多くのツアー客が乗り込んだ理由が合点です。
いくつかトンネルをぬけると満開の桜が出迎えてくれる谷汲口駅。 列車は桜のトンネルとアマチュアカメラマンが写真機を構えている中　駅に滑り込む。西国霊場谷汲山に向かう人はここで下車してバスで　谷汲山へ向かう。

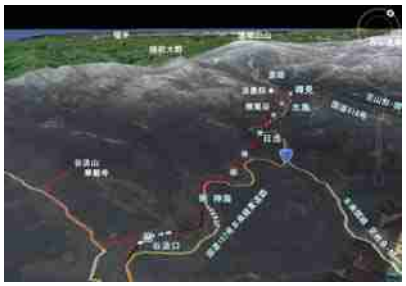
桜満開のたるみ鉄道　谷汲口駅　　2009.4.8.

ここから先はさらに狭い渓谷で　何度も根尾川を渡ったりトンネルをくぐったりしながら根尾谷の奥へ進む。
狭い峡谷を何度もトンネルを抜けて、終着駅樽見のひとつ手前　水鳥駅のところが、根尾断層が横切る地点。 神戸淡路大地震で野島断層が有名になってしまいましたが、昔習ったことがある。
ここを抜けると谷が少し広がって、視界が大きく開け、北に雪を抱いた濃郷白山　奥美濃の峰々が根尾川の向こうに見え、鉄橋を渡って　長いトンネルをくぐると程なく終点樽見駅。いよいよ　淡墨桜に会える。

トンネルと鉄橋で根尾川を縫うように走り抜けると行く手に白く雪を戴いた奥美濃／越前国境の山々が見え出す。
根尾川の鉄橋を渡り、トンネルを抜けるとまもなく終着駅樽見　　2009.4.8.

「淡墨桜」に向かう人の群で一杯の樽見駅　「淡墨桜」は駅の西側の山裾　根尾川の対岸にある　2009.4.8.

2. 根尾谷　樹齢 1500 年　天然記念物 「淡墨桜」



樽見駅より　西側　根尾川の対岸の山際が「淡墨桜」のある淡墨桜公園　2009.4.8.

樽見駅前で淡墨桜公園までの案内図を貰って駅のすぐ横のガードを潜って西へ根尾川の方へ進む。

正面に根尾川右岸の山々が連なり、その山裾に薄ピンクに色づいた桜の帯、山その上の尾根筋には緑の中点々と桜が見え、桜の花が峰の上へも駆け上がった。

根尾川の土手に沿って走る国道に出ると川より一段高い丘に桜の帯で、そこが淡墨桜公園。

その南側の駐車場へ橋を渡ってゆく車の列が続いている。歩いている我々の順路は北側の橋を渡って、淡墨公園の丘へ登ってゆくのですが、橋の袂の土手にも桜が続き、満開の花を付けている。

根尾川に架かる橋からみえる淡墨桜公園

根尾川の橋からの根尾川

橋を渡った所から丘の上へ登ってゆくジグザグ道。 その途中からは根尾川の奥に満開の桜の花越しに真っ白な雪を戴いた濃郷白山の美しい姿が見えました。 山里は既に春なのですが、越前・奥美濃国境の山々はまだまだ雪の中。

坂道を登りきった所から公園への道には露店が並び、バスツアーで訪れる人が多いのか一気に人の波。

露店越しに　大きな桜とその周りにいる人の群が見える。「淡墨桜」との初対面でした。

淡墨桜公園への登り坂の途中から仰ぐ濃郷白山の白い峰　2009.4.8.

淡墨桜公園へのジグザグの登り坂　2009.4.8.

登りきった丘の広場に満開の「淡墨桜」　多くの人が取り囲んでいました　2009.4.8.

樹齢 1500 余年　揖斐川　根尾谷に咲く「淡墨桜」　　岐阜県本巣市根尾板所　2009.4.8.

樹高 17.2m　枝張り東西 23.9m　南北 21.2m　幹周り 9.1m　の彼岸桜

川を見下ろして 1500 余年の一本桜の巨樹「淡墨桜」　蕾のときは薄いピンク、満開に至っては白色、散りぎわには淡い墨色になる

周りにある桜と比べると、なんとなく「淡墨桜」の方がちょっと白っぽい。　　これが、「淡墨色か・・・・」

「淡墨桜」の正面へ出会いに行く。 ごつごつした本体とそこから思い切り広げた枝に満開の桜。

ニュースなどで思い浮かべてきた老木の弱弱しさは微塵も感じられず。元気である。満開の花が、支柱を隠してくれていて、気にならない。満開の前に来ていたら　また　違った印象を持ったかもしれませんが、　やっぱり、満開のときに出会えてよかった。

隣に「二代目淡墨桜」が立派な桜に育っていて、代替わりの準備も出来ている。でも　これからも長く花を咲かせてほしい。

近づいて　こぶに目をこらしたり、手を大きく広げて花のにおいを　胸一杯に吸い込んだり。
少し離れて眺めたり、座りこんでみたり、寝そべったり。　周りをぐるっと一周。
ものはいわないが、　人をひきこんでゆく。　出会えてよかった。
やっぱり　いいなあ・・・・と　「淡墨桜」との出会いをしばし楽しみました。

樹齢 1500 余年　「淡墨桜」の本体のこぶと幹　　2009.4.6.

「淡墨桜」の本体のこぶと幹もすごい。
こぶだらけのごつごつの本体から　ありったけの力で　左右対称に目いっぱい手を伸ばし、満開の花を咲かせ、
まるで、今が大事と　見入る人たちを鼓舞しているような姿。　樹齢 1500 余年の命の証しである。
一本桜に惹かれるのも、この命の証の姿なのかもしれない。　じっと見ているだけで、気持ちが安らぐ。
風雪に堪え、何事にも動じず、　どっしりとその地に根を下ろし、枝を精一杯広げ、満開の花で包んでくれる。
もう、言葉は要らない。　皆さんには　どう映るでしょうか・・・・・・

淡墨桜　　淡墨桜公園で　　2009.4.8.

3.　桜のトンネル　西国 33 ケ所霊場　満願札所　谷汲山　華厳寺　参道

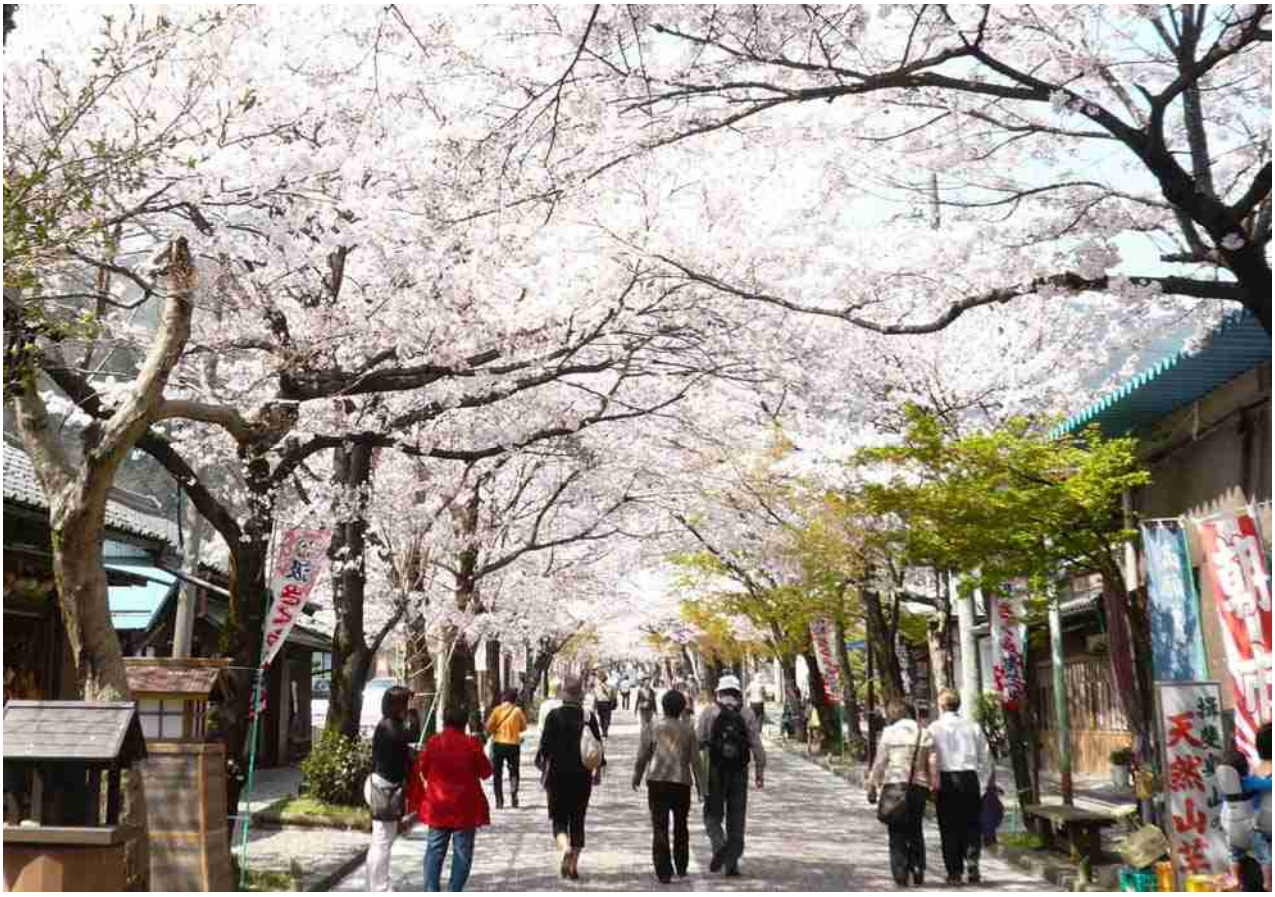
「淡墨桜」に出会った帰路、 樽見鉄道の谷汲口駅で途中下車。 西国 33 ケ所霊場　満願札所の谷汲山　華厳寺に立ち寄りました。
谷汲山は西国 33 ケ所霊場　満願札所で多くの人が訪れる場所。「まずは参詣に」と途中下車。
思いもかけず、参道は桜のトンネルに出会えました。 桜のトンネルくぐったのは何年ぶりでしょうか・・・・。
谷汲口駅では満開の桜をくぐって近づく列者の写真も取れました。

樽見鉄道　谷汲口駅で　　2009.4.8.

西国三十三番満願札所　谷汲山華厳寺山門前　　2009.4.8.

西国三十三番満願札所　谷汲山華厳寺山門　　2009.4.8.

西国三十三番満願札所　谷汲山華厳寺　　2009.4.8.



西国三十三番満願札所　谷汲山華厳寺門前　　2009.4.8.

「　一本桜に魅せられるのは
　　花ばかりでなく　その節くれだった幹　その堂々とした姿。
　　一本桜は　有名でも　無名でも
　　見に行くのでなく、出会いに行くのがふさわしい　」と。

朝日新聞の天声人語に掲載された　この言葉が気に入っています

2009.4.12.　Mutsu Nakanishi

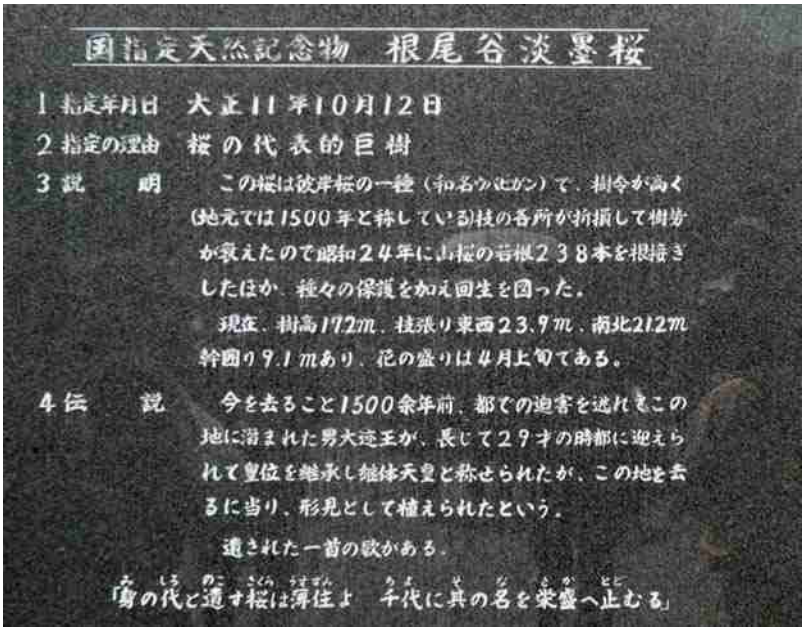
【参考】

風来坊　Country walk　福島県三春　天然記念物「滝桜」 2002 年 4 月

http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/kaze11.pdf

風来坊　Country walk　2007 年春　櫻の便り　山梨「神代桜」・「笠置」・「美祢　厚狭川堤」 2007 年 4 月

http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/6walk02.pdf



7.

Photo アルバム　花の名所　宇治　西国十番札所　三室戸寺　2009.5.5.

満開のツツジと石楠花を訪ねる　宇治川　宇治川の発電所をつなぐ送電鉄塔・導水路もみつけました

京都府宇治市　三室戸寺のツツジ　2009.5.5.

京都府宇治市　三室戸寺のツツジ　2009.5.5.

京都府宇治市　三室戸寺のツツジ　2009.5.5.

京都府宇治市　三室戸寺のツツジ　2009.5.5.

京都府宇治市　三室戸寺の石楠花　2009.5.5.

京都府宇治市　三室戸寺の石楠花　2009.5.5.

宇治川発電所の導水路と送電線が続く　三室戸寺界隈　2009.5.5.

三室戸寺界隈で顔を出した宇治川発電所の導水路と送電線　2009.5.5.

大正２年(1913)に運転を開始した宇治発電所(宇治市宇治山田)へ南郷から山を越えてきた導水路。
取水口は瀬田川洗堰の北 360 メートルの地点で、発電所まで 11 キロの水路が通されている

8.

白川峠　夫婦岩　　摂津／播磨国境の証し??　裏山の白川峠に磐座を訪ねる

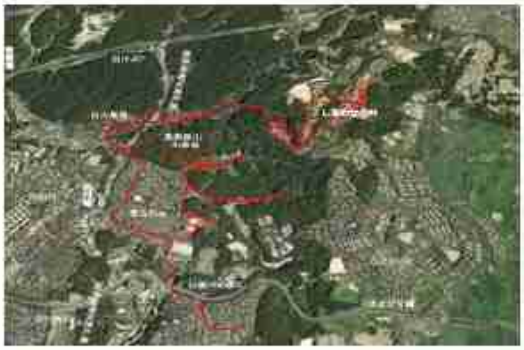
古代　西国から畿内への入口　須磨の海岸は通れず、摂津・播磨の国境は山越の証しかも???

新型インフルエンザ襲来で　動きが取れぬ５月後半　神戸の外へ出れぬ。
人ごみの中へも インフルエンザは野山へは追ってこないだろうと。
いつもは　六甲連山の西端　須磨高倉山から摂津／播磨国境の旗振山・鉢伏山へ歩くのですが、反対側の白川峠からしあわせの村へ
須磨義経の古戦場「一の谷」とヒヨドリ越へと続く播摩国境の丘陵地の中間点　白川峠　今は住宅地のど真ん中の交通。
どこに岩があるのかも見えない住宅地の真ん中。車が通る激しい十字路にﾎﾟﾂﾝと立つ案内板　「白川の夫婦岩」の案内板。
そして　この岩は　古代の二つの磐座（イワクラ）だという。
前々から気になっていたどこにあるのか知らぬ夫婦岩。
「この峠近くの山に海を見渡す高座・磐座があるというのはこの白川峠限周辺が摂津・播磨国境を越える本道の道の証し」とふっと思って この夫婦岩を通って、白川の集落の谷筋をしあわせの村へ。

この谷筋の奥まで、白川の集落がひろがっているのにもビックリでしたが。 この谷筋の小川には　もう　ホタルが飛んでいると・・・・・・。
私の家のすぐ近くに　こんな里山があるとはつゆ知らず。　近くの里山をWalkする楽しみの一つです。

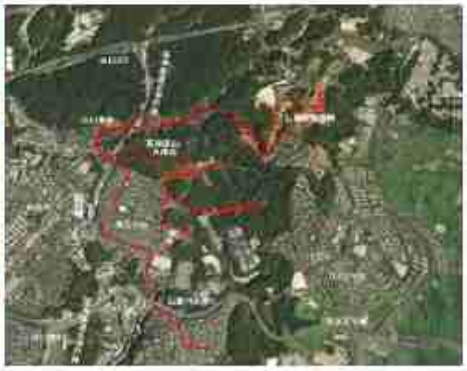
白川の集落からしあわせの村への谷筋
この谷川ではホタルがいて、もう飛び始めたと。

白川集落の里山　雑木林に包まれた高御座山の尾根筋に二つの高座　夫婦岩がありました。　かつては　この高座から　淡路島・大阪湾が見通せたという。まったく知りませんでした　2009.5.20.



白川集落　高御座山の山頂部の林の中にある夫婦岩（雄高座・雌高座）　2009.5.20.

須磨白川峠周辺は摂津／播磨の国境地帯　海岸が開かれるまで山中を抜ける主要路
西に逆落としで有名な「一の谷」　東に「ひよどり越」のちょうど中間部　古くから開けた所である
そんな白川集落の背後の里山の山中に２つの高座があり、かつては遠く明石海峡・大阪湾を見通せたという。



夫婦岩・雌高座

夫婦岩・雄高座

須磨　白川峠　　高御座山　夫婦岩・雄高座　2009.5.20.

須磨　白川峠　　高御座山　夫婦岩・雌高座　　2009.5.20.

北東側　しあわせの村　通信塔のある高倉山

南東側　　ひよどり越

南西側　　明石海峡・淡路島

高御座山　夫婦岩・雌高座からの遠望　　かつては大阪湾・明石海峡が望めたという

白川集落から見た高御座山

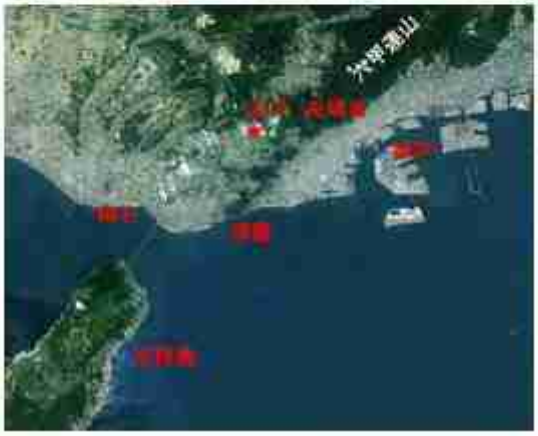
白川の集落

白川の夫婦岩

白川の村の東の方に、高御座山という山があります。その山の頂上に、高さ四メートルほどの大きな岩が二つあります。東側にあるのが男岩、西の方にあるのは高さ十メートルくらいで女岩とよばれています。

この二つの岩は、神代の昔に、日本の国を造ったイザナギノミコト、イザナミノミコトの神さまが、国造りをされたあと、それぞれこの岩にお休みになられたところだといわれています。はるか南の方に淡路島が見えるほんとうに景色のいいところで、神功皇后や安徳天皇、建礼門院もこの地にこられ、その景色を楽しまれたと伝えられています。また岩の上にわき出ているお水は「清水」といわれ、子供のない夫婦がこの岩の上に十七日間お参りして、いっしょうけんめいお祈りすると、りっぱな子供ができるといわれています。また、この水を「天然塩」にかけている人がこれを洗うと、雨も降らずきれいになおってしまうといわれ、多くの人びとが利用していたと伝えられています。この岩は、今も白川の山の中にひっそりと横たわっています。

「一伝説をたずねて―　すまのむかしばなし」より
須磨区役所



9. 神戸　六甲高山植物園　6月の花　2009.6.8.

ヒマラヤの青いケシ・高山植物の女王コマクサ　そして　エーデルワイス
六甲高山植物園では数々の高山植物が咲き乱れていました
2009.6.8.　　by Mutsu Nakanishi

六甲高山植物園　園内（1）東入口周辺の湿原

六甲高山植物園　6月　見頃の花　2009.6.8.

六甲高山植物園掲示写真より

六甲高山植物園　盛りを迎えた６月の花　　2009.6.8.

六高山高山植物園　2009. 6. 8.

六甲高山植物園　園内（2）睡蓮の池

六甲高山植物園園内(3)中央　山岳部を模して数々の高山植物が植栽された花崗岩質の丘

六甲高山植物園園内(4)　北西斜面　神秘的なヒマラヤの「青いケシ」

六甲高山植物園園内(5)　東の湿原

ちょっと盛りを過ぎましたが　クリンソウが湿原を覆っていました

六甲高山植物園園内(5)　西と東の湿原をつなぐ谷川周辺で(2)

六甲高山植物園園内(6)　南の山の斜面に咲くオオバオオヤマレンゲ

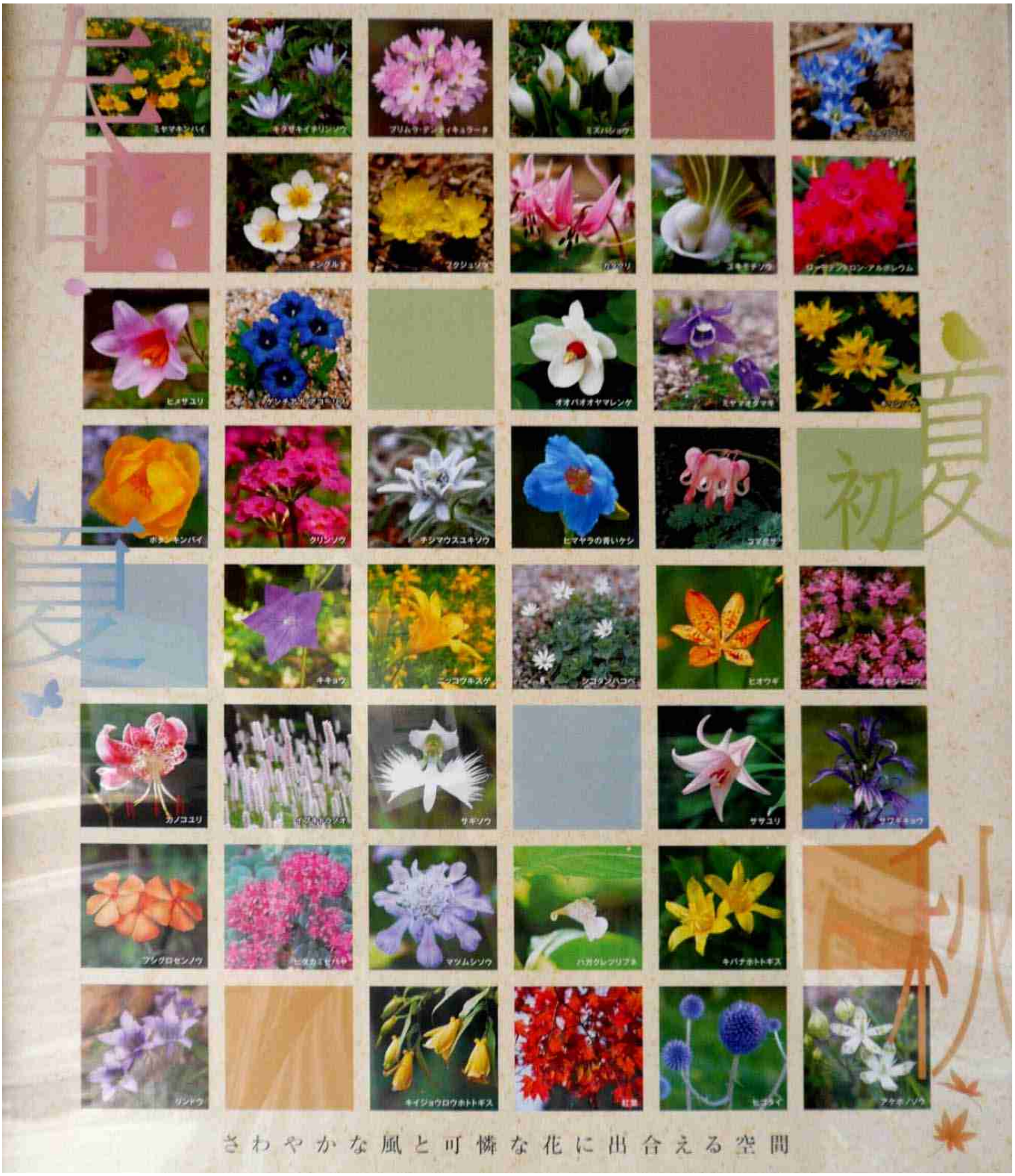
南の山の斜面に咲くベニドウザン

六甲高山植物園園内(6)　南の山の斜面で

六甲高山植物園 6月の花 2009.6.8.
エーデルワイス
ニッコウキスゲ
ヒオウギアヤメ

六甲高山植物園　盛りを迎えた６月の花　　2009.6.8.

六高山高山植物園　2009. 6. 8.



六甲高山植物園

TEL 078-891-1247

www.rokkosan.com

開園期間 3月中旬～11月中旬

開園時間 10:00～17:00（16:30受付終了）※4月～11月の日曜・祝日、および7月19日～8月31日は9:00より開園

休園日 9・10・11月の木曜日（祝日は営業）

入園料 大人600円　小人300円

アクセス 阪神御影駅・JR六甲道駅・阪急六甲駅→神戸市バス36→六甲ケーブル→山上徒歩バス→六甲高山植物園

電車とバス・ケーブルがこれ1枚で1日乗り放題
「六甲・まやエンジョイパス」で行こう！

阪神版	【大人】1,750円【小児】880円
阪急版	【大人】1,900円【小児】950円
能勢版	【大人】2,200円【小児】1,100円
山麓駅出発版	【大人】2,100円【小児】1,050円
山麓全駅版	【大人】2,400円【小児】1,200円

【 写真アルバム 】

10. 「ひまわりの夏　2009」　西播磨　古代のたたらの里のひまわり畑

西播磨　佐用町(旧南光町)西下野　2009.7.31.

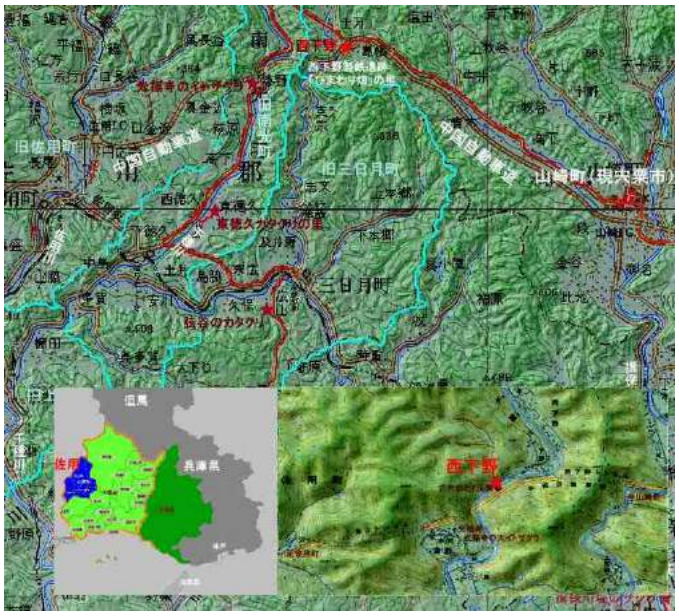
西播磨　佐用町(旧南光町)西下野のひまわり畑　　2009.7.31.

西下野　ひまわり畑　2009.7.31.

数多くのひまわりが一斉に太陽に顔を向けている「ひまわり畑」を見たいと、見られるかどうか判らぬままに、一度新聞か何かで見た「西播磨　旧南光町のひまわり畑」へ。山崎から　山崎断層地帯の中　中国自動車道と並行しながら、千種・佐用へ向かう県道53 号線を西へ山越えする。何度もたたら遺跡を訪ねた所である。千種から流れ下る千種川とぶつかる下三河の三叉路を流れに沿って少し下ったところで、川沿いの田がまっ黄色になっているのが見えた。何度も出かけたことのある「西下野」の集落で、このすぐ先は今年の春　大きな一本桜「光福寺の糸桜」を見た佐用町「漆畑」である。

この「西下野」集落が良く聞く「南光のひまわりの里」であること初めて知りました。

西下野集落で千種川の向こう山の中腹を中国縦貫道の赤い鉄橋がトンネルで山を渡って行くところで、この千種川沿いの山裾には古代製鉄跡　西下野製鉄遺跡のあったところで、私にとっては古代たたらの里である。そのたたらの里のひまわりが本当に晴れやかに太陽に顔を輝かせているのが見えました。ほんとうにうれしくなる光景でした。 巻頭の「ひまわりの夏」はそんな佐用町（旧南光町）西下野　古代のたたらの里に咲くひまわりです。



西播磨　佐用町（旧南光町）西下野のひまわり畑の位置

ひまわり畑のすぐ上では中国縦貫道の橋梁補強工事が続けられていて、 そこに働く人によると「朝　現場に入ると　ひまわりが一斉に　俺の方に顔を向けてみている。 そして　昼　夕方とぐるりと顔を回転させる。 いつも俺を見てくれているようでうれしい。ここのひまわりは本当にいいよ」と。

播磨北部（佐用郡・宍粟郡）の製鉄遺跡分布と西播磨　佐用町（旧南光町）西下野の位置

補強工事中の中国縦貫道に沿って 流れ下る千種川 この山裾に 奈良時代のたたら跡 西下野遺跡があった

ひまわりの里 西下野のひまわり畑 2009.7.31.

ひまわりの夏 2009

西下野　ひまわり畑　2009.7.31.

このひまわり畑周辺など佐用町で 8 月 10 日　台風 9 号の集中豪雨による大きな被害がでたことを知りました。
千種川･佐用川の氾濫で被災された佐用町の皆様には　心からお見舞い申し上げます。
一日も早く立ち直られることをお祈りしています

2009.8.20.　Mutsu Nakanishi

【ひまわりの夏 2 】

播磨 社町 西垂水町　2009.7.31、

播磨 社町 西垂水町で　2009.7.31.

庭先の朝顔も清楚な花をつけ、夏の到来を待ちわびています　2009.8.1、

今年 庭先で割き始めた大輪の京朝顔　2009.8.1.

朝 顔

「写真アルバム」

11. 江戸時代にタイムスリップしたかのような町並み その輪郭が浮かぶ『 寺内町　富田林 』

2009.8.15.　by Mutsu Nakanishi

江戸時代の町並みがそっくりそのまま残る 富田林市の中心「寺内町 富田林」 うっすら環状の輪郭が見える

「富田林」 大阪府の東南部 雄大な金剛・葛城連峰を背景に市の中央を南から北に大和川に合流する石川が流れる緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、古くからまちが開けたところで、夏の夜空を豪華なPL教団の花火が彩ることで有名な街である。

この富田林の街の中心部には まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような歴史的に貴重な町並み「寺内町 富田林」が残されている。

「寺内町」とは 周囲を土塁で取り囲み、あたかも寺の境内の中にそっくり町がつくられ、町人が僧侶と一緒に暮らしていた宗教自治都市。

ヨーロッパには城壁に囲まれた古い都市がいたるところにありますが、日本にもそんな痕跡を残す街並みが富田林の中心地にあり、そこに住むひとたちが、生活しながら守っている。

近くに居ながら通過することはあっても、一度も訪ねたことはなく、一度是非訪ねたい街。

8月15日 富田林に隣接する北東部の丘陵地にある近つ飛鳥博物館で開催されていた「発掘された日本列島展 2009」を見に行った帰りに訪ねました。

本当に家並みばかりでなく、街の中心地の中に 環状の面として 町割がそっくりそのまま残っているのだろうか・・・

概観はともかく、観光地化して 観光客相手の土産物店街になっているのではないか・・・・

などといささか懐疑的に訪れたのですが、さにあらず。

「寺内町　富田林」は「富田林市富田林町」の所在地名が示すとおり、富田林市の中心地なのですが、町に進出する大型店やビルで街並みの一角が壊されることもなく、区画整理の広い道路も作られず、みやげ物屋があるわけではなし。 そこに住む人たちによって生活空間として しっかり町全体が維持されているのにビックリでした。 本当に色々制約も多いのだろうと思いながら、是非 観光地化せず、町全体がそっくりそのまま残ってほしいと思いつつ帰ってきました。

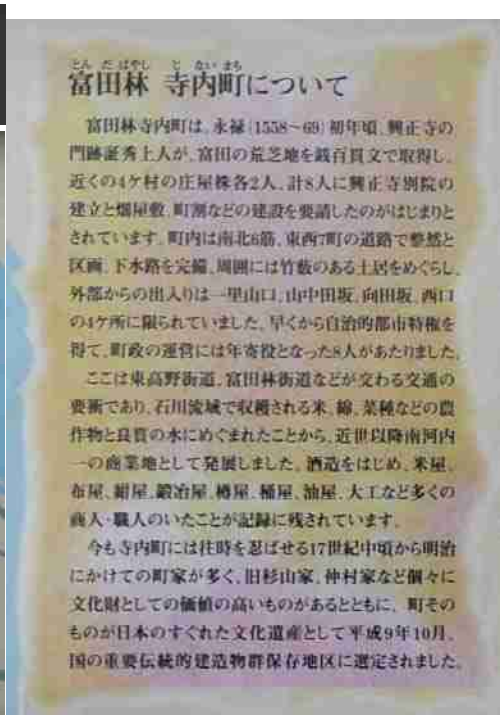
帰って google earth で 寺内町のあたりを覗くと 石川の川岸 富田林の家並みの中に 整然と碁盤の目に区割りされた街並み全体がぼんやり環状に浮かんで昔の寺内町の痕跡が見えました。
日本にもしっかり ヨーロッパ並みの自治都市の痕跡を町全体に残す町があること初めて知りました。

「これは・・・」といった建造物があるわけではありませんが、ゆったりとした気分で巡るには本当にいい街
おすすめの「寺内町　富田林」です
そんな寺内町　富田林 Walk のスナップを写真アルバムにしました。

■ 寺内町　富田林　概要

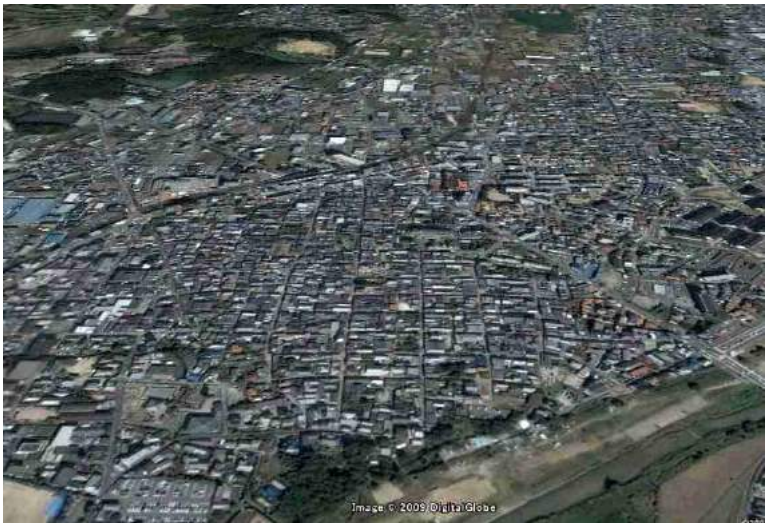
「寺内町　富田林」は石川西側の河岸段丘上に室町時代末に開かれた興正寺別院を中心とする寺内町。
本願寺一家衆の京都興正寺第 16 世の証秀上人が南河内一帯を支配していた守護代の美作守安見直政から富田の「荒芝地」を銭百貫文で購入し、興正寺別院の御堂を建立。この興正寺別院を中心として、上人の指導のもと近隣 4 か村の庄屋株が中心となって、町内を南北六筋、東西七町に整然と区画し、周囲には土居をめぐらす宗教都市を作り上げた。町全体を仏法の及ぶ空間、寺院の境内と見なして信者らが生活をともにする宗教自治都市「寺内町」を誕生させた。
江戸時代以降になると周辺地域の物資の集積や河内主酒造業の中心地として発展し、街路沿いには入母屋造又は切妻造で平入・本瓦葺の大規模な町家が軒を連ねた。
現在もほぼ寺内町の町割りをとどめ、街路に沿って江戸時代以降の大規模な町家が軒を連ねて歴史的な街並み景観を伝えている。

『写真アルバム』 江戸時代にタイムスリップしたかのような町並み その輪郭が浮かぶ「 寺内町　富田林 」



寺内町の中心　興正寺別院　　2009.8.15.

寺内町　富田林の案内板　&　壁板に「富田林町」の名が見える所在地標識

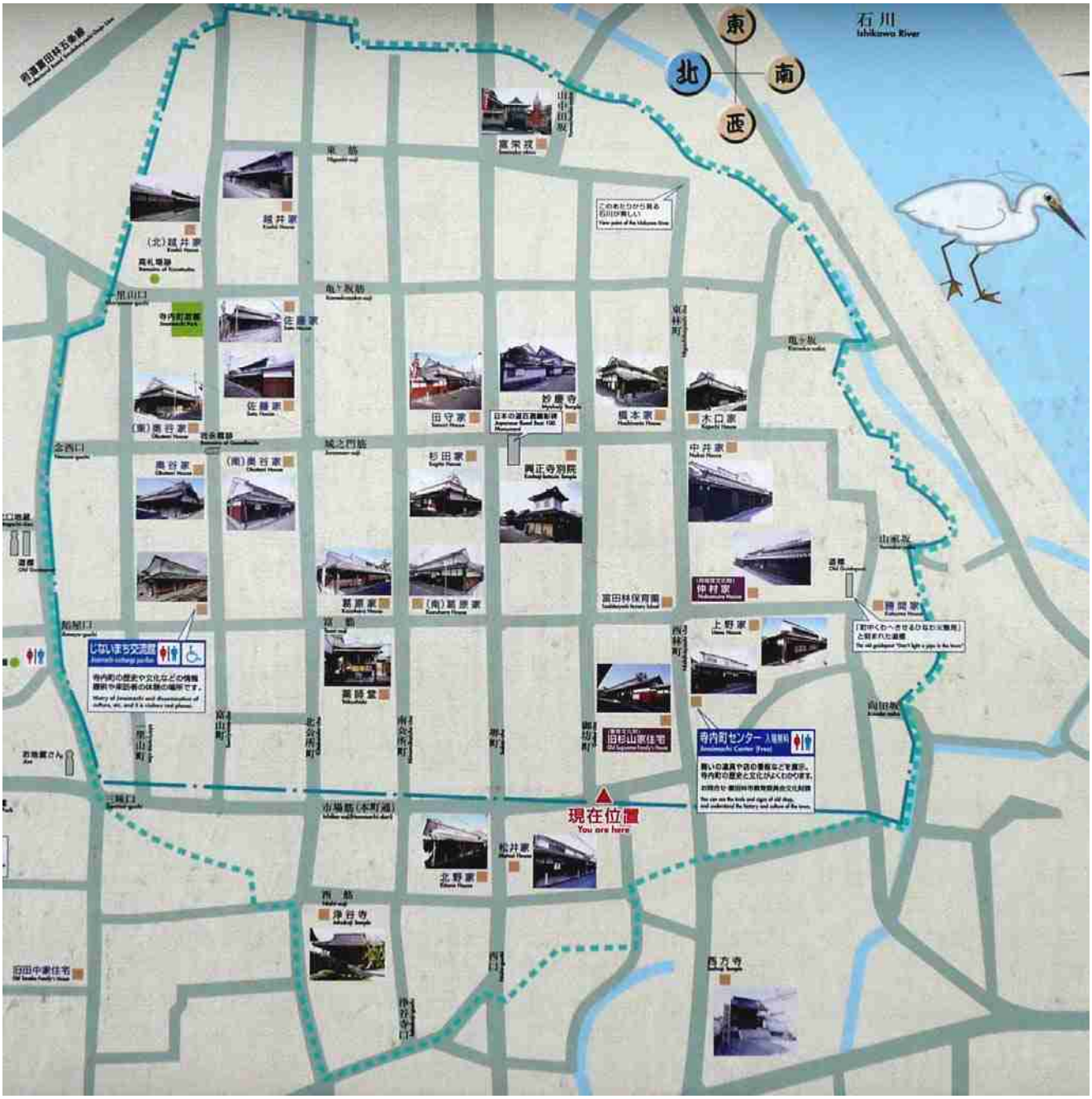


街中の辻にある東高野街道筋の道標　　2009.8.15.

寺内町への北の入口にある地蔵

寺内町は段丘のうえにあるので、坂を上って街に入る

寺内町　富田林の案内板　&　壁板に「富田林町」の名が見える所在地標識


石川
Ishikawa River
東
北
南
西
現在位置
You are here
興正寺別院
寺内町センター
旧杉山家住宅

興正寺別院

12

伏条台杉〔芦生杉〕の群生地　京北町　片波川源流　2009.9.14

京都北山　桂川・由良川の源流地帯に屋久杉クラスの巨木の群生地がある

0910kknami00.htm　2009.10.5.　by Mutsu nakanish

根元周り 15.1m の平安杉 〔参考　縄文杉は胴回り 16m〕

大橿杉　根元周り 約 13m

京都北山　京北町　片波川源流　2009.9.14.

「屋久島へ縄文杉を見に行きたい。行きたい。」と言っていたら、家内の友人から〔屋久島へ行かなくても京都北山の芦生周辺に縄文杉クラスの杉の群生地がある。何箇所か群生地があるが、行きやすいのは芦生よりも その手前片波川現流域。 尾根の斜面に巨大杉を中心に800年以上の巨大樹約50本ほどが群生する凄い森がある」と。

京都北山は学生の頃から何度となく通った所ですが、「寝耳に水」みたいな話。
でも、京都の最奥の北山・芦生地域ならありそうである。
　インターネットで色々検索するとハイカーたちが訪れた凄い杉の写真があり、「本当だ」と。
北山や比良を歩いても、巨樹を話題にしたことがなく、まったく知りませんでしたが、こぶだらけの巨体の凄い巨大杉。本当に唖然とするばかり。驚きました。〕

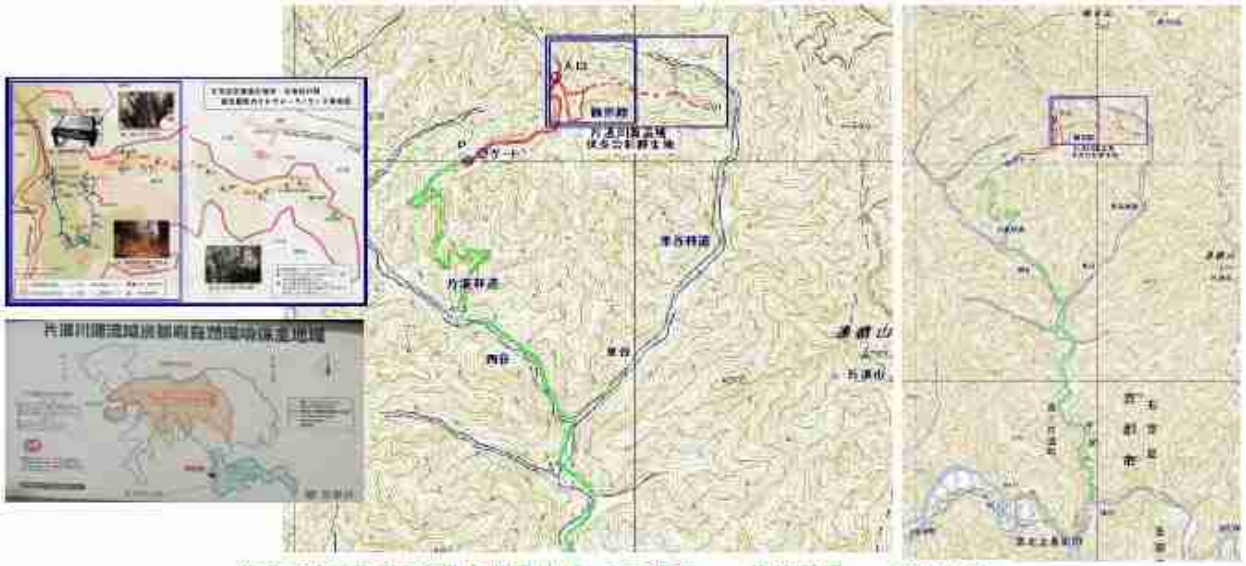
「伏条台杉（芦生杉）」というのだそうですが、 雪深い京都と福井との県境に近い京都北山の芦生周辺。
長い冬の間　杉の枝が、その身を折り曲げながら雪の重みに耐え、何度となく冬を越すうちに、ついには枝の先の方が地上に着き、そこからも芽を出す。（伏条更新）
長い時間をかけて、元の本体の周りには幾つもの垂れ下がった枝から芽を出した杉が、本体を取り囲み、やがては本体と一緒にくっつきながら成長する。
そんな何百年もの風雪と戦いながら京都北山　芦生で育った巨樹を伏条台杉というのだそうである。
縄文杉に引けをとらない巨樹が何本も山の頂上近くの尾根の斜面に林立するさまは、写真で見る屋久杉の森と引けをとらない。
京都の市街地のほんの 1 時間ほどの距離の山の中に、こんなもりがのこっているなんて、本当に驚きでした。
ただただ唖然とする凄い巨樹群生の森でした。
なお、良く知らずに地図を頼りに出かけたのですが、この巨大杉群生の森は京都府・京北町の自然環境保護地域として保護されています。
林道の道脇　群生地に入る入口のところにある群生保護地標識と観察路の道標をみつけ、そのまま巨樹の森に入り込んで、見学してきましたが、後で　インターネットを見ると、「巨樹の保護域へ入るには許可を得て　案内人と一緒に入ることを推奨している」との記事もありましたしたので、行かれる場合はインターネットほかで　よくお調べください。。
また、車がないとちょつと交通が不便でちょっと無理。また標識・案内板などもなし。
保護地の中に、簡単な観察路に沿う巨樹の位置が記された案内地図が 1・2 ケ所ありました。
巨樹周辺の保護のための措置と思われますが、広くオープンになっていないようですが、小さな尾根筋に巨樹を巡る観察路がよく整備されていました。
〔保護域へ入るのには許可を得て　案内人と一緒に入ることを推奨しているとの記事もインターネットにあり、よくお調べください。

9 月 14 日　京都市街地から訪れた片波川源流
伏条杉群生地保護地へ車で出かけたマップ

京都市内から北の鞍馬・貴船を抜けて　芹生峠越または花背峠越または西側　周山から桂川源流沿いに東へ黒田の里へ。
上黒田からさらに北へ　谷間の片波川沿いの細い道をはいり、片波の里を抜けて　片波林道へ芹生峠の道は車が一台やっと通れる悪路でお奨めできず。
出かけられる時には　インターネットで情報を調べてお出かけください。

片波林道　　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域　入口周辺　　2009.9.14.

谷筋から入って、斜面に沿って尾根筋を登ってゆく片波林道の頂上部近く。 林道脇に群生保護地域の案内板があり、これが目印でした。



伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域　入口周辺　　片波林道　　2009.9.14.

車がないとダメ。また標識・案内板なし。保護のため広くオープンになっていないが、小さな尾根筋に細い観察路が整備されています。
京都市内から北の鞍馬・貴船を抜けて 芦生峠越 または 花背峠越 または西側 周山から桂川源流沿いに東へ黒田の里へ。
上黒田からさらに北へ 谷間の片波川沿いの細い道をはいり、片波の里を抜けて 片波林道へ
芦生峠の道は車が一台やっと通れる悪路でお奨めできず。出かけられる時には インターネットで情報を調べて お出かけください。
〔良くわかりませんでしたが、保護域へ入るのには許可を得て 案内人と一緒に入ることを推奨しているとの記事もインターネットにあり。〕

樹齢８００年を超える巨大杉 伏条台杉〔芦生杉〕

京都北山　京北町　片波川源流

2009.9.4.

伏条台杉は日本海側に分布するウラスギの一種の芦生杉。
枝を長く伸ばしたものが毎年雪に押さえられているうちに地面に着き根を出して枝が幹となり、新しい株に成長する伏条更新により繁殖。
森全体が根で繋がっているかも???。

大橹杉　根元周り 約 10m

根元周り 15.1m の平安杉〔参考 縄文杉は胴回り 16m〕

巨大杉 伏条台杉〔芦生杉〕の群生地　京都北山　京北町　片波川源流

貴船から芹生峠を超えて まっすぐ北へ。岡山と花背とを結ぶ道とぶつかる京北町上黒田。
そこからさらに北へ片波川沿に西谷に入り。尾根筋へ片波林道を登ると
頂上部間じかの右手に片波川源流域伏条台杉群生地保護域の標識が見える

樹齢800年を越える巨大杉　伏条台杉（芦生杉）『平安杉』　2009. 9. 14.

樹齢800年を越える巨大杉　伏条台杉（芦生杉）『平安杉』　2009. 9. 14.

片波川源流　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域で　　2009.9.14.

大橲杉 根元周り 約13m　片波川源流　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域で　　2009.9.14.

大檜杉 根元周り 約13m　片波川源流　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域で　2009.9.14.

片波川源流　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域で　2009.9.14.

片波川源流　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域で　　2009.9.14.

高さ最大３２ｍの谷守杉

６種の木が宿る宿杉

片波川源流　伏条台杉〔芦生杉〕群生保護地域で　　2009.9.14.

伏条台杉〔芦条台杉〕群生保護地域入口周辺
片波林道　　2009.9.14.

初秋の青森･秋田風来坊【1】

13.

青森 初秋の風物詩　岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」

青森・三内丸山縄文遺跡　お月見ｺﾝｻｰﾄで　　2009. 9. 5. 夜

岩木山山麓　岩木高原　秋の風物詩　「嶽キミ」　嶽温泉周辺で　2009. 9. 4.

「青森・三内丸山縄文遺跡でのお月見」の案内を貰う。　毎年　この案内を貰うと秋がやってきたと・・・。

関西に帰ってきて　もう随分ご無沙汰の「三内丸山縄文遺跡のお月見」である。

「津軽・岩木山山麓　初秋の風物詩　名産のとうもろこし「嶽キミ」も食べたいし、久しぶりに三内丸山遺跡でお月見をしながら聞く　津軽三味線・笛の名手　山上進さんの世界にも浸りたい。」初秋の津軽の景色が膨らんで行く。

65 歳を越えて「飛行機のシルバー特割を使うと青森まで、ほんの１時間ちょっと１万円で行ける。世界遺産登録を目指す「三内丸山縄文遺跡の今」も見たいし、帰りは秋田内陸縦貫鉄道に乗ってマタギの里　森吉山に登って環状列石 伊勢堂岱遺跡のすぐ近く鷹巣北秋田空港から」とすぐに風来坊のルートが出来る。

インターネットで飛行機の空席状況を調べて「空席十分。行ける。最初の岩木山麓の宿のみ予約してあとは風来坊。」と。

９月４日早朝の便で青森に行って、岩木山・岩木高原や三内丸山遺跡を楽しみ、６日早朝に秋田　阿仁の森吉山へいって　７日午後　北秋田空港から神戸に帰ってきました。

事前の天気予報で「雨」を覚悟して出かけたのですが、

岩木山で土砂降りの雨に出会いましたが、あとは天候にも恵まれ、三内丸山遺跡のお月見はじめ、東北の初秋を満喫して帰りました。
久しぶりの津軽の仲間と眺める縄文の夜空を照らす満月に初秋を迎えた津軽・秋田　山の景色と郷土料理。
こんなに　ゆったりの旅もついぞなし。飛行機のシルバー特割を使うと　こんなにゆったり気分に浸れるのか・・・と。

この　**初秋の青森･秋田風来坊を** 1. 青森　岩木山麓・三内丸山遺跡 Walk　　2. 秋田マタキの里　森吉山 Walk
の二つに分けて纏めました。

1、 青森 初秋の風物詩　岩木高原「嶽キミ」Walk　2009.9.4、 & 9.5.朝

1.　弘前から嶽温泉そして岩木山へ

青森空港から弘前へのバスから眺める岩木山　　2009.9.4.

9 月４日朝　伊丹から、８時１０分の青森行。　がら空きの予想に反して空席がなくなってきて　前日あわてて席を確保しましたが、１席空席があり、前日予約の航空券をキャンセルして、無事シルバー特割のチケットを確保。
大阪は晴れているが、予報では東北はぐずついている。
　まあ　今回は久しぶりに三内丸山遺跡のお月見に参加するのが目的なので、天候に合わせて風来坊。
今日は岩木山山麓　嶽温泉に宿も確保してあるし、岩木山や白神の山々をバックに気楽に津軽秋の風物詩 トウモロコシ「嶽キミ」と真っ赤なリンゴが実る畑を眺めながら岩木高原の街道筋が歩こう。でも　天気がよければ、岩木山にも登ろうと。
予定通り、9 時 45 分青森空港着。天候は曇り。
岩木山の姿を気にしながら　弘前行のバスに乗り、弘前からバスを乗り換えて岩木高原へ向かう。約 2 時間ほどの行程。
青森空港から、丘陵地の林の中を西へ、丘陵地を抜け津軽平野　浪岡町の国道に出ると正面右手　田園地帯の向こうに　頂上部を雲の中に突っ込んだ津軽冨士「岩木山」が見える。久しぶりの岩木山との対面　私の好きな山の一つである。
山裾も霞んでいるが、山肌をジグザクに登るスカイラインの終点 8 合目あたりまでは展望が利きそうである。展望が利きそうであれば、そのまま岩木山へと。
　弘前で岩木高原枯木平行のバスに乗換え、まっすぐ岩木山へ向かって西へ。　弘前の街を抜け、岩木川を越えると岩木山山麓の丘陵地。リンゴの林が出迎えてくれるが天気が怪しくなり、だんだん周囲は霧に包まれ、岩木山の姿も見えなくなる。

弘前の駅前周辺

岩木川を渡ると岩木山山麓　リンゴ畑が出迎えてくれる

リンゴの林を抜け、津軽神社のある百沢温泉は霧の中　いつもなら　右手にトウキビの畑と岩木山　左手に白神の山々が眺望

でき、松並木の街道筋のところどころに「嶽キミ」の直売場の旗がひらめくる素晴らしい高原のドライブウエイなのですが、良く見えない。
弘前から約1時間　昼時に見覚えのある嶽温泉の広場でバスを下車。　目の前が今日泊まる宿である。　広場の上に岩木山が見えるのですが、良く見えず。
広場の土産物屋で、山から下りてきた人たちがかじりついている「嶽キミ」に眼が行って私も一本。
「午前中、頂上は360度　雲の間から展望が開けていた。」と聴いて、「まあ　霧でいいから、八合目まで登山バスで登ろう」と帰りの嶽温泉の道を教えてもらう。

岩木高原　嶽温泉広場　　2009.9.4.

時間が遅い平日なので登山バスは貸切状態。運転手さんにも「頂上まで　天気もつかなあ。。。」と言われながらジグザクの道をどんどん登ってゆく。登るにつれ　霧の向こうに白神の山々と日本海側の海岸線がうっすら見える。
でも　2つほどジグザグを登るともう霧で何も見えなくなった。　霧が薄くなったり、濃くなったり20分ほどで　8合目駐車場につく。　見慣れた八合目の案内板がみえるが、岩木山の山体は霧に包まれているが、ラッキーなことに雨はふっていない。

自動車専用道路　岩木山スカイライン　　2009.9.4.

岩木山スカイラインから眺める白神の山々と日本海側の海岸遠望　　2009.9.4.

岩木山スカイライン終点　　岩木山八合目

前に何度かこの八合目から岩木山へ登ったことがあるので　霧に包まれているが、登山道に不安はない。八合目から１時間ほどで頂上である。また、９合目の鳥海火口まではリフトもあり、そこからごつごつした岩の間を登れば頂上である。

霧がどんどん降りてきているが､行けるところまで行こうと頂上への登山道へ入る。　９合目までは　草木に包まれた林の中の道である。視界はまったく開けず、周囲の山も霧に包まれてしまう。

岩木山スカイライン　岩木山八合目登山口　2009.9.4.

霧がだんだん深くなり、ポツポツ雨混じりになり、雨具をつけて登る。
霧が深くなったり、ちょっと薄れたり。　そんな中　登山道の脇に白い花が美しい。

八合目から九合目への登山路で　　2009. 9. 4.

雨混じりの登山道を登りきると 9 合目　鳥海噴火口の縁にでて、右から鳥海山頂上部にあるリフトからの道が合流する。
霧雨の中　周囲はまったく何も見えない。　ごつごつした岩山の間を岩木山の頂上へ向かう登山道がうっすら見える。
もう、少し登ろうと岩の間の道を登るが、まったく何も見えず、風と雨が強くなる。

岩木山 9 合目　鳥海火口周辺　　2009. 9. 4.
鳥海山リフトとの分岐

雨風が強くなる中　九合目からの登り　2009.9.4.

薄腰登って雨が小降りになるのを期待するがダメ。土砂降りの中　頂上から降りてくる人たちも頂上はダメという。
結局　避難小屋の手前まで行って引き返して、8合目の休憩所に入る。次々と降りてきた人が着替えをする。
天候は回復しそうにないし、バス待つにしても時間がある。嶽温泉への道を雨の中　歩くのもいややなあ・・・と思案。
着替えを済ませたグループのラウンドクルーザーに下まで乗せてもらっておりました。

8合目　駐車場から白神方面の展望　霧雨でうっすらとしか見えず　　2009.9.4.

ラウンドクルーザーに乗せてもらって　ジグザグのスカイラインを下る中も霧の中　雨でしたが、スカイラインりのゲートに近づくにつれ、視界が利くようになり、ゲートを抜けると雨もあがったので、下ろしてもらって嶽温泉まで歩く。
本当に山の天気はわからない。振り返って岩木山を眺めるがやっぱり霧の中で姿は見えず。
正面の白神方面が霧から抜け出て姿をあらわし、雨上がりの美しい高原の景色。
弘前・嶽温泉と鯵ヶ沢を結ぶ岩木高原の街道との十字路の所に「嶽きみ」の直売場　そして　その後ろに嶽キミの畑が延々とつづいていました。　岩木山秋の素晴らしい景色です。

岩木山スカイライン入口周辺からの雨上がりの西目屋村・白神方面の展望　　2009.9.4.

岩木山スカイライン入口　周辺　　2009.9.4.

岩木高原　スカイライン周辺　街道筋の山麓斜面に広がる嶽きみ・トウモロコシ畑　　2009.9.4.

直売場に入って、また嶽きみを試食。甘くておいしい。
生でも食べられるが、ゆでるのが一番。　さっそく　前にも好評だった嶽きみの宅急便　孫たちとの約束を果たす。
すぐ　横で　爺さん・婆さんが、取れたての嶽キミを剥いていて、「クール宅急便代のほうが高いなあ・・・」というと取れたてが一番で　味を保存するため、クール宅急便で送る。これがこの嶽キミ農園の自負やという。
この直売場はすぐ西側に広がる枯木平の農園で、この嶽温泉周辺の山麓斜面で栽培されるとうもろこしは寒暖の差がきつく、その岩木高原の気候が甘い嶽キミを育てるという。
なんせ　青森で「岩木山に行ってきた」と言う度に　「嶽キミ」食べてきたか? と尋ねられる青森の秋の風物詩である。

スカイライン角の嶽キミ直売所　　2009.9.4.

午後3時　まだ早いが、
嶽温泉の宿にチェックインして　温泉に入ってから　岩木高原の街道筋をぶらぶらすることにする。
もう一本もらって、かじりつきながら、嶽温泉に向かう。
山は土砂降りでしたが、嶽キミと霧雨に煙る久しぶりの岩木高原に気分はルンルン。

2. 岩木高原　嶽温泉で　嶽キミWalk

嶽温泉の広場に戻って　すぐ広場の上にある「山のホテル」にチェックイン。
ほかと比べるとちょっと高いのですが、「建物の造りと温泉　そして　このホテルの看板マタギ飯と山菜料理」
山のホテルHPには
「　津軽にとって、偉大な父であり優しい母である岩木山。ここには昔、**マタギ**と呼ばれる狩人の、山と自然とともに生きた素朴なくらしがありました。今なお、岩木山麓に根づく**マタギ**のこころ。**山のホテル**は、そんな郷土の文化を受継ぎ、おもてなしのこころを込めてお迎えする津軽のお宿です。」と書かれている。
嶽温泉は岩木山山麓で、すぐ南には白神山地が広がり、この地周辺もかつてのマタギの里である。
今回　秋田県の中央部　マタギの里阿仁の森吉山へも行くのですが、マタギ飯・マタギ料理にも興味深深で前から一度は泊まってみたくて宿を取りました。

嶽温泉広場　岩木山は雲の中　左手建物が山のホテル

山のホテルの内部　　2009.9.4.

ホテルのチェックイン　カウンターで
今日の夜の料理　マタギ料理のチョイスを聞いてくれる。
「青森は馬刺。熊は好き嫌い。鹿はあっさり」と仲居の女性がニコニコ教えてくれる。「熊は食べたことないし、久しぶりに鹿のルイベも食べたい。」とチョイス。

部屋に入ると
「よく来たねし。今日一日の疲れを温泉に入り、ゆっくりとお過ごしくださいませ。
本日のお茶うけは嶽キミ」と。
嶽キミの演出に　うれしくなる。　まず　風呂に入って　それから　嶽キミにする。

山のホテル
内湯と嶽キミのお茶請け　2009.9.4.

●　岩木高原の街道筋を百沢まで Walk

嶽温泉とひとつ手前　岩木神社のある百沢温泉の間街道筋　　2009.9.4.

嶽温泉とひとつ手前　岩木神社のある百沢温泉の間街道筋は眼下に西目屋村・白神の山々を眺め、反対側にはトウモロコシ畑やリンゴ畑の向こうに岩木山がそびえる毛高原の景色が満喫できる場所。

嶽温泉で　一雨きたのも幸いあがったし、嶽キミの畑の向こうに岩木山が均整のとれた姿が見られる取っておきの場所まで、嶽キミの直売場を巡りながら　夕食前の Walk。

リンゴ畑にも行きたかったのですが、百沢からだけ温泉にかけてが、嶽キミの畑　百沢より下がリンゴ畑になっていて、そこまで行けず。　帰りに再度バスから・・・・・。

百沢-嶽温泉の間の街道筋に広がる嶽キミの畑と岩木山　　2009.9.4.

津軽　岩木高原の風物詩　　嶽キミ

● 嶽温泉　山のホテルの夕食　マタギ料理（マタギ飯）

興味深深の岩木山麓　山のホテルのマタギ料理。
山菜と山の幸・山菜が中心の料理に岩木山豚のきのこ鍋。嶽キミが茶碗蒸しになっていたのにもビックリ。
熊肉の串焼きはやつっぱり硬くておいしいとはいえませんでしたが、初体験に満足。
またぎ飯は舞茸・キジ肉・山菜の混ぜご飯　おいしかったです。
地酒「白神」をいただきながら　満足の完食でした。
朝食もほんと　こってました。　朝 7 時 30 分からというのを無理やり頼んで、7 時からにしてもらって。
十三湖の蜆がついていて　こっちもラッキーでした。

9 月 5 日朝　朝食

● 9月5日　早朝　朝焼けの岩木山 と 岩木山登山道 ぶなの林Walk

5日は雨を覚悟していましたが、朝5時に起きて、朝風呂。晴天を確認して散歩に出る。10時30分からの三内丸山遺跡の新しい発掘の現地説明会にどうしても出たいので、7時40分の一番のバスで山を降りて、弘前から青森へ行かねばならない。何とか　岩木山の全体の姿が診られないか・・・・と。

「街道を横切って　まっすぐ南へ下った池のある公園が嶽温泉随一の岩木山ビューポイント」と夜フロントで教えてもらって、まだ　少しくらいのですが、ホテルを抜け出しました。朝霧が漂う中、刻々と変化する朝焼けの素晴らしい岩木山の姿を眺めることが出来ました。また、朝食までまだちょっと時間が取れたので、30分ほどホテルの横から岩木山へ伸びる岩木山登山道を少し登って、ブナ林の散歩も楽しみました。

白神の山に月が沈む　　並木道　朝霧の中をまっすぐ南へ　　振り返る岩木山はまだ朝霧の中

街道筋を横切り、嶽の集落を抜け、湯段温泉への並木道を南へ　振り返ると岩木山は朝霧の中　頂上部に雲が巻いている

刻々と変化する岩木山　2009.9.5.　　嶽温泉　運動公園周辺で

朝霧の嶽温泉　運動公園周辺で 2009.9.5.

嶽温泉運動公園からホテル前に帰ってくると　ホテルの上にくっきりと岩木山。
もう少し時間があるので、ホテルの横の赤い鳥居を潜って、岩木山への登山道をぶなの森へ。

嶽温泉からの岩木山登山口

山のホテルの上に岩木山が見える

嶽温泉からの登山道のブナ林　　2009.9.5.　朝

●　嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より

嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より〔1〕　嶽キミの畑の向こうに岩木山がくっきり

嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より〔2〕　高原の南側　西目屋・白神の山並み

嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より〔3〕　百沢より下のリンゴ畑

初秋の青森･秋田風来坊【1】

青森 初秋の風物詩　岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」

2、 三内丸山縄文遺跡「縄文のお月見」　2009.9.5、

今日は一日ぎっしりのスケジュール。
三内丸山縄文遺跡に行って、世界遺産を目指す三内丸山縄文遺跡の今を見て、夕方からは三内丸山遺跡でのお月見。
久しぶりに津軽三味線・笛の名手山上進さんの津軽ミュージックを聞くのが一番の楽しみ。また、古い縄文仲間に会うのも楽しみであるが、おぼえているだろうか・・・・。

9 月 5 日朝　岩木山山麓から青森に着いたのが、10 時前。
来年の新幹線開業に向けた道路整備などの工事の真っ最中であるが、青森駅へ入る少し手前に新青森駅が出来るので、青森駅周辺の市街地はひっそりしている。
弘前から青森駅へ入る少し手前で、来年開業の新青森駅ならびに北海道へ渡る新幹線工事現場周辺をクロスして通り抜けてきた。新幹線は現在の青森駅へは入らず、少し西側の三内丸山遺跡のすぐ横を南北につききって、新青森を経て北海道へ向かう。（今の青森駅を通すには　スイッチバックになってしまうので、断念されたようだ。）
10 時 30 分からの本年度の三内丸山遺跡の本年度発掘調査されたに西盛土現地説明会に参加するため、急いでホテルに荷物をあずけて、三内丸山遺跡へ。現地説明会に出て、その後　ゆっくりと遺跡の中を歩いて　随分変った遺跡の今を眺めようと。
三内丸山遺跡　正面入口　縄文時遊館前でタクシーを降りて、急いで時遊館内を通り抜けて遺跡の中へ。

三内丸山遺跡　正面入口　縄文時遊館前　2009. 9. 5.　　遺跡はこの後ろである

時遊館の裏手から丘を上って、遺跡への道を急ぐ。
時遊館が出来る前とは随分印象が違う。
道を急いで走ると向こうに懐かしい 6 本柱と大型住居が見えてく、私のイメージの中にある三内丸山遺跡の景色が見えてきて、ほっとする。
広い遺跡の西端で、幾つものテントが建てられ、今日のイベントの準備が進められている。
　この西端の丘の上に収蔵庫が建っていて、その前が現地説明会の集合場所。
急いで今日の受付を済ませて、現地説明会の集合を待つ。

西の端　収蔵庫前より　三内丸山遺跡　全景　　2009.9.5.

東の端より　三内丸山遺跡　全景　　中央奥が収蔵庫　　2009.9.5.
収蔵庫の後ろに白い斜張橋が見えるのが　北海道に延びる東北新幹線である

本年度発掘調査された西盛土現地説明会のスタート　収蔵庫のすぐ横の西盛土へ上ってゆく

● **三内丸山縄文遺跡の概要**　　三内丸山遺跡公式 HP　三内丸山遺跡とは　より

http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/index.html

■　資料「三内丸山遺跡　ー縄文時代の大規模集落ー」より

http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/image/sannaimaruyama.pdf

時遊館が作られる前の三内丸山遺跡　　2000.9.資料採取

http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/jstlaa07.pdf より

縄文時代の扉を開く

縄文時代は今から約1万2～3千年前に始まり、約2千3百年前に終わりました。その約1万年間を「縄文時代」、その文化を「縄文文化」と呼んでいます。縄文時代には土器の製作と矢の使用が始まりまり、ムラが作り始められました。縄文時代より前は「旧石器時代」、縄文時代の後は「弥生時代」になります。

三内丸山遺跡から見えてきたもの

集落のようす VILLAGE

遺跡の規模は、全体で約38ヘクタールあります。これは東京ドーム約7個分くらいになります。発掘調査によって集落の構造が少しずつ明らかになってきました。

■ 集落の立地 ■

遺跡は八甲田山から続く緩やかな丘陵の先端にあります。当時は豊かな落葉広葉樹の森が広がっており、クリ、クルミ、山菜などが豊富でした。

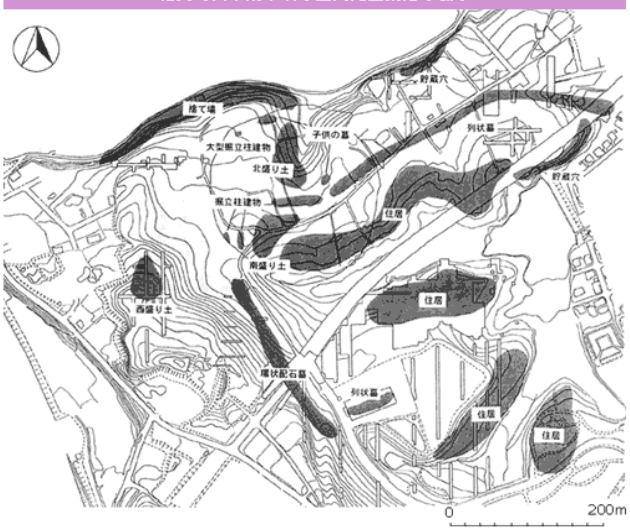
また、近くの陸奥湾は、年間平均の波の高さが約30センチメートルと穏やかな内湾で、魚が豊富でした。集落の北側を沖館川が流れており、海にそそぐ河口近くの小高い丘の上に縄文の人々は村を作っていました。

この場所は食料を得る上では好都合でした。海と森の恵みを組み合わせることによって、一年間この場所で安定した生活をすることができました。

■ 集落の構造 ■

縄文人は土地の使い分けをしていました。特に墓と普段生活している住居は厳密に分けられています。他に家が密集して作られる所、まつりの場所、物をしまう・貯蔵する場所、ゴミ捨て場などを作っていました。

■ 縄文時代中期中頃の三内丸山集落の様子 ■



墓 TOMB

大人の墓と子供の墓は区別されていました。また、道路に沿うように墓を配置するなど、墓を作るにはいろいろなきまりがあったようです。

■ 大人の墓 ■

集落の東側から大規模な大人の墓地が見つかっています。大人は亡くなると地面に楕円形の穴を掘って埋葬しました。大きさは1～2.5メートルで、手足を伸ばして埋葬されたものと考えられます。中からヒスイのペンダントややじりがまとまって出土した墓もあります。

■ 墓の配置 ■

大人の墓は南北を向くように道路をはさんで東西方向2列に、それぞれ足を向けて、向かい合うように配置されていました。

■ 墓と道路 ■

2列に並んだ墓の間には道路が通っていました。縄文時代の道路は地面を掘り下げて、浅い溝のようになっていました。幅約12メートル、長さが420メートル以上海の方向へ延び、その両側に大人の墓が並んでいました。

■ 環状配石墓 ■

集落の西側から、周りを石で囲んだ、この集落の有力者のものと考えられる墓が見つかっています。直径が約4メートル程で、土を盛っているものもありました。これらは道路にそって斜面に並んでいます。

■ 子どもの墓 ■

子どもは亡くなると、普段使っている土器の中に遺体を入れ、埋葬します。土器の大きさから考えて、おそらくは1才前後の子どもと考えられます。中から丸い石が見つかる場合が多いです。これまでに800基以上の子どもの墓が見つかっています。

技術 TECHNIQUE

■ 漆製品 ■

出土した漆器

三内丸山遺跡の低地から赤漆塗りの木製皿などが見つかっているほか、赤色顔料なども見つかっており漆製品が製作されていたと考えられます。縄文時代の前期中頃(約5,500年前)のものです。漆は一本の木からの樹液の採取量が少なく、精製に専門的な技術を必要とします。三内丸山遺跡には、そうした高い技術を持つ人がいたことがわかります。

復元した漆器

■ 縄文ポシェット ■

イグサ科の植物を利用して編んだ、小さな袋が出土しました。網代編みで作られています。完全な形のものは日本でこれだけです。

縄文ポシェットと中に入っていたクルミ

三内丸山遺跡公式 HP　　http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/index.html　より

2.1.　2009 年度発掘調査　西盛土　現地見学会

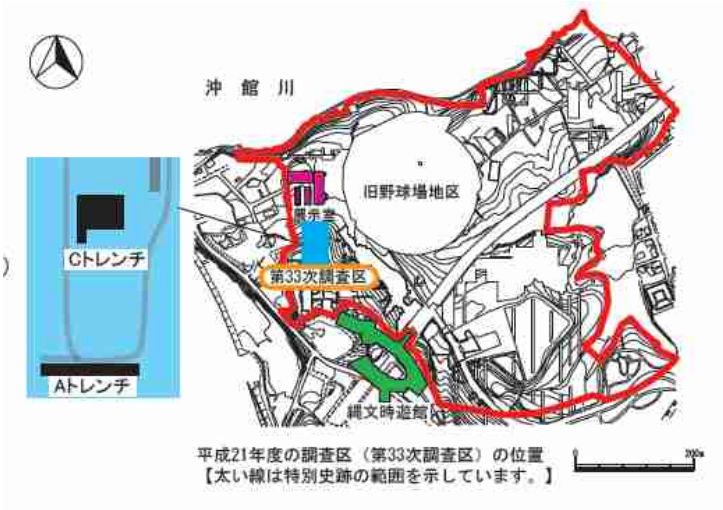
2009 年発掘調査地　　第 33 次調査区西盛土現地調査現地説明資料 より

http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/excavation/image/20090905_gensetsu.pdf

なんとか本年度の発掘調査区の現地見学会に間に合った。調査区は収蔵庫のすぐ南側　樹木が生茂る小高い丘　西の盛土。

「西盛土の大きさは東西60m、南北100m以上で最も厚い部分は丘陵頂部付近で約1.8m。盛土が作られ始めたのは縄文時代前期末葉（今から約5,000 年前）頃で最上部の中期末葉今から約4,000 年前）まで約1,000 年間にわたる土の堆積。

今年度の調査では、盛土の外縁部に竪穴住居跡（家）が、内部には埋設土器（子どもの墓）が重複して見つかり、それぞれがつくられた年代と、盛土の土層に含まれている遺物の内容等から西盛土の成り立ちや広がりについて調査 -現地説明会資料より- 」と概要の説明を受けて、西盛土発掘調査地　収蔵庫に盛土の南端に位置するCトレンチに上っていった。



西盛土の南端に位置する　Ｃトレンチ　竪穴住居と土坑跡

C トレンチ傍に西盛土から出土した遺物　　糸魚川産ヒスイの砕片も出土していました

三内丸山遺跡では数多くの糸魚川産ヒスイの加工品を見たことがありますが、砕片が見た記憶なし。

三内丸山遺跡にも原石が持ち込まれ、加工されたのだろうか?

一旦盛土を出て収蔵庫の横の道に出て、再度　西盛土の A トレンチへ登る。

こちらは樹木に包まれた盛土の頂上部に近い上部に近い傾斜地である。

西盛土の頂上部に近い A トレンチ

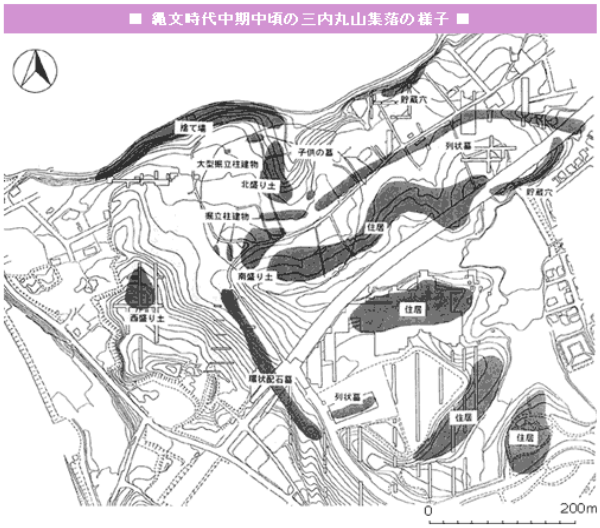
西盛土　A トレンチ　上部　　無数の土器片・石皿・石棒などが見える

埋設土器〔子供の墓〕

土器埋設炉

■　参考　【現地説明資料】http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/excavation/image/20090905_gensetsu.pdf

2.2.　三内丸山遺跡　walk



北盛土から　6本柱と大型竪穴住居を見る　　2009.9.5.

北の谷　縄文前期の遺物が出土した北の谷

東側の盛り土周辺より大人の墓列が続く南の大道より遺跡の中心部　掘立柱建物群　　左手に西の竪穴住居群

東側の盛り土周辺より　　左手に西の竪穴住居群　　右掘立柱建物群

ストーンサークルの原型　環状配石墓が並ぶ　墓の道

三内丸山遺跡の南側の丘に広い草地が整備され、遺跡全体をゆったり見渡せるように整備され、
三内丸山遺跡全体が縄文の森の中に子たれるようになっていました。　2009.9.5

縄文時遊館で　遅い昼を済まして、遺跡に戻って、大型竪穴住居の中で開かれている縄文の仮面作りワークショップをのぞいて、3 時半から縄文時遊館シアターでの縄文宵待ちフォーラムへ。以前のお月見でいっしょに集ったことのある先生や発信の会の発の会のメンバーに出会えて懐かしい。三内丸山遺跡の岡田先生・小山先生　青森 F さん S さん　東京からの K さんほか　大阪から A さんも・・・・。覚えてもらっていたのがうれしい。

宵待ちフォーラム　　縄文とケルトの渦巻

復元大型竪穴住居内で縄文の仮面作りワークショップ

宵待ちホーラムでは　縄文とケルトの渦巻文様についての話。 イギリスのストーンサークルについて　「墓との見解が有力になってきたことやストーンサークルのすぐ近くにウッドサークルがあり、これらを結ぶ祭りが行われていたらしいこと」などの資料を読んでいた時だったので、　縄文とケルトの渦巻文様の有する世界観の共通性の話には興味深々でした。

ホーラムが終わった時には、外は夕暮れ。西に日が傾き、空は夕焼け。
6 本柱の向こうに太陽が沈んでゆく姿が、実に気持ちがいい。
大型竪穴住居横の中央の丘に「お月見」の舞台もしつらえられ、その前に座って、頼んでおいた縄文の弁当を食べながらお月見の開始を持つ。

9 月 5 日　お月見の日　三内丸山遺跡の夕日

9 月 5 日夕　縄文弁当を食べながら　お月見ｺﾝｻｰﾄ　　月の出を待つ

2.3.　三内丸山遺跡　縄文のお月見

お月見コンサートたけなわの夜空に満月の月が現れた

山上進さんの演奏ではしせまったお月見コンサート

夕闇せまる午後 6 時 30 分　かがり火に火が入り、山上進さんが演奏する尺八「縄文」の澄んだ調べが遺跡に吹き渡り、コンサートが始まった。
久しぶりに聴く山上さんの音色に吸い込まれてゆく。
ぼんやりと浮かび上がる掘立柱建物・大型住居・6 本柱そして遠く暮れ行く八甲田の山々に音色が美引き渡って気持ちがいい。
一番楽しみにしていたひとときです。
次々と音楽家・ミュージシャンの演奏が続き、真っ暗な夜空になって、再度　山上進さんが登場し、横笛と津軽三味線の演奏が始まると真っ暗な夜空に満月が高く昇った。
月に向かって響く津軽三味線即興曲「八甲田」と横笛「津軽おやま詣り」の演奏にみんな酔う。

次々と音楽家・ミュージシャンが登場　お月見コンサート　2009.9.5.夜

最後は「ねぶた」の演奏・リズムにみんなで酔って終了となりました。

お月見コンサートの後、お月さんを眺めながら　大型竪穴住居で出演者・参加者の懇親会で盛り上がる

本当に久しぶりの三内丸山遺跡　そして、お月見コンサート。
世界登録を目指す三内丸山遺跡の今を見ることが出来て　遺跡で聞く津軽・縄文のコンサート。来てよかった。また　来年もと・・・。
でも　遺跡の整備が年々整備され、時遊館や収蔵庫展示室など遺跡案内が整備され、かつてのあの厚い思いが薄らいで、ちょっと距離感が出てきたなあ・・・と感じました。説明よりも　あの学者・市民・訪問者みんなが主人公のあの熱気が・・と。
でも　遺跡の整備が年々整備され、時遊館や収蔵庫展示室など遺跡案内が整備され、かつてのあの厚い思いが薄らいで、
ちょっと距離感が出てきたなあ・・・と感じました。
説明よりもあの学者・市民・訪問者みんなが主人公のあの熱気が・・・・・・と。

六本柱はどんな建物だったのだろうか
三内丸山の集落を貫くこの広い道はなぜ必要だったのだろうか・・・・・
環状配石墓と墓の道　今にも声が聞こえてきそうな土偶　ここでどんな祭りが行われたのだろうか・・・
栗・どんぐりの栽培と酒造りとは・・
翡翠に黒曜石　そして漆　この集落多くの人が交易をしていたというが・・・
などなど

自分でも頭をひねりながら、身をのりだして聞いた　三内丸山縄文人の生活
発掘された遺物の事実の説明よりも　多くの人が「縄文の暮らしと今の知恵」を語っていた。
それが　三内丸山の熱気だったような気がしていますが、遺跡の歯靴が進み、遺跡が解明されるにつれ、遺跡の中で、そんな生の話が聞ける機会もなくなり、 また　遺跡も埋め戻され、迫力がない。
無言のジオラマが展示室にあるのみ。

かつて、学者さんが一般の人たちに混じって　ジオラマをじっと見ながら、墓の道を考えているといわれた姿が強く印象に残っています。
あの展示室のジオラマが外の遺跡の丘にもちだされ、縄文の世界が広がる遺跡と照らし合わせながら、みんなが抱く疑問・三内の素晴らしさがもっと語り合えたら・・・と。そして、みんなが自分の描いた三内丸山遺跡を語って　三内丸山遺跡と自分を語っていた。 そんな身近な三内丸山遺跡が世界遺産になれば・・・と。
虫のいい話なのでしょうか　　そんな夢を描きつつ、６本柱の上に輝く月をながめつつ、三内丸山遺跡を後にしました。

2009.9.5.夜　三内丸山遺跡　お月見の会に参加して
Mutsu Nakanishi

14

【2009 和鉄の道】 初秋の青森･秋田風来坊 【2】
秋田県中央　マタギの里「森吉山」WALK と 縄文の環状列石「鷹巣　伊勢堂岱遺跡」を訪ねる

阿仁マタギの里秋田の名山
高さ 1454m の森吉山

縄文の環状列石　鷹巣　伊勢堂岱遺跡

14-1	またぎの里 阿仁　リンドウの花満開の森吉山ハイク	2009.9.6
14-2	鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪	2009.9.7

9 月 6 日早朝 6 時 04 分青森発の奥羽本線特急に乗って秋田県鷹巣へ。
1 時間 30 分ほどで鷹巣に到着。青森からは意外と近い。
今回は鷹巣から秋田県中央奥羽山脈の山間を走り抜ける秋田内陸縦貫鉄道に乗ってマタギの里阿仁に分け入り、秋田県中央に聳えるマタギの山森吉山に登る。 翌日は鷹巣へ戻って 9 年前の 2000 年の秋に訪ねたことがある縄文のストーンサークル伊勢堂岱遺跡を訪ね、すぐ傍に位置する秋田北空港から帰りもシルバー割引を使って大阪へ帰る予定。

秋田県の中央部　秋田内陸縦貫鉄道が走る　鷹巣・阿仁地域　概略図

森吉山周辺阿仁地方は奥羽山脈の一番山深いところでマタギの暮らしが最後まで残った所として知られ、また、山麓には古くから栄えた阿仁銀･銅山がある秋田鉱物帯の中心部でもある。 古くは「秋田山」とも呼ばれ、この地方の人たちの信仰を集めた山。

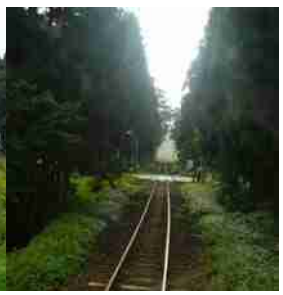
日本百名山を記した深田久弥が「 この秋田の名山を百名山の一峰に入れたかったが、基準とした1500mに46m足らず、入れることが出来なかった 」との話が伝わる秋田県の中央に独立峰としてどっかり座る名峰。 花の山としてよく知られ、山麓の渓谷には美しい滝群があることでも知られるが、交通の便が悪く、情報もあまりなく行ってみないと判らない。
インターネットほか何を見てもアクセスが悪いと書かれている。そんな奥深い奥羽山脈の山奥を秋田内陸縦貫鉄道が、森吉山山塊をトンネルで潜り抜けて、北の鷹巣から南の角館までをつないでいる。この秋田内陸縦貫鉄道に乗るのも魅力のひとつである。
インターネットで調べるとラッキーなことに「9 月は日曜日のみ森吉山の稜線へ登る阿仁ゴンドラが動いている」と書いてあるので阿仁合駅で降りて、このゴンドラに乗れれば楽チンで頂上へ行ける。通常の一般ルートは 阿仁前田駅からタクシーを飛ばして 山の北側のこめつが山荘登山口から尾根筋を上らねばならず、また、帰りも迎えに来てもらわないといけないという。森吉山東麓桃洞滝にも行きたいが、そちらもタクシーを事前に往復予約する必要があり、今回は森吉山に登ることを第一に。
いつもの事ながら風来坊 行けば何とかなるだろうと。
でも 行ってみて、 稜線ハイクの楽しさとともに、山の感じ以上に山深く、車がないと本当に動けぬこと また、タクシーもおいそれと頼めないことなど、森吉山の大きさを後で知りました。

まだ、昨日の三内丸山遺跡での「縄文のお月見」の余韻が残っているが、大鰐そして碇ケ関を越えると秋田県。山間を縫って下ると能代へ注ぐ米代川の中流の盆地大館 そして 次に鷹巣に着く。 青森からは約1.5時間。以外にも 青森からは日帰り圏で行けるのにびっくりです。 鷹巣は周囲の町を合併して 現在は北秋田市という。
また、市街地のすぐ南の丘陵に秋田北空港(大館・能代空港)があり、東京・大阪それぞれ 1 往復づづの便がある。

秋田北(大館・能代)空港

日曜日であり、森吉山に出かける人も多いだろうと思っていましたが、やっぱりシーズンオフ 鷹巣から秋田内陸鉄道に乗り継いだのは 以外にも数名。本当に阿仁ゴンドラは動いているのか心配になって、運転士さんに聞くがわからないという。
もう一組 阿仁前田から桃洞滝へ行く人と乗り合わせたが、やっぱりタクシーを頼めないとあせっている。 途中で運転士さんが連絡照会してくれて 阿仁ゴンドラが動いていることを確認してくれて 阿仁合駅から阿仁ゴンドラで森吉山へ登ることにする。
あわよくば、そのまま森吉山東麓桃洞滝の方面へくだれれば・・・と淡い期待も持ちました。〔結局ダメでしたが・・・〕

阿仁の山間を流れる阿仁川



鷹巣駅と秋田内陸縦貫鉄道路線　　森吉山の登山口阿仁合駅

米代川に注ぐ阿仁川沿いから森吉山を抜けて角館へ 秋田中央部を南北に走る秋田内陸縦貫鉄道 2009.9.6.

青森・秋田の県境を抜ける時には朝霧で真っ白でしたが、鷹巣からは真っ青の快晴。素晴らしい山歩き日和。

これはラッキー。気分も浮き浮きである。
鷹巣駅をでてすぐに米代川を渡って伊勢堂岱遺跡の丘の横を通り抜けて南へ森吉山から流れ下る阿仁川沿いを鷹巣の盆地から山間をさかのぼって約１時間で森吉山西麓　阿仁川の左岸段丘の上三角屋根の阿仁合駅に到着。駅へ入るすぐ手前に鉱石屑が山積みされているのが見えたが、かつての阿仁銀銅山の中心地である。マタギの里「阿仁地方」。
どんな奥深い山中に秋田内陸縦貫鉄道が分け入るのかと思っていましたが、案外明るい山間の阿仁川を遡ってきたのにちょっと拍子抜け。もっともこの駅からさらに阿仁川を遡って。森吉山をトンネルで抜けて角館に出るので、阿仁合駅から先の方が険しいのだろう。日曜日の朝　駅前も閑散　一度着たかった阿仁に居ることがうれしい。
観光案内所で森吉山の登山情報や宿の情報を仕入れて出発。花のシーズンはずれと思っていましたが、今森吉山の稜線の登山ルートはリンドウの花が満開だと教えてもらって、うれしくなる。

6 日　リンドウの花満開のまたぎの里阿仁　森吉山ハイク

7 日　鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪

を写真記録 PDF アルバムに纏めました。

14-1.　またぎの里 阿仁 リンドウの花満開の森吉山ハイク　2009.9.6.

阿仁合駅⇔阿仁ゴンドラ⇔石森⇔森吉山山頂　往復

阿仁合駅═(連絡バス)═阿仁ゴンドラ山麓駅═(阿仁ゴンドラ)═ 阿仁ゴンドラ山頂駅═石森═避難小屋═稚児平═森吉山

阿仁合駅⇒阿仁前田駅⇒森吉山北麓秘湯マタギの宿杣の湯〔泊〕

駅前から連絡バスで阿仁ゴンドラの山麓駅までかつての阿仁銀山の坑口をつなぐ鉱山道と運転手さんが教えてくれた。乗客は一人。久しぶりの長いゴンドラ。登るに連れ、左から右に伸び稜線の右手になだらかな森吉山の大きな山体がみえだし、山体を覆う素晴らしいブナの大樹林帯林から青森トドマツの大原生林に変ると阿仁ゴンドラの森吉山頂上駅。 少しかすみがかかっていて遠望は利かないが、眼下　阿仁の谷の向こうに北に白神・鳥海　そして中央に　奥羽山脈の峰々の大パノラマ。そして　すぐ道脇で青いリンドウの花が出迎えてくれる。

森吉山頂上へと続く稜線尾根の登山道はなだらかなよく整備された登山道。道脇には次々とリンドウの花が出迎えてくれる。こがつめ山荘からの縦走路と合流する石森の頂上からは残念ながら山の特定はよくできなかったが、東北の名峰が見渡せる 360 度の素晴らしい大パノラマ。そして 前方の大きな森吉山へと続く縦走路が手に取るよう。小さな上り下りはあるがなだらかな稜線歩き。
樹林帯にはいりこんだり、湿原をふけたり、展望をたのしんだり、道脇のリンドウほか高山植物の写真を撮ったりの約 1 時間ちょっとの素晴らしい稜線 walk。避難小屋にはクマ出没注意の張り紙が忘れかけていたマタギの山であることを思い起こさせてくれる。
頂上周辺はもう紅葉が始まって、ここだけはもう素晴らしい秋。360 度の展望も。頂上部周辺は露出した狭い岩山になっていてハイキングの人たちが鈴なり。頂上三角点を踏んで、周囲の山々の案内板で方向と遠望できる山々を確認して、ひとつ南の小さなピーク岩舟まで行って、 地図を広げて 360 度の展望をひとしきり楽しむ。
遠く日本海や 鳥海 岩木山 早池峰の山々まで見えるとあるのですが、快晴ながらかすんでいて、これらの山の同定は出来ませんでした。
頂上から東麓の桃洞渓谷へ下る人を探したのですが、行き当たらず。頂上からそのまま南の阿仁マタギ駅へ下る道は人も少なく長いと聞いて 宿の手配も出来ていなかったので、 山上散歩をしながら引き返して、阿仁ゴンドラで阿仁合駅へ。
シーズンオフで 鉱山植物に出会いないとおもっていましたが、幾つも咲く青いリンドウほか 幾つもの高山植物 そして なにはさておいても 草紅葉が始まった湿原が点在する青森トドマツの原生林 おとぎの森を抜けて行くように思えた素晴らしい山上ハイクでした。

リンドウの花満開の初秋 森吉山ハイク　森吉山頂上で　2009.9.6.

この森吉山のもうひとつの魅力はこの山の周囲の渓谷にかかる幾つかの美しい滝群と紅葉。特に森吉山東山麓の桃洞渓谷にかかる桃洞滝へは是非行きたかったのですが、山と滝の両立は車を動かさないと無理のようでした。
阿仁合駅やゴンドラの静かさがウソのように 森吉山山頂や登山道で何人ものハイカーにであいましたが、アクセスが悪いので、自動車登山の人がほとんどのよう。また、登山道で出会った幾人かに山の東側桃洞滝側への道のアクセスを聞くのですが、「熊に出こわすかも知れぬし、林道に降りても 本当に遠いので、車かタクシー頼んでないとやめた方がいい」と言う。

やっぱり　高さは低いのですが、秋田の中央にどっしり構える大きな山であることを再認識。状況がよくわからず、次回です。

また、東北最深部の山　展望が開ける稜線の尾根筋でしたが、僕の携帯ではほとんど通じず。
阿仁合駅の案内所で宿泊やタクシーの電話番号を幾つか聞いていたのですが、ダメでした。
もう一度　今度は滝を見にこようと・・・・・。

阿仁合駅の案内所に再度立ち寄って、山麓での宿泊を世話してもらう。
朝案内所で一度色々教えてもらった人たちが親身にあちこち電話してくれて、森吉山東山麓　阿仁前田駅から奥に入った渓流沿いの一軒家　マタギの宿秘湯　杣の湯を紹介してもらい、なんとラッキーなことに　阿仁前田駅まで迎えに来てもらった。
山の宿に泊まって　渓流の音を聞き地酒を飲みながら山菜と鯉を中心とした山の料理を食べるのも初めて。
ゆったりとマタギの里を感じる一夜でした。

森吉山で見た数々の花　　2009.9.6.

【2009 和鉄の道】　初秋の青森・秋田風来坊【2】

14　秋田県中央マタギの里に聳える「森吉山」と縄文のストーンサークル「鷹巣 伊勢堂岱遺跡」を訪ねる

高さ 1454m　秋田の名山　森吉山

縄文の環状列石　伊勢堂岱遺跡

9 月 6 日早朝 6 時 04 分青森発の奥羽本線特急に乗って秋田県鷹巣へ。1 時間 30 分ほどで鷹巣に到着。青森からは意外と近い。

今回は鷹巣から秋田県中央奥羽山脈の山間を走り抜ける秋田内陸縦貫鉄道に乗ってマタギの里阿仁に分け入り、秋田県中央に聳えるマタギの山森吉山に登る。翌日鷹巣へ戻って 7 年前の 2000 年の秋に訪ねたことがある縄文のストーンサークル伊勢堂岱遺跡を訪ね、すぐ横に位置する秋田北空港から帰りもシルバー割引を使って大阪へ帰る予定。

森吉山周辺阿仁地方は奥羽山脈の一番山深いところでマタギの暮らしが最後まで残った所として知られ、また、山麓には古くから栄えた阿仁銀・銅山がある秋田鉱物帯の中心部でもある。古くは「秋田山」とも呼ばれた進行の山で、日本百名山を記した深田久弥が「この秋田の名山を百名山の一峰に入れたかったが、基準とした 1500m に 46m 足らず、入れることが出来なかった」と。
交通の便が悪く、情報もあまりなく行ってみないと判らない。花の山としてよく知られ、周囲には美しい滝群があることでも知られるが、何を見てもアクセスが悪いと。
そんな奥深い奥羽山脈の山奥を秋田内陸縦貫鉄道が、森吉山山塊の下をトンネルで潜り抜けて、北の鷹巣から南の角館までをつないでいる。
この秋田内陸縦貫鉄道に乗るのも魅力のひとつである。
インターネットで調べると 9 月は日曜日のみ　森吉山の稜線へ登る阿仁ゴンドラが動いていると書いてあるので　阿仁合駅で降りて、このゴンドラに乗れれば楽チンで頂上へ行けるが、そうでないと阿仁前田駅からタクシーを飛ばして　山の北側のこめつが山荘登山口から尾根筋を上らねばならず、また、帰りも迎えに来てもらわないといけないという。森吉山東麓桃洞滝にも行きたいが、それもタクシーを往復事前予約する必要があり、今回は森吉山に登ることを第一にいつもの事ながら風来坊、行けば何とかなるだろうと。でも本当に山の感じ以上に山深く車がないと本当に動けぬこと　また、タクシーもおいそれと頼めないことなど、森吉山の大きさを後で知りました。

まだ、昨日の三内丸山遺跡での「縄文のお月見」の余韻が残っているが、大館そして碇ケ関を越えると秋田県。山間を縫って下ると能代へ注ぐ米代川の中流の盆地大館　そして　次に鷹巣に着く。鷹巣は周囲の町を合併して北秋田市という。
日曜日であり、森吉山に出かける人も多いだろうと思っていましたが、やっぱりシーズンオフ　鷹巣から秋田内陸鉄道に乗り継いだのは数名。本当に阿仁ゴンドラは動いているのか心配になって、運転士さんに聞くがわからないという。もう一組　阿仁前田から桃洞滝へ行く人と乗り合わせたが、やっぱりタクシーを頼めないとあせっている。　途中で運転士さんが連絡照会してくれて　阿仁ゴンドラが動いていることを確認してくれて　阿仁合駅から阿仁ゴンドラで森吉山へ登ることにする。　あわよくば、そのまま森吉山東麓桃洞滝の方面へくだれれば・・・と淡い期待も。〔結局ダメでしたが・・・〕

鷹巣駅

秋田内陸縦貫鉄道路線

阿仁の山間を流れる阿仁川

森吉山の登山口阿仁合駅

米代川に注ぐ阿仁川沿いを森吉山を抜けて角館へ　秋田中央部を南北に走る秋田内陸縦貫鉄道　　2009. 9. 6.

青森・秋田の県境を抜ける時には朝霧で真っ白でしたが、鷹巣からは真っ青の快晴。素晴らしい山歩き日和。これはラッキー。
気分も浮き浮きである。　鷹巣駅をでてすぐに米代川を渡って伊勢堂岱遺跡の丘の横を通り抜けて南へ森吉山から流れ下る阿仁川沿いを鷹巣の盆地から山間をさかのぼって約 1 時間で森吉山西麓　阿仁川の左岸段丘の上三角屋根の阿仁合駅に到着。駅へ入るすぐ手前に鉱石屑が山積みされているのが見えたが、かつての阿仁銀銅山の中心地である。
マタギの里「阿仁地方」。どんな奥深い山中に秋田内陸縦貫鉄道が分け入るのかと思っていましたが、案外明るい山間の阿仁川を遡ってきたのにちょっと拍子抜け。もっともこの駅からさらに阿仁川を遡って、森吉山をトンネルで抜けて角館に出るので、阿仁合駅から先の方が険しいのだろう。日曜日の朝　駅前も閑散　一度着たかった阿仁に居ることがうれしい。
観光案内所で森吉山の登山情報や宿の情報を仕入れて出発。花のシーズンはずれと思っていましたが、今森吉山の稜線の登山ルートはリンドウの花が満開だと教えてもらって、うれしくなる。

6 日　リンドウの花満開のまたぎの里阿仁　森吉山ハイク
7 日　鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪

を写真記録 PDF アルバムに纏めました。

14-1 リンドウの花満開のまたぎの里阿仁　森吉山ハイク　2009.9.6.

阿仁合駅⇔阿仁ゴンドラ⇔石森⇔森吉山山頂往復
阿仁合駅==(連絡バス)==阿仁ゴンドラ山麓駅==(阿仁ゴンドラ)==
阿仁ゴンドラ山頂駅==石森==避難小屋==薬師平==森吉山山頂
阿仁合駅⇒阿仁前田駅⇒森吉山　北山麓秘湯マタギの宿松の湯〔泊〕

■〔 PDF File 〕リンドウの花満開の森吉山ハイク
■〔pps スライド〕リンドウの花満開の森吉山ハイク

駅前から連絡バスで阿仁ゴンドラの山麓駅までかつての阿仁銀山の坑口をつなぐ鉱山道と運転手さんが教えてくれた。乗客は一人。久しぶりの長いゴンドラ登るに連れ、左から右に伸び稜線の右手になだらかな森吉山の大きな山体がみえだし、山体を覆う素晴らしいブナの大樹林帯林から青森トドマツの大原生林に変ると阿仁ゴンドラの森吉山頂上駅。　少しかすみがかかっていて遠望は利かないが、眼下　阿仁の谷の向こうに北に白神・鳥海　そして中央に　奥羽山脈の峰々の大パノラマ。そして　すぐ道脇で青いリンドウの花が出迎えてくれる。　森吉山頂上へと続く稜線尾根の登山道はなだらかなよく整備された登山道。
道脇には次々とリンドウの花が出迎えてくれる。こがつめ山荘からの縦走路と合流する石森の頂上からは残念ながら山の特定はよくできなかったが、東北の名峰が見渡せる360度の素晴らしい大パノラマ。そして　前方の大きな森吉山へと続く縦走路が手に取るよう。
小さな上り下りはあるがなだらかな稜線歩き。　樹林帯にはいりこんだり、湿原をふけたり、展望をたのしんだり、道脇のリンドウほか高山植物の写真を撮ったりの約1時間ちょっとの素晴らしい稜線 walk。　避難小屋にはクマ出没注意の張り紙が忘れかけていたマタギの山であることを思い起こさせてくれる。頂上周辺はもう紅葉が始まって、ここだけはもう素晴らしい秋。360度の展望も。
頂上部周辺は露出した狭い岩山になっていてハイキングの人たちが鈴なり。頂上三角点を踏んで、周囲の山々の案内板で方向と遠望できる山々を確認して、ひとつ南の小さなピーク岩舟まで行って、　地図を広げて360度の展望をひとしきり楽しむ。
遠く日本海や　鳥海　岩木山　早池峰の山々まで見えるとあるのですが、快晴ながらかすんでいて、これらの山の同定は出来ませんでした。
頂上から東麓の桃洞渓谷へ下る人を探したのですが、行き当たらず。頂上からそのまま南の阿仁マタギ駅へ下る道は人も少なく長いと聞いて宿の手配も出来ていなかったので、　山上散歩をしながら引き返して、阿仁ゴンドラで阿仁合駅へ。　シーズンオフで　降参植物に出会いないとおもっていましたが、幾つも咲く青いリンドウほか　幾つもの高山植物　そして　なにはさておいても　草紅葉が始まった湿原が点在する青森トドマツの原生林　おとぎの森を抜けて行くように思えた素晴らしい山上ハイクでした。

この森吉山のもうひとつの魅力はこの山の周囲の渓谷にかかる幾つかの美しい滝群と紅葉。
特に森吉山東山麓の桃洞渓谷にかかる桃洞滝へは是非行きたかったのですが、山と滝の両立は車を動かさないと無理のようでした。
阿仁合駅やゴンドラの静かさがウソのように　森吉山山頂や登山道で何人ものハイカーにであいましたが、アクセスが悪いので、自動車登山の人がほとんどのよう。また、登山道で出会った婦人かに山の東側桃洞滝側への道のアクセスを聞くのですが、「熊に出こわすかも知れぬし、林道に降りても　本当に遠いので、車かタクシー頼んでないとやめた方がいい」と言う。
やっぱり　高さは低いのですが、秋田の中央にどっしり構える大きな山であることを再認識。状況がよくわからず、次回です。
また、東北最深部の山　展望が開ける稜線の尾根筋でしたが、僕の携帯ではほとんど通じず、阿仁合駅の案内所で宿泊やタクシーの電話番号を幾つか聞いていたのですが、ダメでした。
もう一度　今度は滝を見にこようと・・・・・。
阿仁合駅の案内所に再度立ち寄って、山麓での宿泊を世話してもらう。　朝案内所で一度色々教えてもらった人たちが親身にあちこち電話してくれて、森吉山東山麓　阿仁前田駅から奥に入った渓流沿いの一軒家　マタギの宿　秘湯　松の湯を紹介してもらい、なんとラッキーなことに阿仁前田駅まで迎えに来てもらった。　山の宿に泊まって　渓流の音を聞き地酒を飲みながら山菜と鍋を中心とした山の料理を食べるのも初めて。ゆったりとマタギの里を感じる一夜でした。

リンドウの花満開の初秋　森吉山ハイク　2009.9.6.

秋田県の中央　マタギの里にそびえる花の山　森吉山　　2009.9.6.

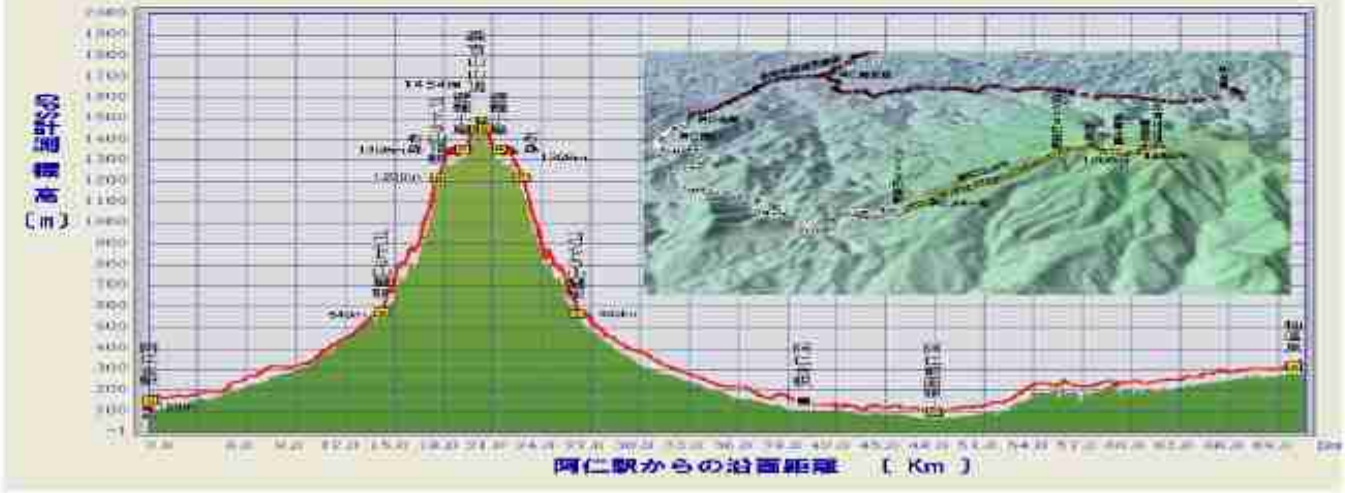
秋田内陸縦貫鉄道が森吉山をトンネルで潜り抜け　鷹巣と角館を結ぶ

行って見ないと何も判らない　朝6時青森発の特急で鷹巣へ　あとは風来坊

秋田の中央マタギの里にそびえる森吉山　森林限界の上　大きな山体をシラビソが覆う　石森より

花の森吉山　2009.9.6.

秋田 県の中央　マタギの里にそびえる森吉山　周辺図



秋田内陸鉄道　マタギの里　阿仁合駅　　2009.9.6.

米代川に注ぐ阿仁川沿い森吉山へ向かう秋田内陸縦貫鉄道　2009.9.6.

魔巣から森吉山の下をトンネルで潜り抜けて角館へ向かう秋田内陸縦貫鉄道　2009.9.6.

阿仁前田駅周辺からみた森吉山　2009.9.6.

阿仁ゴンドラに乗って　森吉山

山上縦走路ハイク〔往復〕　2009.9.6.

GPS計測 標高〔m〕
2000
1900
1800
1700
1600
1500
1400
1300
1200
1100
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
−1
森吉山山頂
1454m
避難小屋
ゴンドラ山麓駅
1308m
石森
1200m
540m
阿仁合駅
0.0
6.0
9.0
12.0
15.0
18.0
21.0
24.0
27.0
30.0
33.0
36.0
39.0
42.0
阿仁駅からの沿面距離

花の山 森吉山はリンドウが真っ盛り　石森より　2009.9.6.

堀変オオヤマリンドウが咲く森吉山縦走路　2009.9.6.

紺青オオヤマリンドウが咲く森吉山縦走路　　2009.9.6.

縦走路より森吉山

森吉神社と北への縦走路

石森頂上

石森頂上より　森吉神社へと続く縦走路　　2009.9.6.

石森より森吉山への縦走路　　2009.9.6.

避難小屋周辺　2009.9.6.

地点
避難小屋
クマに注意
水場

稚児平 2009.9.6.

稚児平 2009.9.6.

紅葉しはじめた森吉山山頂周辺　　2009.9.6.

紅葉しはじめた森吉山山頂周辺　　2009.9.6.

森吉山山頂からの３６０度の展望　　2009.9.6.

森吉山からの眺望　南から西への縦走路〔1〕

森吉山 – 稚児平 – 避難小屋避難小屋

森吉山からの眺望　南から西への縦走路〔2〕
避難小屋 - 石森 – 森吉神社

森吉山からの眺望　　北東から　東へ
正面　ヒバクラ岳への縦走路　背後　鹿角の山並み

森吉山からの眺望、　　東から南東　岩船
背後　八幡平・秋田駒ケ岳方面　雲の中

森吉山からの眺望　　南　鳥海山方面

森吉山からの眺望　今日歩いてきた南西から西への縦走路　　2009.9.6

森吉山からの眺望　　北東から東へ　　正面　ヒバクラ岳　　2009.9.6

森吉山からの眺望　　北西　白神・岩木山方面

森吉山からの眺望　　南　鳥海山方面

森吉山　北山麓の谷間　マタギの湯「杣の湯」　2009.9.6.

森吉山で見た数々の花　　2009.9.6.

14-2.　鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪　2009.9.7

米代川中流　鷹巣の街の南　　河岸段丘の上の岡にある鷹巣 伊勢堂岱遺跡 周辺

右：遺跡を迂回する秋田空港への取り付け道路　　中央：背後に秋田内陸縦貫鉄道「小ケ田駅」

9月7日 早朝　鷹巣の病院へ定期健診に行くと言う宿の主人の車に便乗させてもらって　鷹巣へ

2000年9月に一度訪れた縄文のストーンサークル　鷹巣　伊勢堂岱遺跡を再訪する。

「伊勢堂堂岱遺跡のストーンサークルも　まわりの森によって視界がさえぎられ、
　あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。
道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、
自分たちの祖先が集うこのような環状列石の墓を築き、折にふれて祭りを行い、
　祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。
　このストーンサークルを中心とした祖先との絆　集落の人たちとの絆
　それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。
　誰も居ないない森の中　唯一人立っているとひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る　　」

2000.9.15.　伊勢堂岱遺跡にて
和鉄の道「秋田・青森　縄文のストンサークル
－ 縄文人の心を考える　これも Iron Road？－」より

北東の鹿角・大館の山間を流れ下ってきた米代川が鷹巣で西へ方向を変えて能代に注ぐ。この鷹巣の市街地や米代川の南の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港の西の米代川が南から北へ流れてきた阿仁川が合流する地点に隣接する河岸段丘の上に伊勢堂岱遺跡がある。この空港開設の取付け道路が作られる過程でこの遺跡が発見され、今も調査が続いている。
ストーンサークル（環状列石Ｃ）の周辺を取り囲んで、掘建て柱建物群が出土し　ここで　弔いの祭りを行っていたことを明らかにした遺跡である。
この伊勢堂岱遺跡が、世界遺産登録を目指す遺跡群のひとつとなった昨今さらに何か新しいことがわかったのか
遺跡の周辺はどうなっているのか?? 背の高い樹木に取り囲まれ、静けさの中にあった遺跡　今も　その静けさは保たれているのだろうか・・・・???・そんな事が知りたくて　再度鷹巣伊勢堂岱遺跡を訪ねました。

伊勢堂岱遺跡の丘陵地の北端をすり抜けて　秋田内陸縦貫鉄道が走り、すぐ横の平地に「小ケ田駅」がある。
当初　伊勢堂岱遺跡のある丘陵地を西から横切って東側の丘陵にある空港へまっすぐ取り付け道路が予定されていたが、ストーンサークルの出現で、伊勢堂弟遺跡の丘陵地を横切らず、丘陵地の下を迂回して空港へ向かう道路が完成している。
この道路の完成以外は以前訪れた時のままにのどかな田園風景が広がっている。
遺跡の中も高い樹木に包まれた静かな環境が維持されて以前と変らず、気持ちの安らぐ空間。
ただ一箇所　眼下の米代川から鷹巣の街が見晴らせるように北側の樹木がきれいに切り払われている。
そして　鷹巣の街の背後に縄文人も信仰の対象としたかも知れぬ鷹巣の象徴　白神山地の駒ケ岳・田代岳が見渡せるように整備が進んでいました。
私には　以前の高い森に包まれているストーンサークルの方が好きですが、縄文時代はどうだったのでしょうか・・・・
世界遺産登録推進の遺跡整備のため、あまり遺跡の状態を変化させ、固定化した考えの下に遺跡が整備されると

かえって「縄文をイメージすること」の妨げになると思うのですが・・・
ちょっぴり　あまりいらわず　そっとこのままにしておいてほしいと。

台地の 中央部より西側　右 環状列石A　左 環状列石 C＆D

台地の 中央部より東側　左 環状列石A　右 環状列石 C＆D

環状列石　A

環状列石 C を取り囲む掘立住居群跡

環状列石　C（左半円）

環状列石　D

環状列石 A の北端からながめた米代川（中央　緑の帯）と鷹巣の市街地

その後ろにういてみえる白神山地　駒ケ岳と田代岳

南側からながめた環状列石　A　　樹木が切られ、 北側がオープンになっていた　　2009.9.7.

14-2

鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　再訪　2009.9.7.

9.7.早朝　鷹巣の病院へ定期健診に行くと言う宿の主人の車に便乗させてもらって　鷹巣へ
2000年9月に一度訪れた縄文のストーンサークル　鷹巣　伊勢堂岱遺跡を再訪する。

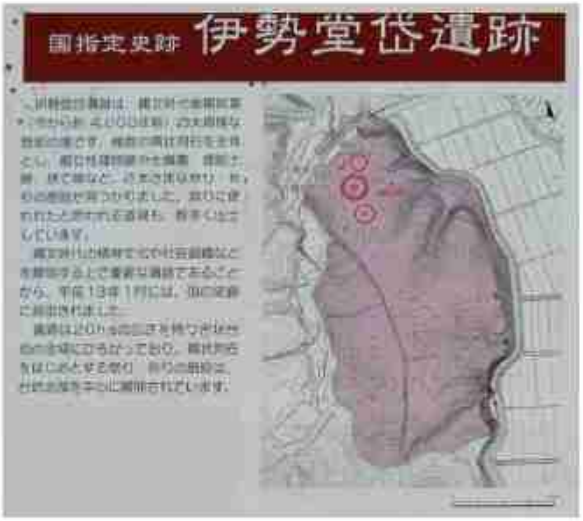
北東の鹿角・大館の山間を流れ下ってきた米代川が鷹巣で西へ方向を変えて能代に注ぐ。この鷹巣の市街地や米代川の南の丘陵地に「秋田北空港」があり、この空港の西の米代川が南から北へ流れてきた阿仁川が合流する地点に隣接する河岸段丘の上に伊勢堂岱遺跡がある。
この空港開設の取付け道路が作られる過程でこの遺跡が発見され、今も調査が続いている。
ストーンサークルの周辺を取り囲んで、掘建て柱建物が出土し　ここで　弔いの祭りを行っていたことを明らかにした遺跡である。
世界遺産登録を目指す遺跡群のひとつとなっている今　さらに何か新しいことがわかったのか　また遺跡の周辺はどうなっているのか
また、背の高い樹木に取り囲まれた静けさの中にある遺跡が印象的で、いまも　その静けさはたもたれているのか・・・・・
そんな事が知りたくて　再度鷹巣伊勢堂岱遺跡を訪ねました。

伊勢堂岱遺跡の丘陵地の北端をすり抜けて　秋田内陸縦貫鉄道が走り、すぐ横の平地に「小ケ田駅」がある。
当初　伊勢堂岱遺跡の丘陵地を西から横切って東側の丘陵にある空港へまっすぐ取り付け道路が予定されていたが、遺跡の丘陵地の下を迂回して空港へ向かう道路が完成しているほかは以前と変らず以前訪れた時のままにのどかな田園風景が広がっている。
遺跡の中も高い樹木に包まれた静かな環境が維持されて以前と変らず、気持ちの安らぐ空間。唯一箇所北側の樹木がきれいに切り払われ、米代川から鷹巣の街そしてその後ろに縄文人も信仰の対象としたかも知れぬ鷹巣の象徴　白神山地の駒ケ岳・田代岳が見渡せるように整備が進んでいました。私には　以前の高い森に包まれている方が好きですが、縄文時代はどうだったのでしょうか・・・・
世界遺産登録候補の名の下に　あまり遺跡の状態を変化させると僕はかえって「縄文をイメージすること」の妨げになると思うのですが・・・

「伊勢堂岱遺跡のストーンサークルも　まわりの森によって視界がさえぎられ、あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさの中にある。
道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、自分たちの祖先が集うこのような環状列石の墓を築き、折にふれ、祭りを行い、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。　このストーンサークルを中心とした祖先との絆　集落の人たちとの絆　それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。
誰も居ないない森の中　唯一人立っているとひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る　　」
2000.9.15.　伊勢堂岱遺跡にて
和鉄の道　「秋田・青森　縄文のストンサークル
－縄文人の心を考える　これも Iron Road －」より

台地の南側にある敷定列石C

環状列石Cを取り囲む掘立柱建物群跡



【参考】　和鉄の道　「秋田・青森　縄文のストンサークル　－縄文人の心を考える　これも Iron Road －」
http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/jstlaa07.pdf

鷹巣　伊勢堂岱遺跡を9年ぶりに再訪 2009.9.7.

「 伊勢堂堂岱遺跡のストーンサークルも まわりの森によって視界がさえぎられ、
あたかも縄文の森がそのまま再現されているような静けさ の中にある。

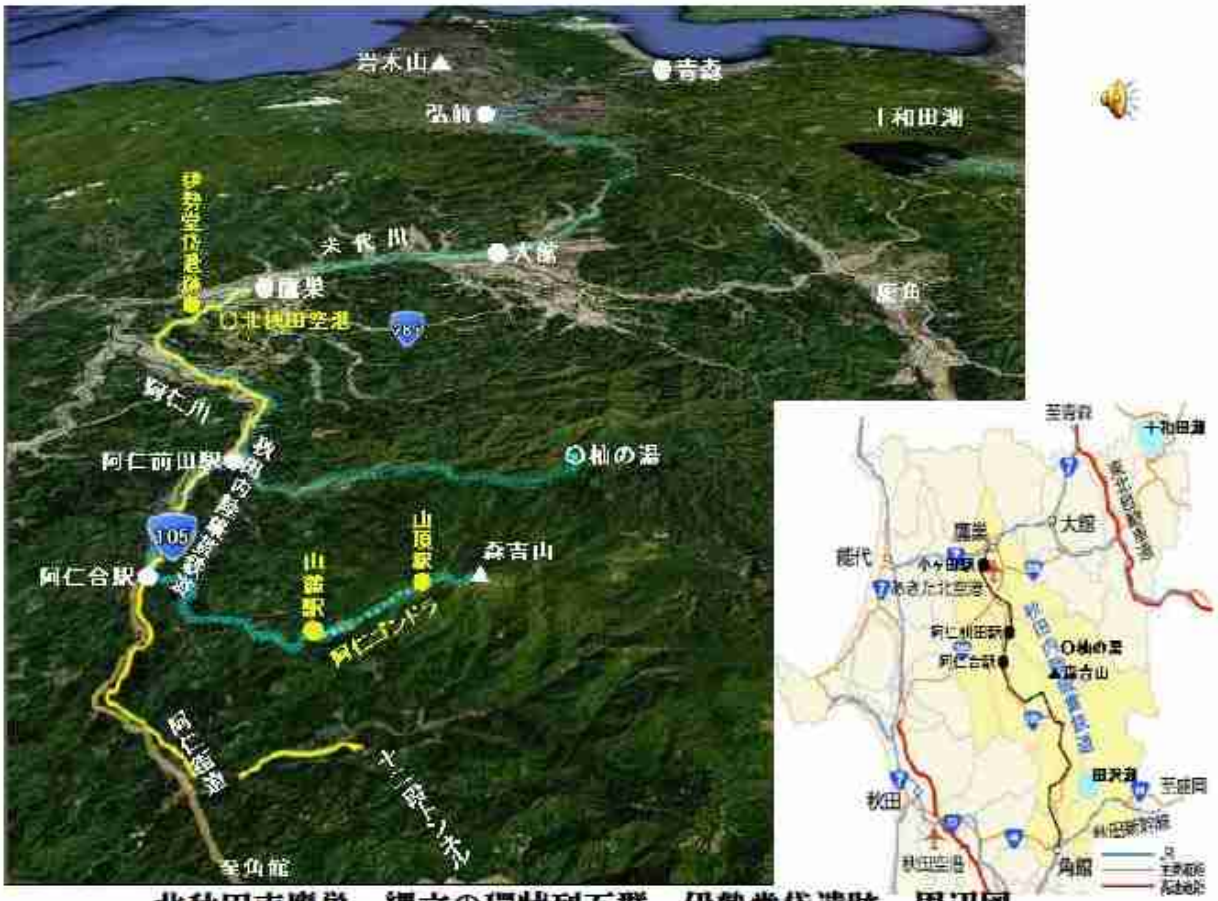
道具のなかった時代に大規模な土木工事を施し、
自分たちの祖先が 集うこのような環状列石の墓を築き、
折にふれ、祭りを行い、祖先を同じくする人たちの絆を強くしていたと考えられる。

このストーンサークルを中心とした祖先との絆 集落の人たちとの絆
それが「縄文人の人達の心」を知る手がかりと言われている。

誰も居ないない森の中 唯一人立っていると
ひょいと宇宙人が現れてくるような錯覚に陥る 」

2000.9.15. 伊勢堂岱遺跡にて

和鉄の道 「秋田・青森 縄文のストンサークル
- 縄文人の心を考える これもIron Road ? - 」より



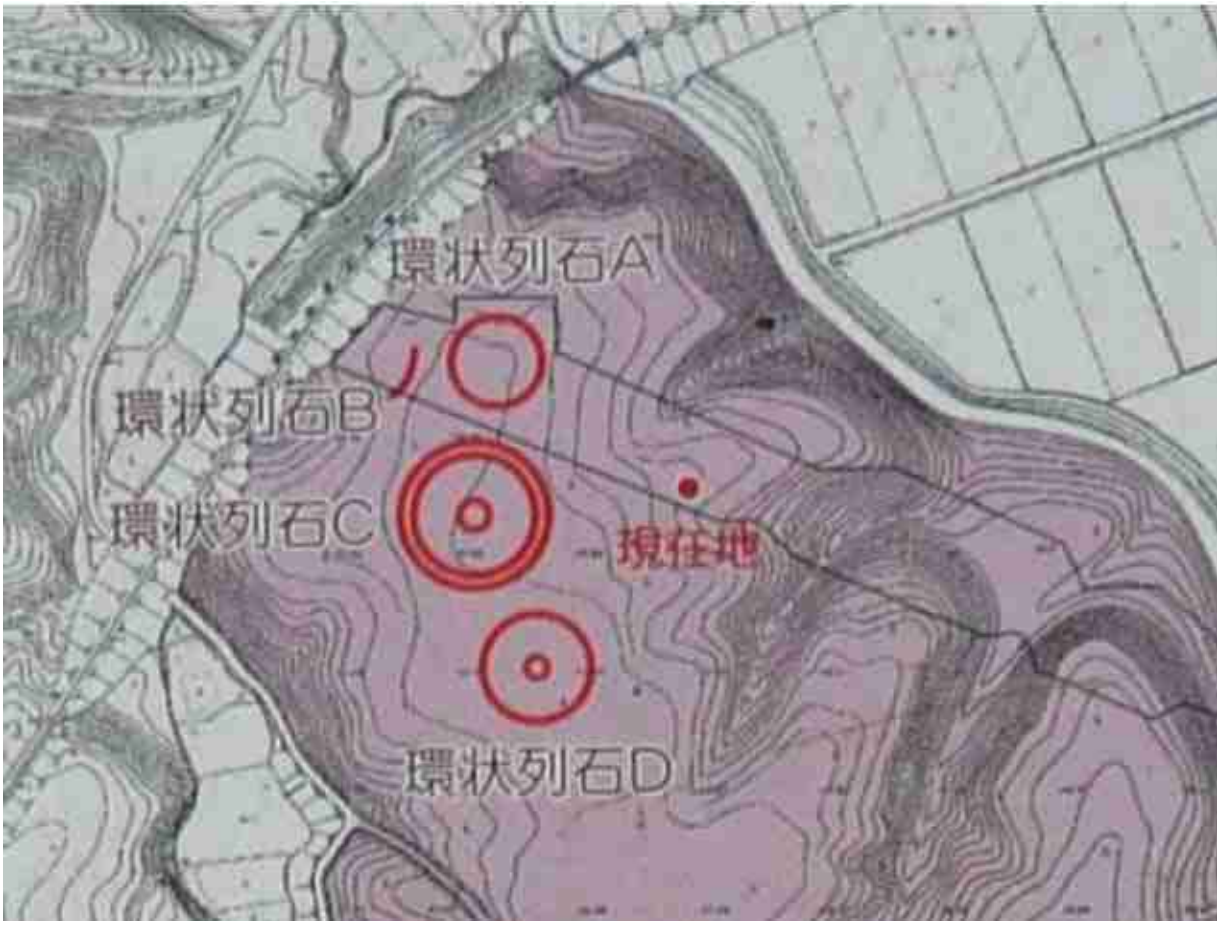
北秋田市鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　周辺図

米代川の河岸台地に近接して出土した4つの環状列石
秋田県鷹巣　伊勢堂岱遺跡　2009.9.7.

北秋田市鷹巣　縄文の環状列石群　伊勢堂岱遺跡　周辺図

伊勢堂岱遺跡
入口

国指定史跡 伊勢堂岱遺跡



台地の 中央部より西側　　右　環状列石A　　左　環状列石　C & D　　2009.9.7.

台地の 中央部より東側　　左　環状列石A　　右　環状列石　C & D　　2009.9.7.

環状列石 A

環状列石Cを取り囲む掘立住居群跡

環状列石 C（ 左半円 ）

環状列石 D

南側からながめた環状列石 A　樹木が切られ、 北側がオープンになっていた　2009.9.7.

環状列石Ａの北端からながめた米代川（中央　緑の帯）と鷹巣の市街地
その後ろにういてみえる白神山地　駒ケ岳と田代岳

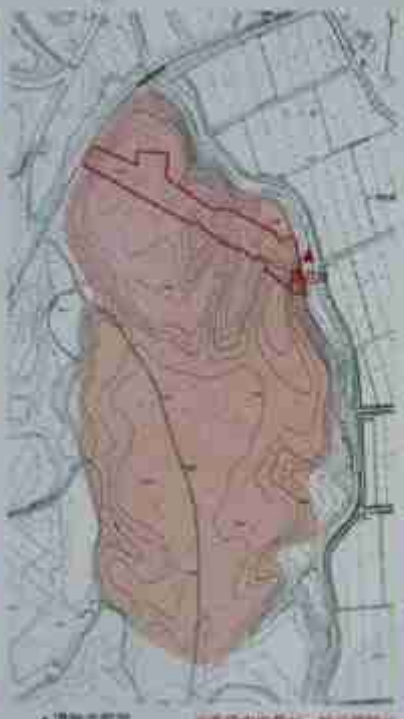
台地の北側部にある環状列石　Ａ

伊勢堂岱遺跡（いせどうたいいせき）

▲環状列石A

▲環状列石C

▲竪立柱建物跡



▲遺跡の範囲

※遺跡の内容が一般公開部分

▲沢（墓で場）

▲石組

▲環境

伊勢堂岱遺跡は、大館能代空港のアクセス道路予定地で発見されました。平成7年と8年に、秋田県埋蔵文化財センターにより道路建設予定地約7,000㎡の発掘調査が行なわれ、縄文時代後期前半（今から4,000年前頃）の環状列石をはじめ、多くの土壌（お墓）や建物跡が見つかりました。祭祀にかかわる遺物も数多く出土しており、「お墓」であると同時に「祭り」や「祈り」をとり行なう大規模な葬祭の場であったと考えられています。

縄文時代の暮新や精神世界、社会構造などを解明する上で大きな手がかりとなる遺跡であることがわかったため、秋田県では平成8年11月にアクセス道路のルート変更と、遺跡の現地保存を決定しました。

これらの経緯を踏まえ、平成9年度からは鷹巣町教育委員会が主体となり、遺跡全体の範囲を確認するための発掘調査を行なっています。遺跡の範囲は台地全体に及んでおり、[illegible]㎡ものひろがりを持つと推定されています。

環状列石の周囲に掘建柱建物群出土跡　　奥に環状列石A　左　環状列石　C

入口

15.

【写真アルバム】　2009年秋　点描　　2009.10月

10月　コスモスから紅葉へ　　神戸・京都・山口で

あいかわらず気ままな風来坊Walk　気に入った2009年秋の写真をファイルしました

神戸　ユニバー競技場　コスモスの丘より　明石大橋遠望　2009.10.11.

2009.10.11.　神戸　ユニバー競技場　コスモスの丘

神戸　ユニバー競技場　コスモスの丘

2009.10.11.

ラグビー　トップリーグ　神戸製鋼/NEC戦

神戸　ユニバー競技場で　2009.10.11　.

ラグビ- トップリーグ　神戸製鋼/NEC戦

神戸　ユニバー競技場で　2009.10.11　.

修復がはじまり、まもなく見られなくなる姫路　2009.10.1.

京都　東山山麓で　2009.10.18.

2009　秋の山口・美祢　美祢来福台の朝　2009.110.19.

2009　秋の山口・美祢　美祢来福台の朝　2009.110.19.

2009 秋の山口・美祢　萩焼の古里　長門深川　三ノ瀬のタ　2009.110.18.

西長門　角島　　2009.10.20.

複雑な海底地形が複雑な海流を生み三角波を生む海の難所

角島大橋ができて　山口一番の観光地になった

2009 秋の山口・美祢　長門　青海島　海上アルプス　2009.110.19.

2009 秋の山口・美祢　秋芳洞　2009.110.19.

2009 秋の山口・美祢　幕末を演出した城下町　下関長府　2009.10.20.

2009 秋の山口・美祢　凄いスピードで潮が流れる 関門海峡壇ノ浦　2009.10.20.

2009 秋の山口・美祢　関門海峡 唐戸より九州遠望　2009.10.20.

ピンクのコスモス畑が広がる 加古川市志方町東部　2009.10.24.

加古川市志方町のコスモス　2009.10.24.

11月急に寒くなって真っ赤に色づいた街路樹 神戸 名谷　2009.11.1..

11月急に寒くなって真っ赤に色づいた街路樹 神戸 名谷　2009.11.1..

11月急に寒くなって真っ赤に色づいた紅葉 神戸 名谷　2009.11.1..

11月急に寒くなって真っ赤に色づいた紅葉 神戸 名谷　2009.11.1..

【　写真アルバム　】

16. 2009年秋　京都紅葉のライトアップ

2009 年秋　京都　紅葉のライトアップ　　2009.11.15.

10 月京都での同窓会から１ケ月ぶり。
「東山山麓の紅葉がみごろ。ライトアップが始まっている」との紅葉便り。
ちょうど東山山麓泉屋白古館で開催されている「富岡鉄斎展」を見るのが半分。久しぶりに永観堂のライトアップされた紅葉も見たいし、真っ赤な紅葉の真如堂にも・・・と日曜日の午後　人出は覚悟で 京都　東山の北部大文字山山麓　白川通界隈に出かけました。

泉屋博古館の鑑賞は旧の石造りの建物の時以来ですから、何年振りでしょうか・・・。
　水墨の固い線による山水画が富岡鉄斎と勝手に思い込んでいましたが、柔らかい線の細やかな人物表現の数々にビックリ。
　常設の中国殷周・漢など中国古代青銅器の住友コレクションをみるのも久しぶり。
　紅葉をはじめた木々をちりばめた大文字山が静かな庭から眺められ、気持ちのいい博物館鑑賞でした。

真如堂の真っ赤な紅葉の向こうに見える五重塔　永観堂・曼殊院の夜の紅葉のライトアップ。やっぱり夜空に真っ赤な紅葉は映えて　きれいでした。久しぶりに　一乗寺の山裾の曼殊院の高台からの夕日にも出会えて　満足の秋の京都紅葉 Walk でした。

パチパチとデジカメ写真。　一度は夜の写真をきれいに撮りたいのですが、私の腕では今回もまたダメのピンボケの写真ばかりですが、京都２００９年の紅葉。　写真アルバムにしました。

2009.11.15.　by MUtsu Nakanishi

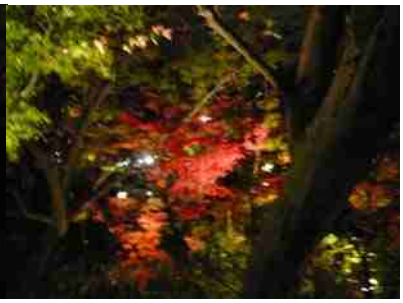
鹿ヶ谷　泉屋博古館　　2009.11.15.

浄土寺　真　如　堂

一乗寺　曼 殊 院

2007秋紅葉 曼珠院 2007.11.15

東山　永観堂



【 2009 京都 紅葉 ライトアップ スライド 2009.11.15. 】

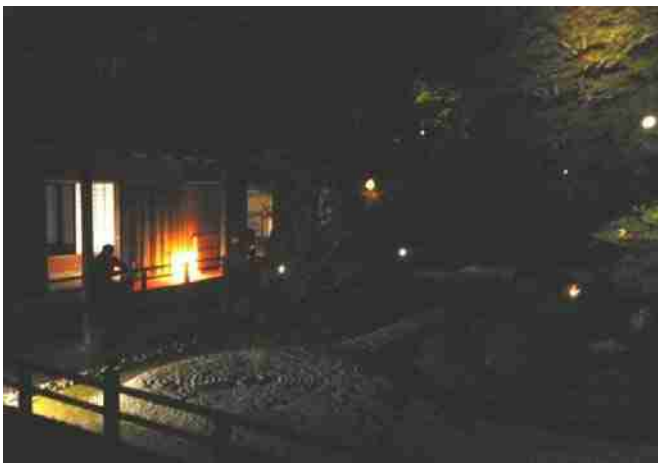
哲学の小道・疎水

真如堂下　浄土寺を流れる白川

曼殊院への坂道

曼殊院　秋のライトアップ

2009.11.15.夕



東山　紅葉の永観堂　ライトアップ　　2009.11.15.

2009 京都 紅葉 ライト アップ 2009.11.15
泉屋博古館
真如堂
曼殊院
永観堂
By Mutsu Nakanishi

7mine-01　霧雨に煙る美祢の街　６月　　2009.6.5.

霧雨に煙る美祢　来福台周辺　　2009.6.5.

美祢湖より来福台

南側　美祢セメントの煙突・桜山遠望

北側　重安　遠望

雨上がりの美祢市河原　種畜牧場遠望　2009.6.5.

雨上がりの美祢市河原　種畜牧場遠望　2009.6.5.

霧雨に煙る来福台への坂道　重安鉱山遠望　2009.6.5.

Mine-02　萩焼の主原料「大道土」の採取地　鋳銭司・大道を訪ねる　2009. 6. 6.

インターネット　&　google earth 検索 walk　　by　Mutsu Nakanishi

萩焼原料土　「大道土」&「見島土」

萩焼の主要原料土「大道土」の採取地　　鋳銭司・台道を眺める　2009. 6. 6

親しくしている萩焼陶芸の田中講平さんから「恒例の第３２回山口伝統工芸展が５月２７日から山口県立美術館で開催。今年の出展作のひとつが、近鉄松下賞を戴いた　これにあわせて　是非山口へ」と山口へのお誘いをいただいて、6 月の初め、梅雨空の中　半年振りに山口県美祢へ出かけました。
山口伝統工芸展は萩焼を主とした日本工芸会山口に所属する伝統工芸作家の新作を一同に集め、相互に競い、高めあう展覧会。それぞれの新しい創作・技法を織り込んだ作品が３点づつ出展され、人間国宝の大家から、新進気鋭の作家まで、「萩焼の今が見られる」楽しみの展覧会で、毎年この展覧会にあわせて、美祢の家の草抜きを兼ねて、山口を訪ねる。

萩焼というとやわらかい土の味わいを伝える質感を特徴とし、特に茶陶の世界で「一楽、二萩、三唐津」ともうたわれ、朝鮮李朝の陶技を伝承する山口県の代表的伝統工芸。
萩焼の七化けと言われるほどに使い込んでくと色調や景色が微妙に変わっていくのも萩焼の魅力の一つ。
一般的に言われている伝統的な美・特徴ばかりでなく、それにとらわれず、自由に自らの技の探求と創造に挑戦し、新しい技法・伝統の作品群を生み出し、「江戸期」「近代」「現代」とその時代時代に数々の新しい革新的な技法や作品を生み出し、次々と萩焼に新しい伝統と魅力を生み出してきた。
そして、現在では　茶器にとどまらず、茶碗・茶入・水指などの茶陶、花器・食器など身近な実用用途の中で手にして愛でる喜びの作品群や、鑑賞に重点を置いた置物や現代のオブジェまで
多様な萩焼のひとつひとつが脈々と伝統的な魅力を作り出し、数多くの人たちに愛されてきた系譜がある。

「見た目は萩焼っぽくないが、使い心地良く　何より食事がおいしく感じられる。飾っていてもかっこいい。」と 現代の萩にはそんな一面が数多くあると人はいう。
焼物の器でコーヒーやお茶をいただきながら焼き物の話に花を咲かせる。
萩焼の窯元を気楽に訪ねるのも　また、もうひとつ萩焼を楽しむ魅力のひとつです。

田中さんご夫妻の案内で　人間国宝から新進作家のまで　「萩焼の今」の多様な作品を見ていて、陶芸家である田中さんならではの解説を聞いたこともあって、金属材料屋の私には、「この多様な作品群を作り出したベースには伝統の「土」があるだろうなぁ・」とふと萩焼の「土」が頭に浮かぶ。
聞きかじりですが、萩焼は知っていますが、「原料の土についてはほとんどしらないなあ」と。
萩焼の主要原料土のメインである「大道土」はいつも神戸との行きかえりに通る瀬戸内側の山口市と防府市の境　鋳銭司・大道（台道）地区と聞く。「頭に色々残っている間に萩焼の「土」について調べてみたい」と。
今回の山口・美祢の帰りに　萩焼の主要原料土「大道土」の採取地を訪ねるとともに、帰ってインターネットで萩焼の土について調べました。
古くからの「大道土」の採取地　鋳銭司・大道（台道）は何度も通ったことのある場所。　「土の採取地なんてすぐわかる」と思っていましたが、訪れた台道で、今回は採取地を直接探し当てられませんでした。
インターネットで萩焼の土を調べはじめると本当に知らぬことばかり。

萩から遠く離れた鋳銭司・大道（台道）地区で点々と「土」のある場所を変えながら、今まで数百年ずっと「大道土」を求め続けてきた土に対するこだわり。
鋳銭司・大道（台道）地区で点々と変わる「大道土」の採掘地を記した地図をみつけて、この土へのこだわりが、現在の萩焼の伝統と多様な作品を生んできたのだと感じています。
そんな　萩焼の土について調べ整理した一文です。
もっとも　まだ　この土の何がそんな魅力を引き出しているのかを調べるのはこれからです。

【インターネット「大道土」検索より、資料作成・整理に数多くのデータを使わせてもらった文献】

神谷雅晴　須藤定久　「萩焼とその粘土」　地質ニュース　５６３号　２００１年７月　P46

www.gsj.jp/Pub/News/pdf/2001/07/01_07_04.pdf

上記資料のほか　インターネット検索で得たデータを色々資料作成につかわせていただきました。

■　山口伝統工芸展を訪ねる　2009.6.5.

６月５日の午後、田中さんご夫妻に案内してもらって、山口伝統工芸展を山口県立美術館に訪ね、数多くの作品　「萩焼の今」を鑑賞することができました。
知らなかった萩焼の見方や作家でなければ解らぬ視点　そして、作品にこめられた独自の創作の技など　陶芸家の田中さんならではの解説に釘付け。本当に楽しい萩焼鑑賞でした。

気取りのない実用用途作品の中に、「萩」と「磁器」の間を自由な発想で行き来する田中講平さん
萩」の奥深い「優雅」・「質感のある素朴な味」を大事にしつつ、
磁器の「透明感」「線・形」の美をも忘れず受け継いで、「萩」にも活かしてゆきたい
と確かな技術をベースに　常々新しい作品創作に挑戦する

今回　出展された作品は　田中さんオリジンの青白磁１点と伝統の萩に独自の新しい技法を取り込んだ萩２点の３点
田中さん渾身の本年の新作。　創造へのあくなき挑戦には　いつも　エネルギーをもらう。

田中講平さんのホームページ より

■　萩焼窯元　陶房葉月　田中講平　home page　http://www.k2.dion.ne.jp/
田中講平　作品集　http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/tnkafa4.htm

〔田中康平さんのホームページには　素晴らし作品集などがあります。　是非一度ごらんください。〕

もう　功なった「萩焼」の重要無形文化財保持者（人間国宝）である作家の味わいの深い作品とその創造へのあくなき探求
また、新進作家の斬新な創作など本当に萩焼の多様性にビックリする展覧会でした。
ところで、金属材料屋の私にとっては、「この多様な作品群を作り出したベースには伝統の「土」があるだろう・・・」とふと萩焼の「土」が頭に浮かぶ。　聞きかじりですが、萩焼は知っていますが、原料の土についてはほとんどしらないなあ・・・・と。
今回　萩焼について　頭に色々残っている間に萩焼の「土」について調べてみたい。帰りにまず　「大道土」の採取地を訪ねようと。

「 萩焼の伝統技法 」 の 一例

時代 時代の革新的技法から生まれ、萩伝統の技法のひとつになったもの
インターネット萩焼の伝統技法検索より整理

萩焼のはじまりは、文禄・慶長の役(1592～1597)で連れ帰られた朝鮮李朝の陶工によって萩城下の松本中之倉で開窯せられた萩藩の御用窯。
現在 萩焼の陶芸家・窯元は、萩焼発祥の萩・長門深川から山口・防府そして県内各地に広がっている。
そして、萩焼 380 年の伝統の中から、伝統工芸、現代工芸、前衛と多彩なジャンルの中で活動し、人間国宝、芸術院会員、前衛作家等々 数多くの陶芸家を輩出しています。

- **梅花皮** 井戸茶碗に見られる釉薬の割れ目の部分を出す萩焼の技の一つ
  梅の古木に見られる木の膚がカサカサしている状態に似たもので、釉が粒状に固まったものをいい、これは釉が溶けそうになって縮れを起こした現象で、この 延びた風情が井戸茶碗の大きな特色ともなっている。
- **御本手** ホタル・モミジとも呼ばれる 砂や化粧がけによってオレンジ色の斑点を作ったもの
- **刷毛目** 刷毛の掛け方で、様々な模様に。 刷毛目を消さないように化粧がけをして焼成を行う手法
- **高 台** 茶碗の胴や腰をのせている丸い輪の全体のこと。
  高台には、丸い輪をつくって本体につけた「つけ高台」と、本体の土をヘラで削ってつくった「削り高台」がある。
  また、高台の輪の一部をかきとったものを切り高台、割り高台という。
  萩焼には、この割り高台が多く用いられている。
- **焼 締** 釉薬を使わずに焼成する方法。 ワラに塩化ナトリウムを染み込ませ、器に巻きつけ焼成。
- **貫 入** 萩焼をはじめ粗陶器と呼ばれる土ものに比較的よく見受けられる釉表面のヒビのこと
  窯出しの冷却の際、素地と釉地釉薬の膨張率と収縮差の違いによっておこる。
- **窯 変** 窯の中で炎に触れた部分の釉調が変化すること。

萩割高台茶碗 江戸時代前期

萩茶碗 江戸時代前期

萩十字文割俵形鉢 江戸時代前期

萩編笠水指 三輪休雪 1973 年

萩赤楽茶碗」(1703)
三輪休雪(初代)

「萩井戸形茶碗」(江戸時代前期)
作者不詳

「萩割高台茶碗」(1974)
三輪休和(10 代三輪休雪)

■　萩焼の主要原料の概要

萩焼の伝統的な作品は大道土に金峯土、見島土と産地・性質の異なる３つの原土を精製・ブレンドした土で成形され、文様がほとんどなく、透明釉の土灰釉か、白濁する藁灰釉（白萩釉）が施される。土精製の過程で除かれた粗砂を混ぜた鬼萩という土を用い、ざらついた質感を出す手法もある。
また、比較的低い焼成温度で焼きを止めるため、釉の内部に水分が浸みやすく、使ううちに釉色が変化することが多い。
それは他の産地のものと比べて著しく、「萩の七化け」と呼んで人気が高い。

【萩焼の土　–大道土・見島土・金峯土（みたけつち）の採取地– 】

第1図　萩市と周辺粘土産地の位置．②，⑤は第2図，第5図に示した範囲．

「大道土」　瀬戸内海側の山口・防府の境あたりで取れる土
「金峯土」　萩の東方、阿武郡福栄村金峯より出る土
「見島土」　萩沖の日本海に浮かぶ島の土だと聞く。

そして、これらの土のブレンドの割合やさらにその土地の土を加わえたり、作家や創作品それぞれに、創意工夫をこらして変化させてきたという。「やわらかい土の味わいを伝える質感」と使い込むほどに変化するこの「萩の七化け」はこの原料土のブレンドなくしては生まれない。

萩の伝統となった数々の技法に基づく、多種多様な作品群やそれを可能とした自由な創作・革新的な挑戦の気風もこれらの原料度が合ったからに違いない。萩から遠く離れた場所で採取された原料土が遠く運ばれて使われ続けてきた理由もここにあるのだろう。

特にブレンドのベースになる「大道土」の役割は大きいに違いない。

インターネット検索すると、その基本配合を（大道土７：金峯土３：見島土１）としているとの作家さんの記事や、金峯土の採取がほとんどできなくなって、金峯土をブレンドしないとの記事などこのブレンドは色々のようだ。

でも、私もそうなのですが、萩焼の作品や窯元は良く知られていますが、案外　その原料の産地やその特徴や役割については良く知られていない。

インターネットで調べた主要原料土のおおよその特徴は下記のとおりである。

●　大道土

防府市大道あるいは、山口市鋳銭司四辻等より発掘される白色で砂礫混じりの可塑性に富んだ土で、耐火度もあり、萩焼作陶のベースとなる土。

●　金峯土

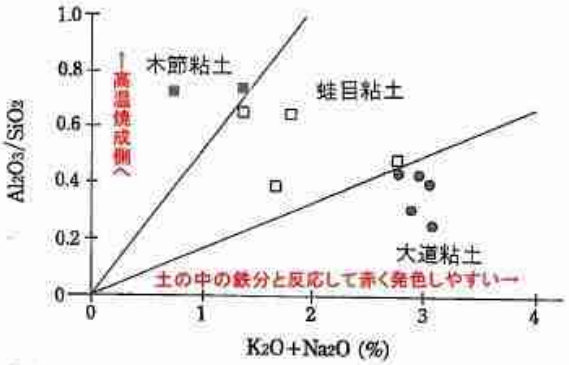
萩市の東方、阿武郡福栄村金峯より出るもので、黄白のざらざらした一種のカオリン（粘土）。
粘力はないが、耐火性が強い。

●　見島土

萩沖にある見島から産出される赤黒色の耐火度の低い火山系統の土である。
大道土、金峯土に少量混ぜて使用される。

第2表　各試料の鉱物組成．◎はごく多量，○は多量，△は少量，土は微量，－は検出せず，を示す．

	鉱物名 / 試料名	石英	カオリン	カリ長石	セリサイト	ギブサイト	赤鉄鉱
「大道土」	長沢原土1	◎	◎	○	△	－	－
	長沢原土2	◎	○	○	△	－	－
	長沢原土3	◎	◎	○	△	－	－
	長沢陶土	◎	◎	△	○	－	－
	金峯土	◎	○	○	△	－	－
	見島土	○	○	－	○	±	○



第8図　大道土，木節・蛙目粘土の（Al_2O_3/SiO_2）－（K_2O+Na_2O）ダイヤグラムへのプロット．

第3表　大道粘土ほかの化学組成・耐火度．SKは耐火度を示す．文献は工業技術連絡会議窯業連合部会編「日本の窯業原料」により1）は1978年版，2）は1992年版．

試　料　名	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	CaO	MgO	K_2O	Na_2O	Ig.loss	SK	文献
大道粘土（原土 A）	67.99	0.45	21.02	1.25	tr	tr	2.65	0.20	7.00	27	1)
大道粘土（原土 B）	70.50	0.36	18.58	1.46	tr	tr	2.89	0.28	6.17	31	1)
仁光寺粘土（−100mesh）	61.82	−	26.42	1.80	0.17	0.15	2.74	0.26	7.57		1)
仁光寺粘土（特級）	59.48	−	26.72	1.57	0.21	0.16	2.61	0.30	9.76		1)
仁光寺粘土（新採掘場）	60.57	−	27.31	1.72	0.16	0.19	2.53	0.24	8.04		1)
瀬戸本山加仙蛙目（水簸）	50.19	0.61	33.30	1.21	0.17	0.22	1.59	0.16	12.44	35	2)
土岐口白岩蛙目（水簸）	57.90	0.65	26.94	1.57	0.77	0.20	2.54	0.24	9.02	33	2)
苗木共立苗木蛙目（水簸）	49.69	0.46	32.66	1.31	0.26	0.31	1.05	0.30	13.79	35	2)
瀬戸品野蛙目（原土）	63.9	−	25.8	0.92	0.37	0.27	1.04	0.57	8.71	31	2)
瀬戸枝下山盛木節（水簸）	47.17	−	34.91	1.57	0.23	0.13	0.61	0.75	14.26	34	2)
瀬戸本山加仙木節（水簸）	47.37	−	34.41	1.10	0.16	0.25	0.64	0.08	14.91	36	2)

神谷雅晴　須藤定久　「萩焼とその粘土」より

【原料土に含まれる主要成分　一般概説】

カオリン	粘土鉱物の一種。その主成分はシリカ二酸化珪素 Si02)、アルミナ(A l 203)、水(H20)花崗岩のような長石に富む岩石が風化あるいは熱水変質を受けて出来る。
セリサイト	絹雲母 粘土鉱物の一種。 化学組成：(K0.62 Na0.36 Ca0.01)(Al1.75 Fe(III)0,16 Fe(II)0.06 Mg0.04 Mn0.02)(Si3.07 Al0.93) 010(OH)2 化学組成は酸化物で表示すると Si02 が最も多く、次いで Al203、K20、Fe203 となる。 熱水変質により形成された粘土鉱物で、水や樹脂中に絹糸状光沢を呈し滑性や被覆性に優れている。
石 英	化学組成は二酸化ケイ素(Si02) 素地(きじ：本体)の乾燥および焼成による収縮を少なくする非可塑性原料
長 石	長石は磁器を高温で焼くときに溶けた状態になって反応を進める大切な融剤。 陶磁器に使用される長石は　カリ長石(正長石：理論組成 K20・Al203・6Si02)とソーダ長石(曹長石：理論組成 Na20・Al2 03・6Si02)。 カリ長石は熔融して高粘度のガラス質になるので薄い「やきもの」も曲がらずに作れる。 カリ長石が多くなるに従い高い温度になる。

■　萩焼の主要原料土「大道土」の採取地　鋳銭司・大道を訪ねる　　2009. 6. 6.

防府市西目山から　佐波川の西　台道周辺を眺める　右端　長沢池

周防鋳銭司跡より鋳銭司・台道を眺める

萩焼の主要原料土「大道土」の採取地　　鋳銭司・台道を眺める　2009. 6. 6

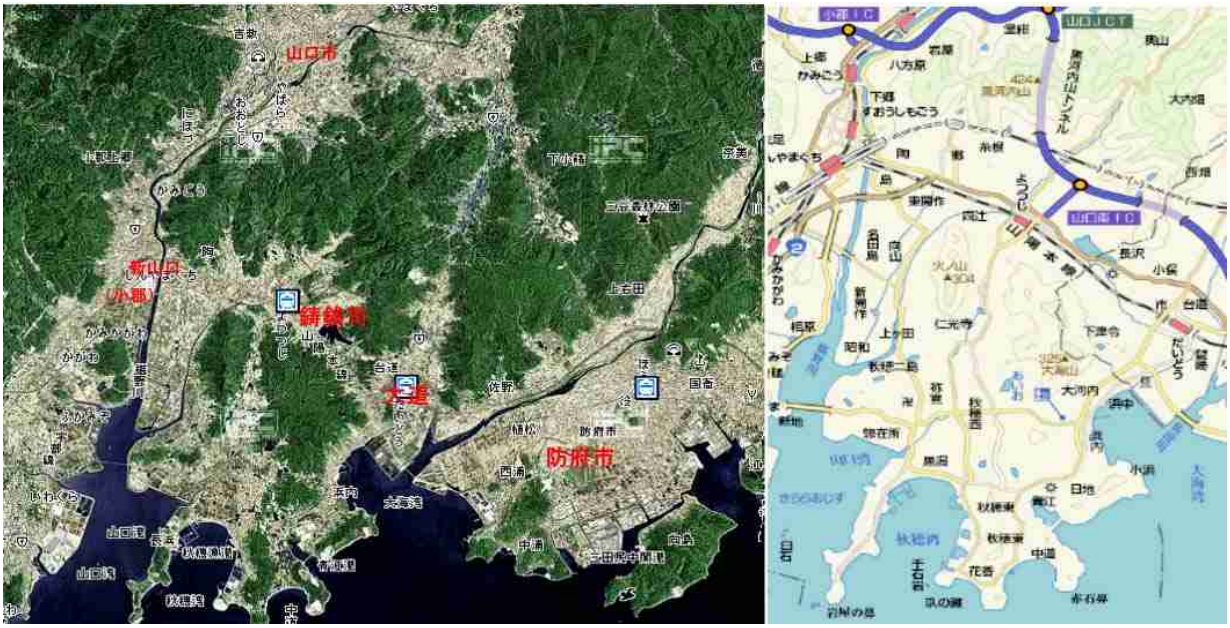
６月６日　美祢から神戸への帰り道、「大道土」の産地　防府市大道・山口市鋳銭司を訪ねました。

山口を訪ねるときには必ず通過する場所で　防府を過ぎて西へ　南北の小さな山塊に挟まれた平地部を国道・新幹線・高速道路が通過する防府と山口（小郡）の境のところの平地部が防府市大道・山口市鋳銭司&山口市陶で、この周辺の山麓のあちこちから掘り出される粘土が「大道土」。「この「大道土」なくしては萩焼の味がでない」といわれるほど重要な「土」であるが、この「大道土」は一箇所に存在する量が少なく、時代と共にその採取場所を点々と変えている。

日本一高価な陶土といわれながらもこの地の山麓周辺で採取されていることを今回初めて知りました。

また、鋳銭司の地名にあるとおり、この地では平安時代約１４０年間　日本で一番長く「銅銭」を作り続けた周防鋳銭司があったところで、その遺跡も残っている。

この地より、北東に少し入った所が　奈良時代　奈良の大仏の銅を産出した古代最大　最古の美祢市美東　長登銅山で、周防鋳銭司もなら平安時代にかけて　発行された古代最大の銅銭製造所であった。



萩焼の原料土「大道土」の産地　防府市大道・山口市鋳銭司周辺地図

南西側　周防大橋を向うに台道周辺

西側　長沢池周辺

山陽線の電車越しに大道周辺

防府市楞厳寺（りょうごんじ）山から大道方面を眺める

国道バイパスより　南側　大道周辺

美祢の IC から直接山陽自動車道に入らず、小郡から国道に出て長沢池の周辺「大道土」の採取地や鋳銭司跡を見に行って、それから防府の IC に入って帰ることにする。場所は良く知っているし、まず道筋の「鋳銭司」「大道土」の採取地は JR「大道」の駅へ行けば判るだろうと車を走らせる。

美祢から約３０分ほど　小郡で椹野川を東に渡って　国道２号線にはいると山口市陶・鋳銭司　山陽道山口 IC 周辺。

瀬戸内海の海岸近くであるが、海岸側にも岩山が連なっていて、海岸は見えない。

鋳銭司博物館への標識は見つけたのですが、国道左手に大きな長沢の池の端に出てしまう。

とにかく　池の奥正面に地図で印のある鋳銭司博物館へ周防鋳銭司跡の位置を教えてもらいに行く。

山口市陶から鋳銭司　国道２号線バイパス　　山陽道山口南 IC 周辺

長沢池の北　池の端に鋳銭司郷土館がみえる　　2009. 6. 6.

池を挟んで南北に小さな山々が連なる緑の気持ちのいい空間。この小さな山並みにはさまれた所が、鋳銭司・台道地区である。

郷土館の前から　目をぎょろぎょろ　山を崩している場所探すのですが、「土」を採取しているような場所は良くわからない。

郷土館には周防鋳銭司遺跡から出土した銅銭鋳　造の遺物とこの地　の幕末・明治の英雄大村益次郎の展示。

鋳銭司については、良くわかるのですが、萩焼にまつわる「大道土」については良くわからない。

もう　この地では萩焼・大道土はわすれさられているのだろうか・・・・

長沢池の北の縁にある鋳銭司郷土館より南西側　長沢池南西側に連なる小さい山々

周防鋳銭司跡（写真合成）　南側　遺跡の向こうに大道の山が見える

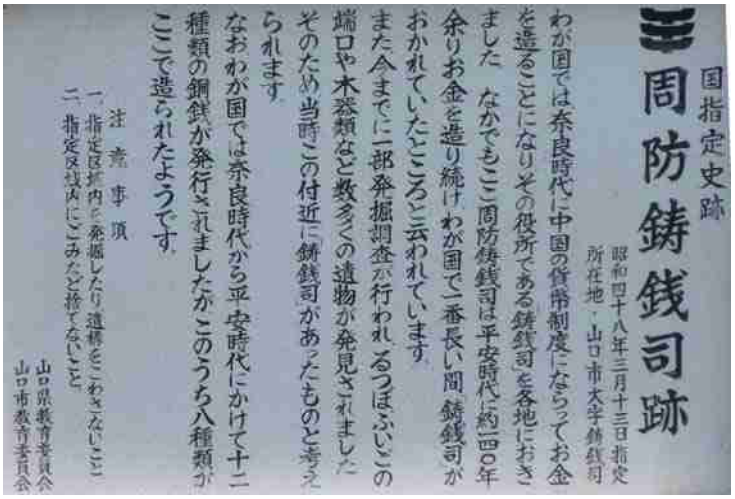
周防鋳銭司遺跡はちょっと手前の積水ハウス山口工場の入口横と教えてもらう。

車で５分ほど引返して　北側　積水ハウスの工場の入口に接して、周防鋳銭司跡がありました。

といっても　原っぱが広がっているだけですが・・・・。この山口には奈良の大仏の銅を産した日本最古　古代最大の銅山　「長登銅山」（美祢市美東町長登）があり、古代銅の主要産地なので、一度是非訪れたかった場所。

積水ハウス山口工場の入口の道に面して　南西側に広がる周防鋳銭司跡　　2009.6.6.

周防鋳銭司跡の原っぱの向こうに、小高い山が連なっているのが見える。　あの山の麓周辺が JR「大道駅」地名としては台道である。
国道・新幹線・高速道路が狭い平地を通り抜けて行くとは考えられぬのどかな緑の風景。
「どこかに山を崩している跡はないだろうか?」と目を凝らしてみるのですが、良くわからず。　長年にわたって「大道土」が採取され、今も採取されているとしたら、どこかに痕跡があるはずですが・・・・。
不思議に思いながら、１０分ほど国道を東に走り、防府市に入り JR 大道駅の標識で南に折れて駅へ行く。


国指定史跡
周防鋳銭司跡
昭和四十八年三月十三日指定
所在地・山口市大字鋳銭司
わが国では奈良時代に中国の貨幣制度にならってお金を造ることになりその役所である鋳銭司を各地におきました　なかでもここ周防鋳銭司は平安時代に約二四〇年余りお金を造り続けわが国で一番長い間鋳銭司がおかれていたところと云われています
また今までに一部発掘調査が行われるつぼふいごの端口や木器類など数多くの遺物が発見されましたそのため当時この付近に鋳銭司があったものと考えられます
なおわが国では奈良時代から平安時代にかけて十二種類の銅銭が発行されましたがこのうち八種類がここで造られたようです
注意事項
一、指定区域内で発掘したり遺構をこわさないこと
二、指定区域内にごみなどを捨てないこと
山口県教育委員会
山口市教育委員会

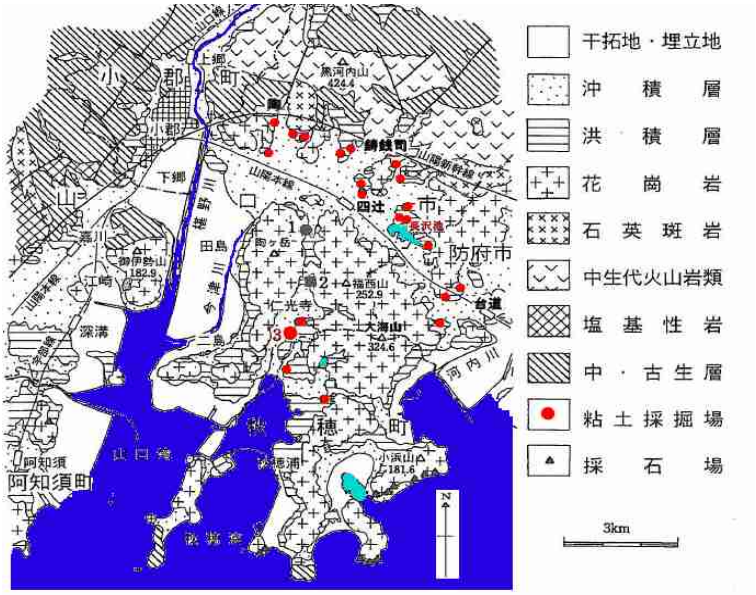
道から南に連なる小高い山を眺めながら台道の集落の中へ入るとその真ん中に JR 大道駅。無人駅ですが、きれいに整備された駅で　タクシーが並んでいる。橋上の上にある改札口へ行ったり、駅前周辺など「大道土」の案内板がないかと探すのですが、良くわからない。
駅前で客待ちのタクシーの運転手さん達にきくのですが、知らぬという。　日曜日なので　支所なども開いていていない。
「昔　鋳銭司の郷土館の奥の方で採っていたらしい」とか「この南の海岸の方とちがうか???」　とばらばらで、
みんな確信がないという。
「あれだけ有名な萩焼で、しかも昔から使われている「大道土」なのに・・・」と本当に不思議で、ちょっと消化不良気味ながら、タイムリミット。今回は「大道土」界隈を歩いたし、今回はこれで満足しようと　国道に出て、防府から高速道路にあがってそのまま　帰ってきました。

神戸の家に帰っても　やっぱり気になって　インターネットで「大道土」の採取場所の検索をして、下記の文献をみつけました。そして、この文献から　採取場所また、今回　採取場所を見つけられなかった不思議な謎も理解できました。

神谷雅晴　須藤定久　「萩焼とその粘土」地質ニュース　５６３号　２００１年７月　P46
www.gsj.jp/Pub/News/pdf/2001/07/01_07_04.pdf

以下この資料を参考にインターネット・gooogle earth で調べた「大道土」の採取地です。

■　資料「神谷雅晴　須藤定久　萩焼とその粘土　」より整理した「大道の土　」採取地



第5図　小郡～防府付近の地質図.
5万分の1表層地質図「小郡」・「宇部東部」を簡略化
1. ブルードーザ興産の工場, 2. 長沢陶土の工場, 3. 長沢陶土の採掘場.

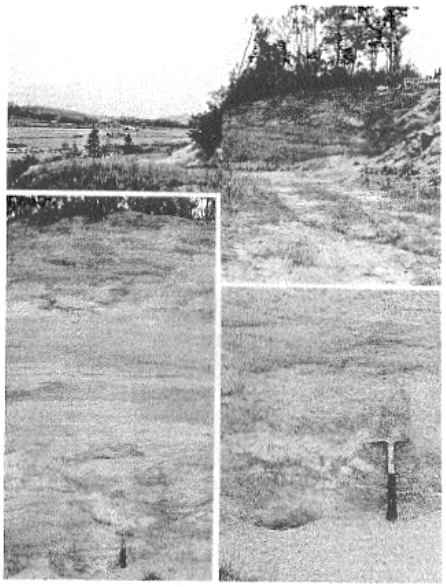


写真5　大道粘土の産状. 採掘場の全景（上）. 砂質部と粘土質部の不安定な互層からなる大道層の断面（左下）. 粘土層から引き剥がされたような不規則な粘土塊も見られる（右下）.

1. 大道層はこの地域の洪積段丘構成し、花崗岩からなる山の山麓部に分布する層厚 13m 前後の堆積層で、礫層・砂礫層およびシルト質粘土層からなっている。このシルト質粘土層が萩焼の主原料として江戸時代から採取されてきた。
2. 大道粘土層は比較的薄い堆積層であるため、採掘場所は右図に見られるように、時代と共に変遷している。
3. これまでは地域北部の陶、鋳銭司および四辻・大道間の長沢池付近とその南部が主に採掘された。
4. 最近は山口市の南端の秋穂二島から秋穂町宮の旦付近で採取されている。
5. 現在　長沢陶土（有）によって採掘されている箇所は山口市の南端秋穂町との境界付近の丘である。この採掘切羽は高さ 7m　東西方向長さ約 2。この切羽の北側株にも良質の粘土質砂礫層があり、この付近の大道層の厚さは 10m にも達すると推定されている。

（なお、現在 「大道土」を採掘販売しているのは　長沢陶土を含めて3社だけとなっている。）

6. 萩焼の原料粘土「大道粘土」が産される地域は「大道」または「台道」と呼ばれてきた。地名は防府市「台道」 JR 山陽線駅名は「大道駅」この付近は文禄・慶長の役のときに「台道」と命名され、以後台道村と呼ばれた。台道村と切畑村との合併で大道村となったが、防府市編入されたときに地名として 「台道」「切畑」の地名が残った。そしてその両方の地を代表する「大道」が駅名となった。

「大道土」の粘土層が薄く限られているため、採掘場所がこの地域内を点々と移動したため、採取後の地は転用され、その後わからなくなってしまい、土地の人も知らなくなっているようだ。
萩焼のみならず、その原料土にも長い歴史がある。
これほどまで萩の土にこだわり続けられたその理由についても　また調べてみたいが、この土があってこそ　萩焼伝統の多種多様な作品とみんなに愛される味が維持されてきた所以なのであろう。
上記資料で知った現在の「大道土」を採取している長沢陶土（有）の位置を google で調べるとちょうど長沢池の南東部に見える丘の中に分け入った所のようだ。

「大道土」を採取している長沢陶土（有）の位置

■　まとめ　　萩焼の主原料「大道土」の採取地　鋳銭司・大道 Walk

第1図　萩市と周辺粘土産地の位置．②，⑤は第2図，第5図に示した範囲．

きまぐれで、ふっと思いついて出かけた「大道土」の産地「大道」でしたが、知らかった数々の萩の知恵が垣間見れて、本当に興味深かったです。また、萩焼の今に触れ、その作家達の新しい創作にかけた技法・技術の数々について田中さんの解説にも本当に驚きの連続でした。

萩焼の魅力は　愛でて　手で触って　使い込んで　直に肌ざわりと質感をかんじること。
そして､素朴でほんのり赤くい色づいた中に｢ホタル｣飛ぶ　萩の味と七変化と人は言う。
そんな器の下地の中に原料土の思いが、ひっそりこめられている。素人には知る由もないブレンドの魔術も・・・・
萩焼の窯元を気楽に訪ねるのも　また、もうひとつ萩焼を楽しむ魅力のひとつ。
周囲の自然をながめ、萩の器でコーヒーやお茶をいただきながら　焼き物の話に花を咲かせる。
そんな機会が器にさらに思い出を付け加えてくれる。
是非　一度　窯元・工房へも足をはこんでみられては・・・・・・。
今回の walk で　萩焼を見る目に当新しい見方が加わったのが、うれしい。次の機会が本当に楽しみです。
また、た、次回山口へ行ったときには　是非「大道土」の採掘現場を是非訪ねようと思っています。

萩焼の主要原料「大道土」の里を訪ねた後　色々インターネットで調べながら
By Mutsu Nakanishi

【 引 用 資 料 】　神谷雅晴 須藤定久「萩焼とその粘土」　www.gsj.jp/Pub/News/pdf/2001/07/01_07_04.pdf
【インターネット検索】　主要検索語 ： 萩焼　原料土　大道　大道土　鋳銭司　など